



高校生の自我像 - 「自分探し」をする高校生 -

要 約

第1章 調査の意図と調査対象者の属性

① 調査の意図

本調査は現代の高校生の自我像と悩みの実態を明らかにしようとしたものである。換言すれば、高校生の自分探しの様相とそれをめぐる教育のあり方を考察したものである。

② 調査対象

今回調査を実施したのは、3地域(東北・関東・九州 = 1都4県)の7つの公立高校の生徒たちである。学年は、1年生と2年生を対象にした。性別では、多少女子が多い(男子45%、女子55%)(p.9 表1-1)。

③ 学校差

さまざまな点で、高校間に違いがある。4年制大学や国公立大学への進学希望が一番高いのはD校(長崎県)。4年制大学への進学希望率が高いのはG校(埼玉県)、C校(熊本県)、F校(東京都)である。F校は規則が緩やかな自由な校風を特徴とする。E校(東京都)はアルバイトをしている生徒が多い。就職希望者は、A校(岩手県)とB校(岩手県)が多い。高校生の自我像と悩みには、学校差のある部分とない部分がある(p.10 表1-2)。

第2章 友人関係・学校生活・進路

① 友人関係

友人のタイプでは「休み時間や昼休みに話す友だち」が最も多い。女子にはさまざまな友人がいる。女子より男子に多いのは「勉強やスポーツでライバルの友だち」である。成績によっても、友人のタイプが異なる(p.12 表2-1)。

友人との会話では、「趣味のこと」(90.5%)の他にも、「人間や人生のこと」(54.1%)、「社会の出来事や政治のこと」(31.2%)なども話されている。また、性別・部活動・成績別でも、友だちと話す内容が違っている(p.13 表2-2)。

② 教師 - 生徒関係

「先生から人の生き方や人生について教えられることがある」は4割弱、「人の生き方について考えたり討論したりする授業がある」は1割程度の回答があった(p.14 図2-1)。

「学校へ行くのは楽しい」(65.9%)と感じるのは、友人の有無の他に、教師との関係による影響がある(p.17 表2-4)。

③ 他者との関係と自分への影響

さまざまな他者との出会いがない者の方が、ある者よりも、「自分を変えたい」と思う。そして、「今の自分が嫌い」であることが、最も「自分

を変えたい」と思わせる(p.19 表2 - 5)

④ 将来の不安と今の自分への不安

将来の不安は進路や就職と関連する(p.21 表2 - 6、表2 - 7) 将来に悲観的なイメージを持つ高校生ほど、今の自分について悩みが深い(p.23 表2 - 8)

第3章 高校生の思索と不安

① それなりに考えている高校生

「自分の人生について考えているか」に対し、肯定的な回答が8割(p.25 表3 - 1) また表2 - 1(p.12)によると、「人生や社会について語り合える友だちがいるか」に対し、「いる」と答えた者が9割弱に達している。さらに、「社会や政治のことを考えているか」に対し、肯定的な回答は4割強であった(p.25 表3 - 2) 全体として、今の高校生は、自分の人生についてはかなり考えているし、また、社会や政治についてもそれなりに考えているといえる。

② 思ったよりも日記を書いている

「日記を書いている高校生」は、全体で35.0%、女子では56.4%の高校生が日記を書いている(p.28 表3 - 6) 今の若者はものを書くのが苦手といわれるが、予想を超える数字ともいえよう。

③ 社会や人生への漠然とした不安

「ものごとをフィーリングで決める」に対し、肯定的な回答が88.6%。しかし、90.8%に上る高校生が、「何かを決めるとき、迷ってしまう」と回答している(p.31 表3 - 7) 「漠然とした不安を感じる」に対し、肯定的な回答が73.6%で、今の高校生がさまざまなストレスや不安を感じていることがわかった(p.32 表3 - 8) 「社会がだんだん悪くなっていくと感じる」に対し、肯定的な回答は63.5%であった(p.33 表3 - 10)

④ おとなの役割

おとなは高校生たちが人生や社会についていろいろ考える機会や情報の提供をする必要がある。社会に対する不安や将来に対する閉塞感を高校生に与えているおとなの責任を、もう一度考える必要性がある。

第4章 高校生の自分探し

「自分探し」という神話

① 少ない「今の自分が好き」

今の自分を好きとしている高校生は5割にも満たない(p.38 図4 - 1) そして、その自己肯定感、自分に自分らしさがあるかどうかという意識と関連している(p.39 表4 - 1) しかし、その自分らしさとは、「唯一本当の自己」というような自分らしさとは異なり、その場で可変的であり多元的なものと思われる(p.39 表4 - 2) また、このような自分らしさは、いわゆる自己拡散と同一ではなく、それ自体を否定的にみる必要は必ずしもない(p.40 ~ p.41 表4 - 3 ~ 6)

② 自己イメージのジェンダー差

女子では、ケア役割に沿うようなイメージを抱いている者が多い。それに対し男子は、競争社会に適応的な自分をイメージしている割合が高い。しかし、これまでの日本社会では女性に求められていたと思われる「やさしい」という性質は、男性にも強く求められるようになってきている(p.43 表4 - 7) これは、自己イメージに対する社会的・文化的な影響の強さと、その恣意性を明らかにしている。

③ 自分らしさを感じるとき

高校生が自分らしさを感じるに関し、自由記述の分析から主に4つのパターンを見いだすことができる。それは、「自分の好きなことに没頭しているとき」「友だちと一緒にいるとき」「部活動をしているとき」

「自分の考え方や行動が他人と違っていたとき」である。これは、その都度の好みによって選択された事柄に没頭する体験や、友人との選択的な関係の中で考え方などの差異が表面化する体験の重要性を示唆している。

第5章 高校生のキレやすさ

① さまざまな体験

「自分を完全に燃焼させた体験」(60.7%)、「身震いが起きるくらいの感動的な出来事」(59.5%)、「夜も眠れないくらいに気になる異性の存在」(45.0%)などのプラスの体験は、約半数以上の高校生にみられた。また「全幅の信頼を置く人物との出会い」が約6割(62.7%)で、「心底あこがれる先輩との出会い」(41.8%)、「心底あこがれる先生との出会い」(37.4%)は4割前後であった(p.51 表5 - 1)。

② 高校生のキレるとき

「キレル」は高校生の流行語になっているように思われているが、キレることが最も多い「自分は騒いでいないのに、先生から注意される」でもその割合は36.8%であり、実際にキレル場面は限定的のようであった。また「社会で悪いことをしている人がつかまらない」や「戦争で人がたくさん死んでいる」というマクロな社会的正義に対しても、約2割がキレル傾向がみられた(p.53 表5 - 2)。またキレルことへ影響を与えるものとしては家庭、学校が主であり、友だちの影響は少なかった(p.54~p.58 図5 - 1~9)。

③ メディア

高校に入ってから一番心に残ったメディアとしては、「映画」(19.7%)、「音楽」(17.4%)、「本や雑誌」(17.1%)などがみられた(p.59 表5 - 3)。例えば映画では、「アルマゲドン」や「タイタニック」により、親子や男女の愛

の深さに感動し気分を転換できたなどの影響がみられた。また音楽では、サザンオールスターズ、ゆず、19などの歌で、「自分にぴったりきた」「はげまされた」などの影響がみられた。

第6章 悩みの相談相手と癒し

① 気になること

多くの高校生は、試験の結果やファッション、友だちから信頼されているかなどを気にしている(p.66 表6 - 1)。

女子はファッションや自分の容姿・スタイルに、男子は性・異性関係に関心が高い(p.67 図6 - 1)。

試験の結果や性・異性関係、ファッションや容姿・スタイルなどは、学校の楽しさや成績にかかわらず高校生にとって気になる関心事である(p.68 表6 - 2、p.69 表6 - 3)。

過去の体験が悩みや不安に与える影響は大きい(p.70 表6 - 4)。

自己受容の低い者は、さまざまなことに關して気にすることが多い(p.71 表6 - 5)。

② 悩みの相談相手

どのような内容でも悩みの相談相手は、友だちが多い(p.74 表6 - 8)。

自己受容の高い者は、すべての項目で「友だち」に相談する割合が高く、逆に自己受容の低い者は「友だち」に相談する割合が低く「誰にも相談しない」割合が高くなっている(p.76 表6 - 10)。

③ 癒し

心が癒される「ホッとする場所」として、「自分の部屋」(75.3%)、「自分の家」(60.4%)、「自然」(46.4%)が多く、「教室」(10.6%)や「コンビニ」(5.1%)は少ない(p.77 表6 - 11)。

はじめに

「怒る」や「ふさぎ」の 消えた高校生

- 日韓高校生の比較調査を通して -

高校生を理解しにくい—————●

「高校生が変わった」という言い方は、ずっと繰り返されてきている。それだけに、こと新しく、「変わった」というつもりはない。そうはいうものの、高校生の心のうちを理解できないと感じる機会が増加している。そこで、高校生は何を感じているのか、心のうちを知りたいと思った。

これまで高校生の心情を語るときに、「怒る」とか「悩む」がついてまわった。若々しく、納得できないことを、怒りを持って抗議する。そうかと思えば、たいしたことでもないのに落ち込んでふさぎ込む。感情の起伏が激しく扱いにくいことは確かだが、それが青春の象徴で、喜怒哀楽の激しさなら、度合いが激しくても納得のできるものを感じる。

しかし、今の高校生は怒らなくなった。怒ってもいい場面なのに、怒る気配がない。そ

の反面、あからさまにふさぎ落ち込むことも少なくなった。感情の起伏が少なくなって、おだやかな生徒が増加している。もちろん、彼らを見ていれば、ムカついているのはわかるし、キレそうになっている表情もみられる。しかし、高校生の心情にこれまでと変わったものを感じる。

そうした感じは国際比較をすると理解しやすくなる。具体例をあげるなら、韓国を訪ね高校生に接すると、われわれが昔から持っているイメージに近い高校生に出会う。彼らはやる気があり、潔癖で、ストレートな表現をする。そうした高校生が多いのである。ソウルで、日本では忘れがちな昔ながらの高校生に出会う。

韓国の高校生は、どうして高校生らしさを残しているのか。機会があって、日韓高校生の比較調査を行った。その結果の一部を紹介して、韓国の高校生との対比の中で、日本の高校生を捉えてみたい。

高い進学率

韓国の教育に接すると、日韓の文化がそうであるように、日本との同質性と異質性を感じる。日韓はともに教育熱心な高学歴社会として知られる。生徒も学歴取得に意欲を燃やしている。しかし、進学意識に日韓の温度差が感じられる。そこで、実際の意識はどうか、日韓の高校生を対象として、大学受験についての比較調査を行ってみた。

日韓ともに進学校を調査対象としたので、難関大学志望者は日本が40%、韓国は41%に達する。また、4年制大学進学志望者もそれぞれ87%と90%である。

日韓ともに進学校のデータだが、進学へのこだわりは、日韓に開きが認められる。韓国の場合、「望みの大学へ入学するために、どんな苦労でもする」が83%に達するが、日本は53%にとどまる。さらに、「一浪してでも進学したい」も77%と61%と、日韓に16%の開きが認められる。

学歴評価に開き

韓国の高校生はどのように進学先にこだわるのか。高校生の80%は、志望校に入学できれば「希望する仕事につける」し、「高い収入を手にする」(61%)と、学歴の有効性を高く評価している。それに対し、日本の高校生の反応はそれぞれ68%と49%である。日本の高校生は難関大学を卒業しても社会的な達成は望み薄と感じているのがわかる。

何とかして難関大学に入学したい。そう考

えているので、韓国の高校生は真摯な態度で高校生活を送っている。一例をあげると、「授業にまじめに取り組んでいる」(57%)し、「宿題をやる」(61%)。自分を「努力型」(47%、「とても+わりとそう」の割合)だと思っている。それに対し、日本の高校生の態度は、それぞれ46%、45%、39%にとどまる。

日本の高校生にシラケ

図式化した要約を試みるなら、「意欲的に受験に取り組んでいる韓国」と「学歴に疑問を感じ、シラケ気味に受験する日本」である。正直に言って、どちらの高校生の方が望ましいのかは難しいが、韓国の高校生がまなじりを決して受験に臨んでいる態度に共感するものがある。しかし、望みをかなえられるのは一握りの若者であろう。それだけに、受験に挫折した多くの若者がその後どういう人生を送るのが気がかかる。

それに対し、日本の高校生の場合、学歴に疑問を抱き、「どこかの大学には入れそう」というような安堵感が認められる。それはいいのだが、生きる目標が見つからないまま、シラケた生活を送っている高校生が少なくない。若者らしく何かに挑戦するような意欲的な高校生活を送ってほしいと思った。

進学のしがらみから解放された。あるいは、進学が栄光のゴールと思えなくなった。といって、それに代わる目標を見いだしにくい。そういった状況が、日本の高校生のシラケを生んだのか。以下、日本の高校生の問題に戻って、考察を進めることにしたい。

第1章 ||||

調査の意図と 調査対象者の属性

1 調査の意図と調査内容

1) 調査の意図

17歳の少年の犯罪が相次ぎ、今の青少年の意識や行動、そして彼らを育ててきたこれまでの教育を問題視する人も少なくない。一方、殺人等の凶悪犯罪の率は青少年の中で増えていないことや日頃接する青少年の様子に、ことさら今の青少年の心のあり方を問題視する必要はないという意見もある。

高校生の時期（16歳～18歳）は、自我が成長し、人間関係の幅が広がり、将来の進路にも迷う時期である。彼らは生活を取り巻く環境の変化の中で、どのようなことに悩み、それをどのように解決しようとしているのであろうか。

高校生が悩むことは、自分の性格のこと、友人とのこと、授業や成績、部活動、進路や将来のことであろう。それぞれの分野でどのような悩みを抱えているかを、直接にあるいは間接的に質問した。それぞれの悩みの解決方法も尋ねている。

大きな悩みを抱えている生徒もいれば、悩みのない心穏やかな生徒もいる。その割合はどのようになっているのか。またその違いはどこから生まれるのか。家庭、友人関係、教師、学校、将来の展望等の要因との関連を明らかにした。また、高校生自身が自覚していない悩みの背景に関する考察も行った。

「近頃の高校生はものを考えない」ともいわれる。勉強に遊びに忙しい高校生はゆっくりものを考える余裕がないのであろうか。学校の授業の中に、生き方や社会について考えさせるものはないのであろうか。当の高校生の意見を聞き、高校の授業のあり方についても検討した。

悩みに関する自覚は、自我のあり方（自己像）と密接にかかわっている。高校生の時期は自我に最も関心の向かうときでもあり、「自分探しの時期」ともいわれる。悩みを自我や自分探しとの関連から考察を試みた。

「キレル」青少年が話題になるが、どのようなとき、キレルのか。どのような予防策、

解決策があるのかも探ってみた。

高校生の不安や悩みの相談相手が誰かも尋ねた。またメディアは高校生の心の問題にどのようなかわりをしているのであろうか。

現代の高校生の悩みと自我像（自分探し）の実態を明らかにし、その背後にある学校や社会、そしておとなのあり方を考察したのが、本報告書である。

2) 調査内容

以上のような問題意識から、次のような調査票の構成になっている。

①学校名、学年、性別、②友だちの存在、③友だちとの会話、④学校や先生のこと、⑤ものを考えない高校生、⑥自分のタイプ、⑦⑧自分らしさ、⑨日記、⑩感動体験、⑪不安感情、⑫キレるとき、⑬家族関係、⑭将来の進路の不安、⑮気になること、⑯相談相手、⑰安らく場所、⑱心に残っているメディア体験。

3) 調査時期・方法

調査時期は、2000年2月～3月である。

調査方法は、学校通しの集団自記方式。

2 調査対象者の属性

今回、調査を実施したのは、3地域（東北・関東・九州=1都4県）の7つの公立高校の生徒たちである。学年は、1年生と2年

生である。男女別では、多少女子が多い（男子45%、女子55%）（表1-1）。

表1-1 調査対象者の属性

(人)

		全 体	男 子	女 子	1 年	2 年
東 北	A校(岩手)	273	125	148	141	132
	B校(岩手)	295	148	147	141	154
九 州	C校(熊本)	296	143	153	149	147
	D校(長崎)	304	152	152	147	157
関 東	E校(東京)	164	82	82	0	164
	F校(東京)	184	95	89	184	0
	G校(埼玉)	310	76	234	157	153

さまざまな点で、高校間に違いがある。表1-2には、それぞれの高校の生徒の特質を示すデータを表示しておいた。

4年制大学や国公立大学への進学希望者が一番多いのは、D校（長崎県）である。学校の授業は役立つ、学校へ行くのが楽しいという生徒も一番多い。

4年制大学への進学希望者が多いのは、D校に続き、G校（埼玉県）、C校（熊本県）、F校（東京都）、E校（東京都）の順である。G校は規律に厳しいが、学校の授業は役立つという生徒がD校に次いで多い。F校は規則が緩やかで、自由な校風を特徴とする。E校

はアルバイトをしている学生が多い。

就職希望者は、A校（岩手県）とB校（岩手県）に多い。B校には、アルバイトをしている生徒が多い。両校とも、学校の規則の厳しさはほどほどで、学校へ行くのが楽しいという生徒は半数と少ない。

「自分の将来に希望が持てない」と考える高校生の率に、大きな学校差はない。どの学校にも2割程度いる。

このように悩みや不安には、学校差のある部分と学校差がない部分がある。この点にも注目して、以降考察したい。

表1-2 調査対象校の特質

(%)

学校記号	県	学校創立年	4大進学希望率	国公立進学希望率	就職希望率	アルバイト率	部活動参加率	学校の授業役立つ (とても+やや)	学校の校則厳しい (とても+やや)	学校が楽しい (とても+やや)
A	岩手	昭和23年	20.5	18.0	39.5	6.3	94.9	45.4	47.2	54.9
B	岩手	大正14年	9.6	3.1	34.4	49.0	96.8	40.9	59.3	51.1
C	熊本	昭和63年	62.1	46.4	3.9	1.1	64.7	46.6	70.6	64.2
D	長崎	明治33年	90.3	87.2	0.0	0.3	79.8	58.0	68.1	78.3
E	東京	明治44年	43.2	13.1	5.2	49.0	56.8	37.8	28.1	72.0
F	東京	大正13年	61.4	36.8	0.6	25.6	74.3	42.6	2.7	71.7
G	埼玉	昭和62年	62.8	35.3	3.8	13.2	74.7	55.2	75.4	72.7

第2章 ||||

友人関係・学校生活・進路

はじめに

悩みや不安を探るときに、何からみればよいのかは非常に難しい。本章では、高校生自身の回答から、高校生が考える悩みや不安を判断していく。調査者の設定した悩みや不安を、回答者である高校生がどう自らの感情に

照らし合わせているのが確認していく。

具体的には、高校生が人間関係という面で、どのような悩みを抱えているのかを中心に考える。そこで、友人関係・教師との関係の実態を考察し、それに自我(自分らしさ・私であること=アイデンティティの確立・変容・ゆらぎ)の関連をみていきたい。

1 友人・学校生活

1) 友人のプロフィール

高校生をとりまく人間関係をみていこう。まずは友人関係である。表2-1は、どのような友だちがいるかを性別・クラスの中での成績別にみたものである。

全体では、「勉強やスポーツでライバルの友だち」(68.3%)以外、他の質問の友だちについて80%以上が「いる」と回答している。特に、「休み時間や昼休みに話す友だち」は98.7%が「いる」と、本サンプルの高校生たちの大多数が回答している。

性別で見ると、女子の方が男子よりも友だ

ちが多い。「勉強やスポーツでライバルの友だち」のみ、男子(72.6%)が女子(64.8%)よりも「いる」と回答している。女子では「休み時間や昼休みに話す友だち」(99.3%)、「一緒にいて、疲れない友だち」(97.5%)、「困ったときに相談にのってあげられる友だち」(97.1%)、「困ったときに相談にのってくれる友だち」(96.9%)が95%以上もいる。

成績別で見ると、中・下位の者の方が、上位の者よりも友だちが多い。「人生や社会について語り合える友だち」は、「中」では89.5%が「いる」と回答しているが、「上」では80.8%と少ない。同じく、「自分の悪いとこ

るを気づかせてくれる友だち」でも、「中」では90.3%、「上」では83.3%である。一方、「勉強やスポーツでライバルの友だち」(「上」で71.6%、「中の上」で73.3%、「中」で71.1%)は下位よりも多い。

このように、彼らには友だちは大勢いるが、属性によってつきあう友だちのタイプが異なることがわかる。

2) 友人別による会話選択

次に、友だちとどのような会話をしているのかみていこう。圧倒的に話されているのは、「趣味のこと」「友だちのこと」「テレビ番組やタレントのこと」である。表2-2は、いくつかの属性別に、これらの話題選択に違いがあるかみたものである。

性別では、「勉強や入試のこと」「ファッションやオシャレのこと」「異性や恋愛のこと」

といったことが女子に多く話されている。なかでも「家族のこと」は、男子では28.3%が話すと回答するのに対し、女子では71.5%もの回答がある。男子がよく話しているのは「趣味のこと」である。

部活動加入状況によっても特徴がみられる。運動部に加入している場合、「趣味のこと」「友だちのこと」「テレビ番組やタレントのこと」を他に比べ、よく話す傾向がある。文化部に加入している場合には、「勉強や入試のこと」「先生のこと」「家族のこと」「人間や人生のこと」を他に比べ、よく話す傾向がある。部活動に以前加入していた生徒たちは、「ファッションやオシャレのこと」を話す。また、運動部・文化部にかかわらず、部活動に熱心に取り組んでいる生徒たちは、「社会の出来事や政治のこと」を熱心に取り組んでいない生徒たちよりも話している。

表2-1 友だちがいる割合 × 性・成績

(%)

	全 体	性 別		成 績				
		男 子	女 子	上	中の上	中	中の下	下
休み時間や昼休みに話す友だち	98.7	97.9	99.3	97.4	99.5	99.6	98.0	98.1
一緒にいて、疲れない友だち	95.6	93.2	97.5	93.6	96.3	97.3	95.8	91.7
困ったときに相談にのってくれる友だち	93.1	88.4	96.9	88.5	94.8	95.2	91.6	92.7
困ったときに相談にのってあげられる友だち	93.0	88.0	97.1	89.7	93.7	94.9	92.3	92.1
体育着や外出着を貸し借りできる友だち	89.7	86.7	92.1	84.6	88.5	91.6	89.1	91.7
親友といえる友だち	89.1	88.6	89.5	86.5	88.5	91.5	87.3	90.2
自分の悪いところを気づかせてくれる友だち	88.1	85.1	90.5	83.3	89.2	90.3	87.6	87.3
人生や社会について語り合える友だち	87.4	80.5	93.0	80.8	91.4	89.5	84.4	86.3
うわべだけのつきあいの友だち	85.4	80.9	89.0	84.6	84.3	87.9	84.2	83.3
勉強やスポーツでライバルの友だち	68.3	72.6	64.8	71.6	73.3	71.1	64.7	62.1

「いる」割合は最大値

表2-2 友だちと話すこと × 性・部活動・成績

(%)

	全 体	性 別		部 活 動							成 績				
		男 子	女 子	運動部熱心	運動部非熱心	文化部熱心	文化部非熱心	以前入っていた	入ったことがない	その他	上	中の上	中	中の下	下
趣味（音楽、スポーツ、ゲームなど）のこと	90.5	95.5	86.4	93.7	90.3	86.6	88.4	89.7	89.2	95.0	86.4	89.8	89.5	92.8	91.7
友だちのこと	90.0	86.3	93.1	93.7	88.8	92.5	88.4	86.6	86.7	85.0	85.9	90.6	91.6	88.3	91.1
テレビ番組やタレントのこと	86.9	84.5	88.8	90.1	87.9	82.4	85.1	85.9	80.7	90.0	80.8	86.9	88.4	88.9	84.4
勉強や入試のこと	81.2	73.4	87.5	81.6	75.6	86.6	84.4	80.9	79.5	85.0	82.7	88.0	84.0	77.0	72.9
異性や恋愛のこと	76.6	70.3	81.8	79.3	76.4	72.2	78.8	77.2	66.3	75.0	71.2	75.4	76.7	76.0	82.9
ファッションやオシャレのこと	74.6	64.1	83.1	73.2	75.3	72.2	74.8	77.1	72.3	68.4	65.4	73.1	77.5	72.8	77.1
先生のこと	73.3	68.7	77.0	75.1	68.8	79.7	78.1	66.8	75.9	75.0	73.1	76.5	78.2	68.7	69.1
将来の進路のこと	70.8	61.7	78.1	71.1	69.8	76.9	69.5	72.1	66.3	70.0	69.2	74.5	73.7	68.3	66.6
人間や人生のこと	54.1	48.9	58.5	52.8	50.3	63.6	60.6	55.0	42.2	55.0	51.6	59.3	49.7	54.2	58.5
家族のこと	52.1	28.3	71.5	45.0	48.2	65.2	65.6	49.6	47.0	55.0	52.6	56.8	54.8	49.5	45.9
社会の出来事や政治のこと	31.2	32.4	30.2	34.4	27.1	39.0	27.5	30.8	31.3	35.0	37.2	33.7	32.6	28.2	28.3

「よく」+「ときどき」話す割合
○は最大値

成績別では、中よりも上の方だと回答する生徒たちに、「勉強や入試のこと」「将来の進路のこと」「家族のこと」がよく話されている。一方、下の方だと回答する生徒たちは、「趣味のこと」「テレビ番組やタレントのこと」「異性や恋愛のこと」をよく話している。一見すると、成績が下の方の者は、お互いが感じる人生や不安を話し合ったりしないのではないかという印象を受ける。しかし、成績が「下」の層でも、「人間や人生のこと」を、6割近くが話している(58.5%)。必ずしも、友人たちとあたりさわりのない軽い内容の会話だけをしているわけではない。

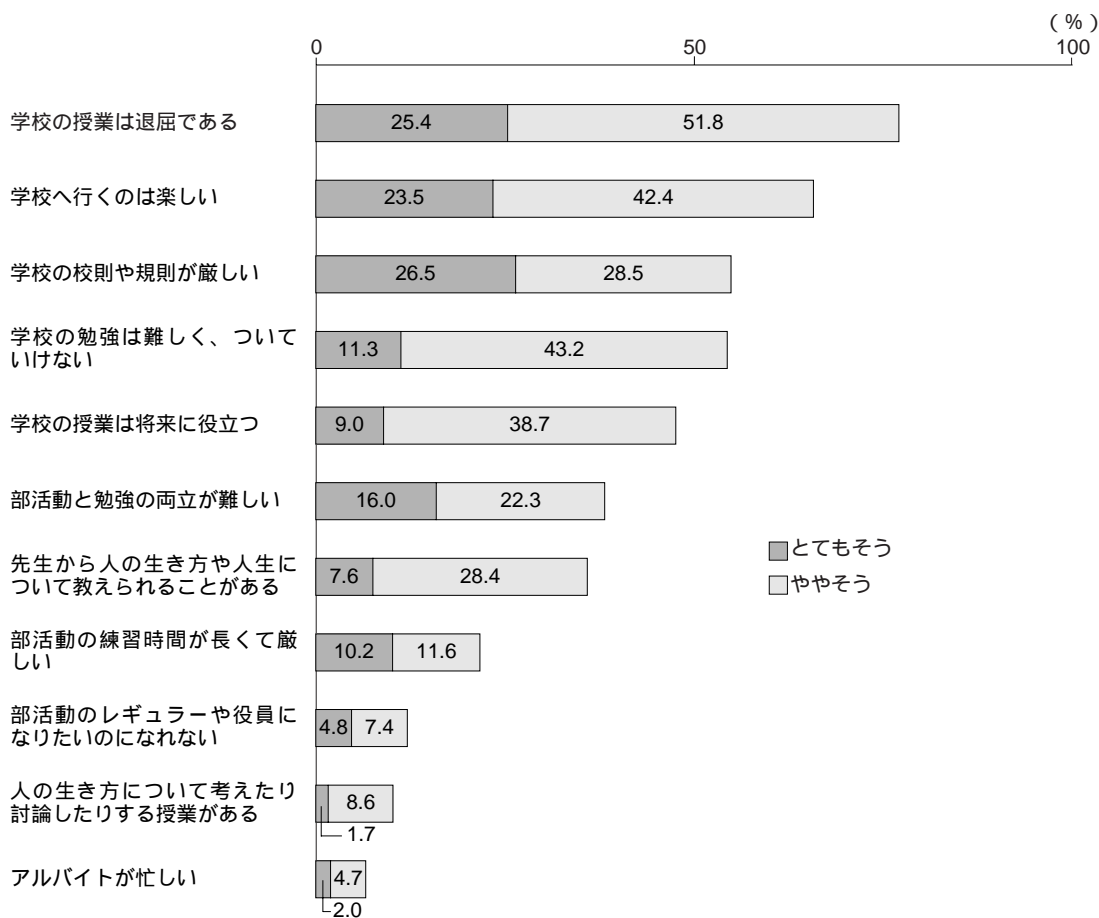
このように、高校生はさまざまな話を友人

としている。そして、彼らの属性によって話題の違いがある。彼らは自分が準拠する集団の中で、何を会話の中心とするか敏感に察知している。彼らなりに「適した話題」を選び、友人関係をつくりだしているといえよう。

3) 教師との関係

次に、教師との関係についてみていこう。学校生活には、友人関係だけではなく、教師との関係もある。教師との関係は、高校生にとって、年齢の離れた「おとな」と接することでもある。担任の先生からの生活指導、教科の先生との授業、部活動顧問の先生といった、同世代の仲間とは違った「おとな」との関係がつくりだされてもいるはずだ。

図2 - 1 学校でのこと



学校でのことを尋ねた項目の中で教師関係(図2 - 1)をみると、「先生から人の生き方や人生について教えられることがある(とてもそう+ややそう)」というのは、全体で36.0%いる。また、「人の生き方について考えたり討論したりする授業がある」は10.3%である。

この教師関係に加えて、学校生活に関する意識を高校別にみたものが、表2 - 3である。この意識は生徒が抱く自分の学校イメージと判断できよう。特徴のある項目をみると、「先生から人の生き方や人生について教えられることがある」のは、F校(45.3%) D校(41.8%) G校(40.1%)で40%以上が「そう」と回答している。「人の生き方について

考えたり討論したりする授業がある」のは、F校(17.6%) E校(16.8%)に15%を超える回答がある。

また、「学校の授業は退屈である」のは、B校(88.4%) A校(86.4%)に多い。「学校の校則や規則が厳しい」のは、G校(75.4%)に最も多く、E校(2.7%)と比べて70%以上の差がある。「部活動の練習時間が長くて厳しい」のは、G校(40.0%)に多いという結果であった。

教師との関係については、各高校ごとにそれぞれ異なったイメージがあらわれる。同時に、各調査校の特徴が生徒の目を通して、はっきりとみえてきた。

表2 - 3 学校でのこと × 学校

(%)

	全 体	A 校	B 校	C 校	D 校	E 校	F 校	G 校
学校の授業は退屈である	77.2	86.4	(88.4)	85.0	50.0	74.5	78.7	82.5
学校へ行くのは楽しい	65.9	51.0	72.0	54.9	(78.3)	71.7	64.2	72.7
学校の校則や規則が厳しい	55.0	59.3	28.0	47.3	68.1	2.7	70.6	(75.4)
学校の勉強は難しく、ついていけない	54.5	52.2	54.3	46.5	49.3	54.3	60.8	(63.0)
学校の授業は将来に役立つ	47.7	44.0	33.3	48.5	58.0	47.3	(61.0)	53.3
部活動と勉強の両立が難しい	38.3	41.0	37.8	45.4	(57.9)	42.6	46.6	55.2
先生から人の生き方や人生について教えられることがある	36.0	31.2	30.5	25.7	41.8	32.2	(45.3)	40.1
部活動の練習時間が長くて厳しい	21.8	27.5	26.1	33.8	22.4	17.7	33.0	(40.0)
部活動のレギュラーや役員になりたいのになれない	12.2	13.5	11.2	12.3	(25.7)	11.0	21.6	13.5
人の生き方について考えたり討論したりする授業がある	10.3	9.6	10.4	2.6	7.6	16.8	(17.6)	9.4
アルバイトが忙しい	6.7	0.7	(27.5)	3.7	0.3	16.1	2.9	8.2

「とても」+「やや」その割合
 ○ は最大値 □ は最小値

4) 学校へ行く楽しみと友人・教師関係

それでは、学校へ行くことの楽しみを引き出す要因には何があるのだろうか。生徒たちは学校で、何に楽しみを感じているのか。これを表2 - 4であらわしてみた。どのような質問回答をした生徒に、「学校へ行くのは楽しい(とても+ややそう)」と回答する割合が多いかをみたものである。

「先生から人の生き方や人生について教えられることがある」生徒の75.2%、「学校の授業は将来に役立つ」と感じる生徒の71.9%が、学校が楽しいと感じる。先生や授業に充実感を得ることで、学校へ通う意欲が高まっていくと解釈できよう。

また、友人関係でも、通学の楽しみは変わってくる。「勉強やスポーツでライバルの友だちがいる」(71.7%)、「自分の悪いところを

気づかせてくれる友だちがいる」(69.1%)などによっても、学校へ通うことを楽しいという。反対に、「休み時間や昼休みに話す友だちがいない」と、学校へ通うことが楽しいと思うのは、わずか12.5%である。友だちがいないことがもたらす重要性も同時に考えさせられる結果となった。

このように、生徒に学校へ行く楽しみを与えるには、友人の有無といった関係のみならず、先生の授業への取り組む姿勢が鍵を握る。例えば、生徒が関心を寄せる話をすれば、授業について退屈になることも防ぐことができるのではないか。すると、「先生との親密な関係 興味のある授業 学校に行くのが楽しい」という結果にもつながるだろう。もちろん、授業を意味あるものとするためには、生徒側の意識改革も必要ではあるが、先生側による努力もある程度求められよう。

表2 - 4 学校へ行くのは楽しい(「とても+ややそう」の割合) × 学校でのこと

(%)

	学校へ行くのは楽しい					差
	そう	(76.5)	>	64.8	そうでない	
人の生き方について考えたり議論したりする授業がある	そう	(76.5)	>	64.8	そうでない	11.7
先生から人の生き方や人生について教えられることがある	そう	(75.2)	>	61.0	そうでない	14.2
学校の授業は将来に役立つ	そう	(71.9)	>	60.3	そうでない	11.6
勉強やスポーツでライバルの友だち	いる	(71.7)	>	53.1	いない	18.6
自分の悪いところを気づかせてくれる友だち	いる	69.1	>>	41.4	いない	27.7
親友といえる友だち	いる	69.0	>>	39.9	いない	29.1
困ったときに相談にのってくれる友だち	いる	68.5	>>>	31.2	いない	37.3
困ったときに相談にのってあげられる友だち	いる	68.1	>>>	35.7	いない	32.4
一緒にいて、疲れない友だち	いる	67.8	>>>>	25.9	いない	41.9
人生や社会について語り合える友だち	いる	67.8	>	53.3	いない	14.5
体育着や外出着を貸し借りできる友だち	いる	67.6	>	51.3	いない	16.3
休み時間や昼休みに話す友だち	いる	66.6	>>>>>	12.5	いない	54.1
うわべだけのつきあいの友だち	いる	66.2		63.9	いない	2.3
学校の勉強は難しく、ついていけない	そう	61.9		(70.7)	そうでない	8.8

そう = 「とても」 + 「やや」 そう そうでない = 「あまり」 + 「ぜんぜん」 そうでない
 > 10%以上 >> 20%以上 >>> 30%以上 >>>> 40%以上 >>>>> 50%以上 差があるもの
 ○ は70%以上

2 人との出会いが私に与えるインパクト ―

1) 人との出会い

友人・教師関係でみてきたように、学校での人間関係は高校生にとって欠かせないものである。逆に、そこでの関係がうまくいかないようなことがあった場合には、多くの問題が生じる。すると、学校での関係のあり方によって、彼らの自我形成にも多大な影響が及ぼされていくものと考えられる。

私見であるが、我々はいろいろな他者と接することによって、自分という存在を見つめ直したり、問い返したりする。他者との接触を通して、自分に足りないところを得るためにその相手のよい部分を見習ったり、また反対にその相手を反面教師として参考にしたりする。他者との関係によって、自分と社会とのかかわりを一歩でも深める。それが学ぶということにつながっていくだろう。人は多くの他者との出会いを経験すればするほど、より一層自分を考えるよい機会を得ていくはずである。

それでは、今の高校生たちがいろいろな他者との出会い(これまでの経験や実態)によって、自分をどう考えるようになるのだろうか。他者が高校生に与えたインパクトとはいったい何なのだろう。

2) 自分が嫌いだから自分を変えたい

そこで、他者のインパクトを考える指標として、「今の自分を変えたい」という質問をみていく。それは、多くの人と接触した結果、

自分自身を高めていこう(「そう思う(とても+まあ)」が多くなる)と捉えていると考えたからである。

しかし、いろいろな他者との出会いが自分を「変えたい」と思わせていないという結果があらわれた(表2-5)。前述でのこちらの想定とは異なって、他者との出会いが「ない」と思っている生徒たちの方が「自分を変えたい」と考える。父親と「話さない」「全幅の信頼を置ける人物との出会い」が「なかった」生徒が、自分を「変えたい」と思う。

これはまた、他者の存在以上に「今の自分が嫌い」と思う84.9%が、「自分を変えたい」という(一方、「今の自分が好き」では52.2%)他者との関係や存在とは分離して、自分自身についての意識が背景にあるようだ。

学校に関する項目においても、「自分を変えたい」は、部活動・校則への感じ方で左右される。それに比べて、教師関係についての影響は大きくない。「人の生き方について考えたり討論したりする授業」があったとしても、なかったとしても、「自分を変えたい」は左右されない。このように高校生の「自分を変えたい」意識は、他者とのかかわり・自己とのかかわりを消極的に捉えていることが反映されている。その結果、彼らが興味を持っている「現在の」目先の欲求を満たしてくれるかどうかが大切なのである。自分を考えるにあたって見据える視野が狭いのではないだろうか。これは極めて限定的な意識ともいえよう。

表2 - 5 自分を変えたい(「とても+まあそう思う」割合) × 人とのかかわり・学校生活

(%)

		今の自分を変えたい		差
人とのかかわり	今の自分が好きだ*1	52.2	<<< (84.9) 今の自分が嫌いだ	32.7
	彼氏(彼女)ができなくて気になる*2	(74.8)	> 65.0 彼氏(彼女)ができないのを気にしない	9.8
	父親といろいろ話す*3	65.6	< (72.3) 父親といろいろ話さない	6.7
	全幅の信頼を置ける人物との出会いがあった	66.5	< (72.9) 全幅の信頼を置ける人物との出会いがなかった	6.4
	母親といろいろ話す*4	69.9	65.4 母親といろいろ話さない	4.5
	休み時間や昼休みに話す友だちがいる	69.0	66.7 休み時間や昼休みに話す友だちがいない	2.3
	心底あこがれる先輩との出会いがあった	69.7	68.5 心底あこがれる先輩との出会いがなかった	1.2
	心底あこがれる先生との出会いがあった	68.6	69.2 心底あこがれる先生との出会いがなかった	0.6
学校生活	部活動のレギュラーや役員になれない*5	(79.2)	>> 68.3 部活動のレギュラーや役員になれる	10.9
	学校の校則や規則が厳しい	(73.1)	> 64.0 学校の校則や規則が軽い	9.1
	学校へ行くのは楽しい	66.4	< (74.0) 学校へ行くのはつまらない	7.6
	部活動と勉強の両立が難しい	(72.6)	> 66.9 部活動と勉強の両立が容易	5.7
	学校の授業は退屈である	(70.0)	65.6 学校の授業は退屈ではない	4.4
	人の生き方について考えたり討論したりする授業がある	65.2	69.4 人の生き方について考えたり討論したりする授業がない	4.2
	先生から人の生き方や人生について教えられることがある	(70.8)	67.9 先生から人の生き方や人生について教えられることがない	2.9

> 5%以上 >> 10%以上 >>> 20%以上差があるもの
 ○ は70%以上

- *1「とても」+「まあ」そう思う割合
- *2「とても」+「わりと」気になる割合
- *3「よく」+「ときどき」ある割合
- *4「よく」+「ときどき」ある割合
- *5「とても」+「やや」そうの割合(以下同)

3 自分への心のゆらぎと将来への不安

1) 将来、何をしたらいいのか

視野は狭いのではないかといいつつも、将来のことを尋ねてみると、そこには不安や悩みは多い。自分の将来に希望が持てないと回答する割合も多い(図2-2)。

「将来の就職がうまくいくか心配」と感じるものが「ある(よく+ときどき)」(82.0%)、「将来、何をしたらいいのか迷う」(同75.8%)、「大学受験がうまくいくか心配」(同66.2%)、「日本社会の将来に希望が持てない」(同54.9%)、「自分の将来に希望が持てない」(同53.8%)が、全体で50%以上の回答となった。

「自分の将来に希望が持てない」と回答(そう感じるものが「よく+ときどきある」)する者は、他の不安や悩みを尋ねた項目についても同意する割合が、希望があると回答(そう感じるものが「あまり+ぜんぜんない」)する者に比べて高い。これを表2-6で示した。将来、何をしたらよいか迷い、将来の就職がうまくいくか心配し、日本社会の将来に希望が持てないと考える。自分の将来への希望を悲観的にみている。これは各項目の関連性を表した相関係数の値の大きさをみてもわかる(表2-7)。

図2-2 将来の悩みや不安

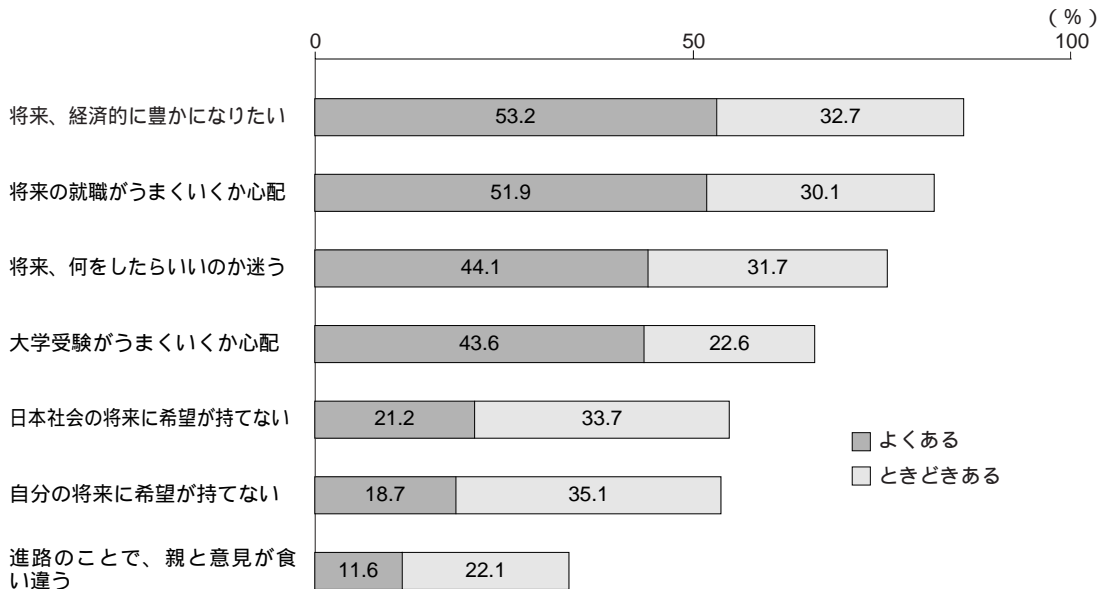


表 2 - 6 自分の将来に希望が持てない(「よく + ときどきある」割合) × 将来の悩みや不安 (%)

	自分の将来に希望が持てない					差
	ある				ない	
将来、何をしたらいいのか迷う	ある	(88.3)	>>>	61.2	ない	27.1
日本社会の将来に希望が持てない	ある	65.6	>>>	42.6	ない	23.0
将来の就職がうまくいくか心配	ある	(90.7)	>>	71.9	ない	18.8
大学受験がうまくいくか心配	ある	72.0	>>	59.3	ない	12.7
進路のことで、親と意見が食い違う	ある	39.1	>>	27.5	ない	11.6
将来、経済的に豊かになりたい	ある	(89.6)	>	(81.5)	ない	8.1

ある = 「よく」 + 「ときどき」ある ない = 「あまり」 + 「ぜんぜん」ない
 > 5%以上 >> 10%以上 >>> 20%以上差があるもの
 ○ は80%以上

表 2 - 7 相関関係 将来の悩みや不安(セル内の数値が高いほど、質問間に関係がある)

	将来、何をしたらいいのか迷う					
進路のことで、親と意見が食い違う	0.223	進路のことで、親と意見が食い違う				
大学受験がうまくいくか心配	0.149	0.055	大学受験がうまくいくか心配			
将来の就職がうまくいくか心配	0.277	0.118	0.424	将来の就職がうまくいくか心配		
将来、経済的に豊かになりたい	0.168	0.061	0.108	0.256	将来、経済的に豊かになりたい	
日本社会の将来に希望が持てない	0.138	0.092	0.126	0.213	0.116	日本社会の将来に希望が持てない
自分の将来に希望が持てない	0.441	0.164	0.193	0.377	0.184	0.262

■ 相関係数は 1%水準で有意(両側) — は0.2以上
 □ 相関係数は 5%水準で有意(両側)

2) 現時点での自分への不安

それでは、彼らが抱える悩みや不安を「迷い」を手がかりに考えてみよう。図2 - 2で示したように、「将来、何をしたらいいのか迷う」ことが「よくある」割合は、全体で44.1%いる。その迷いの背景は一体何なのか。ここで再度、第2節の「自分を変えたい」と思うかどうかでも考察したように、他者との関係によって、自分が感じる不安を緩和させたり、減少させたりする効果があるのか、将来の迷いといった個々人の内面に、他者の影響はどのくらいあるのかをみた。

しかし、表2 - 5の結果と同じく、将来の悩みに影響を与える可能性として、他者の影響はそれほど強くない(表2 - 8)。これは表中にある「差」の値が小さいことから判断できる。ただし、「休み時間や昼休みに話す友だち」の影響がみられる(「いない」と回答した者では54.2%が将来に不安を感じているのに対し、一方、「いる」と回答した者では44.0%)。

3) 他の誰よりも私のことを私が理解しなければならぬ価値観

表2 - 8より、自分の将来の迷いと強い関連があるのは、他者との関係の側面よりも、むしろ〔今の自分〕をどう感じるかである。自己イメージについては、いくつか類似した質問項目ではっきりとあらわれた。「自分がどんな人間かわからなくなることがある」の48.9%、「今の自分を変えたい」の48.3%、「自分には自分らしさというものが無いと思う」の52.2%、「状況によってでてくる自分というものは違う」の48.1%、「今の自分が嫌い」の49.2%の高校生が、将来に何をしたらいいのか迷っている。

この結果より、将来の不安や悩みは、現在の高校生が自分自身に感じていることと関連している。これは、彼らがこれまでさまざまな他者と築き上げてきた(もちろん現在進行中の関係も含まれるが)関係などの影響以

上である。

〔今の自分〕について「理解できている/できていない」が、将来への不安や迷いを導く。それではなぜ、〔今の自分〕について彼らは敏感になってしまうのだろうか。断言できないが、〈自分らしさ=私という個性が大切である〉を常に要求する社会の風潮があるからではないかと思われる。日常のいろいろな場面で、我々は〈自分らしさ〉をアピールさせられている。自己紹介などの場面で、相手に自分をうまく伝えられるかどうか心配することも多々ある。また、書店では、プレゼンテーション・自己表現に関するマニュアル本が数多く並んでいる。このように、〈自分らしさ〉をアピールするべく知らず知らずのうちに周囲から煽られている。この風潮の中、便乗してしまう人が多いのも仕方ないことかもしれない。

ともあれ、さまざまな他者と接触するにも、相手に〈自分らしさ〉を提示していくことが重要視される。この〈自分らしさ〉提示の効果は、他者である相手に私の情報を与えるものだけではない。自己に対しても、自分が自分のことをどれだけ知っているかを絶えず考えさせていく。例えば、相手と接する場面では、「私はこの人にちゃんと私(=自分らしさ)のことを伝えているのだろうか」と、他者の視線を自己に強く意識する。この強い自己意識が日常的になると、他者とのかかわりで求められる“礼儀作法”には、自分のことすらわからない人間が他者と接するのは無礼・失礼(そういうのは「よくない」こと)であるという暗黙の価値観が含まれていく。

この価値観の中にいると、現時点での〈自分らしさ〉を理解できない人は、「将来もこのまま自分自身を理解できないのではないか」という短絡的な思考に走る。〈自分らしさ〉を重視し、社会の雰囲気にも乗り遅れたと感じた者は、自分に対して、社会に対して、未来や希望に悲観する。

〈自分らしさ〉が社会的に価値を持つ以上、他者とのコミュニケーションが、これま

でに増して自分中心に傾いていくのも必然的になる。そして、すでに自分中心の社会関係の意識を知っていながらも、いまだそれへの適応に戸惑ってしまう人々が多くいる。

現代では、相手あっての関係という意識はすでに崩壊しつつある。それよりも、<自分らしさ>が導く“望ましい”他者関係を追求しようと努力する。だからこそ、相手の存在への感覚は弱まり、代わって、<自分らしさ>や〔今の自分〕が何なのかをわかろうと必死になる。

だからなのか、本調査結果のように、〔今の自分〕に<自分らしさ>があることを認め

た高校生は、明るい将来への希望を持つ。だが、これもまた〔今の自分〕を理解しなければならないという風潮に拍車をかけるおそれがある。将来に希望を持つためには、〔今の自分〕をわからなければならないという教えが強化される可能性もあるからだ。

わずかであるが、最後に補足しておきたい。将来と〔今の自分〕に距離をおくために、ときには、あえて「自分を忘れる」という方法を取れないものだろうか。自分を知ろうと真剣に考えすぎることも、ときには自分によくない場合もある。根をつめない程度にしてほしいと私は思う。

表2 - 8 将来、何をしたらいいのか迷う(「よくある」割合)

× 今の自分・人とのかわりについて

(%)

	将来、何をしたらいいのか迷う					差
漠然とした不安を感じること*1	ある	(48.3)	>>	32.7	ない	15.6
自分がどんな人間かわからなくなることがある	そう思う	(48.9)	>>	34.2	そう思わない	14.7
今の自分を変えたいと思う	そう思う	(48.3)	>>	34.9	そう思わない	13.4
自分には自分らしさというものがあると思う	そう思う	39.7	<<	(52.2)	そう思わない	12.5
状況によってでてくる自分というものは違う	そう思う	(48.1)	>>	37.0	そう思わない	11.1
今の自分が好きだ	そう思う	38.8	<<	(49.2)	そう思わない	10.4
休み時間や昼休みに話す友だち	いる	44.0	<<	(54.2)	いない	10.2
うべだけのつきあいの友だち	いる	(45.4)	>	37.4	いない	8.0
勉強やスポーツでライバルの友だち	いる	41.7	<	(49.6)	いない	7.9
全幅の信頼を置ける人物との出会い	あった	41.7	<	(48.1)	なかった	6.4
学校の授業は将来に役立つ	そう	40.8	<	(47.1)	そうでない	6.3
親友といえる友だち	いる	43.5	<	(49.5)	いない	6.0
彼氏(彼女)ができない	気になる	(47.6)	>	41.6	気にならない	6.0
親に自分への関心を持ってほしいと思うこと*2	ある	(48.6)	>	42.9	ない	5.7
先生から人の生き方や人生について教えられることがある	そう	(47.7)	>	42.3	そうでない	5.4
人生や社会について語り合える友だち	いる	(44.8)	>	39.5	いない	5.3
心底あこがれる先生との出会い	あった	41.5		45.7	なかった	4.2
困ったときに相談にのってくれる友だち	いる	43.9		48.0	いない	4.1
自分の悪いところを気づかせてくれる友だち	いる	43.8		47.7	いない	3.9
体育着や外出着を貸し借りできる友だち	いる	44.5		41.0	いない	3.5
心底あこがれる先輩との出会い	あった	42.9		45.0	なかった	2.1
困ったときに相談にのってあげられる友だち	いる	44.3		43.2	いない	1.1
一緒にいて、疲れない友だち	いる	44.1		44.4	いない	0.3

*1 ある = 「よく」 + 「ときどき」ある ない = 「あまり」 + 「まったく」ない
 そう思う = 「とても」 + 「まあ」そう思う そう思わない = 「あまり」 + 「まったく」そう思わない
 そう = 「とても」 + 「やや」そう そうでない = 「あまり」 + 「ぜんぜん」そうでない
 気になる = 「とても」 + 「わりと」気になる 気にならない = 「あまり」 + 「ぜんぜん」気にならない
 *2 ある = 「よく」 + 「ときどき」ある ない = 「あまり」 + 「ぜんぜん」ない
 > 5%以上 >> 10%以上差があるもの () は最大値(5ポイント以上の差)

第3章 ||||

高校生の思索と不安

「今の若者（高校生）はものを考えない」よくいわれる言葉である。しかし、青年期の中期にあたる高校生、自分自身の内面へ、さらには自分を取り巻く社会へと、考える目を向けていく時期でもあるはずである。今の高校生は、本当にものを考えない世代なのだろうか。

高校生と学校で日頃接していると、確かに、彼らの日常における興味関心の中心は、勉強や進路、友人関係や部活動など学校生活に関する事、あるいは趣味やファッション、オシャレなどに関する事であり、また昔に比べ本を読まなくなっていることも感じる。

しかし一方、授業などで、社会や人生のことについて接したり考えたりする機会が与えられると、思いのほか強い関心を示す場合もある。きっかけさえあれば、社会や人生について、素直に興味関心を示し、またまじめに意見を言ったり文章を書いたりする面をもみせるのである。今の高校生は、それなりにしっかりとものを考えているのではないだろうか。

本章では、今の高校生が社会や人生についてどれくらい考えているのかを探るとともに、現代の社会をどう感じているか、合わせて検討してみたい。

1 それなりに考えている高校生

1) 自分の人生についてはけっこう考えている

「高校生は、自分の人生についてはけっこう考えているのではないか」、今回の調査結果からみえてくる高校生の1つの姿である。今の若者はあまりものを考えないのではない

か、といった言葉をよく耳にする。しかし、大多数の高校生は、自分の人生についてはいろいろと考えているようである。

表3-1をみてみよう。他者としての高校生についても、また自分自身についても、「けっこう自分の人生について考えているか」という問いに対し、「かなりそう思う」と

「少しそう思う」を加えた肯定的な回答は、それぞれ80.7%、80.5%と、いずれも80%を超える高い数字を示している。また、中学時代との比較は、成長段階としていろいろともを考える高校生時代を浮き彫りにしようとしたものであるが、やはり肯定的な回答は81.0%と、80%を超える高い数字を示していた。

また表2-1 (p.12)によると、高校生の87.4%は、「人生や社会について語り合える友だち」がいると回答しており、このことから、人生についてけっこう考えている高校生の姿が浮かび上がってくるといえよう。

自分の人生であるから、高校生ともなれば考えて当たり前ともいえる。しかし、時としてマスコミなどが描く、目先のことや、趣味、ファッションやオシャレなどにしか興味関心が無いというイメージとは違った、自分の人生についてまじめに考えている高校生の姿を捉えることができるのではないかと。

2) 社会や政治について考えていないわけではない

次に、今の高校生が、社会や政治についてどれくらい考えているかをみてみよう。さすがに、社会や政治のことになると、自分の人生とは違って考える比率は低くなる。

表3-2をみてみよう。他者としての高校生についても、また自分自身についても、「けっこう社会や政治のことを考えているか」という問いに対し、「かなりそう思う」と「少しそう思う」を加えた肯定的な回答は、それぞれ45.4%、41.2%という結果になった。

この数字を高いとみるか低いとみるかについては、論が分かれるかもしれない。しかし、今の高校生は、それほど積極的に社会や政治について考えているわけではないが、それなりに考えているといえるのではないかと。さまざまな情報や商品があふれ、おとなの世界で

表3-1 自分の人生について考えているか

(%)

	かなり そう思う (そう)	少し そう思う (そう)	あまり そう思わない (そうでない)	ぜんぜん そう思わない (そうでない)
今の高校生も、けっこう自分の人生について考えている	34.0	46.7	15.6	3.8
	80.7			
自分は、けっこう自分の人生について考えている	40.0	40.5	16.4	3.0
	80.5			
自分は、中学生の頃と比べると、ずいぶんもの考えるようになった	42.2	38.8	15.8	3.3
	81.0			

表3-2 社会や政治のことを考えているか

(%)

	かなり そう思う (そう)	少し そう思う (そう)	あまり そう思わない (そうでない)	ぜんぜん そう思わない (そうでない)
今の高校生も、けっこう社会や政治のことを考えている	7.7	37.7	42.0	12.6
	45.4			
自分は、けっこう社会や政治のことを考えている	9.4	31.8	44.6	14.2
	41.2			

さえ人々の政治離れがいわゆる今日、肯定的な回答41～45%は、それほど低い数字ではないと思える。今の高校生は、政治や社会についても、それなりに考えようとしているといえるのではないか。

3) 高校生はどんなふうに考えているのか

さて、以上の考察から、人生や社会についてそれなりに考えている高校生像を捉えることができた。次に、人生や社会についてどのように考えているのか、もう少し詳しく検討してみよう。

表3-3をみてみよう。ここでは、社会や人生について、友だちやおとなとしゃべる機会があるかを尋ねてみた。今の高校生は社会や人生について、友だちと話す機会はけっこうあると答えている（肯定的回答74.3%）。また、おとなの前でしゃべる機会もそれなりにあるようだ（肯定的回答47.0%）。しかし一方で、社会や人生について、自分が積極的にしゃべる方だと考えている高校生は30.6%にすぎない。このような結果から、社会や人

生について自分がよくしゃべる方だとは思っていないが、現実には友だちと話す機会はけっこう多く持っている高校生の姿をみることができよう。

次に、高校生たちがおとなをどう捉えているかをみてみよう。表3-4によると、「おとなたちも、あまりものを考えていない」という問いに対し、「かなりそう思う」と「少しそう思う」を加えた肯定的な回答は、76.4%になった。高校生の4分の3は、おとなたちはあまりものを考えていないと思っている。よくいわれる「今の高校生はあまりものを考えない」という問いかけに対して、それなりに社会や人生について考えている高校生が、おとなたちこそものを考えていないのではないかという厳しい反論を投げ返しているともいえるのである。

最後に、男女間の差をみてみよう。表3-5によると、人生や社会のことを考えることについて、男女の間でその差はほとんどみられなかった。自分の人生については、多少女子の方が考えている傾向があるが、総じて、男女間の差はほとんどみられなかった。

表3 - 3 社会や人生をどれくらい話題にするか

(%)

	かなり そう	少し そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
自分は、社会や人生についている いる考えているが、友だちと話す 機会が少ない	5.1	20.7	50.1	24.2
	74.3			
自分は、社会や人生についている いる考えているが、おとなの前で しゃべる機会が少ない	18.7	34.3	33.8	13.2
	47.0			
自分は、社会や人生についてもけ っこうしゃべる方だ	8.4	22.2	46.9	22.6
	30.6			

表3 - 4 おとなたちはものを考えているか

(%)

	かなり そう思う	少し そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
おとなたちも、あまりものを考え ていない	27.5	48.9	19.8	3.7
	76.4			

表3 - 5 人生や社会を考える × 性

(%)

		かなり そう	少し そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
自分は、けっこう自分の人 生について考えている	男子	34.2	40.8	20.1	4.9
		75.0		25.0	
自分は、けっこう社会や政 治のことを考えている	女子	44.8	40.3	13.4	1.5
		85.1		14.9	
自分は、けっこう社会や政 治のことを考えている	男子	11.3	30.6	41.7	16.4
		41.9		58.1	
自分は、けっこう社会や政 治のことを考えている	女子	7.8	32.9	47.0	12.4
		40.7		59.4	

2 思ったよりも日記を書いている

1) 女子高校生の半数以上が日記を書いている

活字離れや、ものを書く習慣が少ないといわれる現在の高校生ではあるが、思いのほか日記を書いているといえるのではないか。表3-6でわかるように、今回の調査では、全体で35.0%の生徒が、日記を「わりと+ときどき書く」と回答していた。特に女子では、56.4%の者が「わりと+ときどき書く」と回答していた。ここではその内容までは尋ねていないが、前に述べた、社会や人生についてそれなりに考えている高校生に通じるものがあるのではないかと。

ところで、日記については、予想されたことではあるが、男女間に大きな差がみられた。日記を「わりと書く」と「ときどき書く」の合計は、女子で56.4%、男子で8.8%、また日記を「まったく書かない」については、男子で91.2%、女子で43.6%であった。いろいろな生活習慣で男女間にさまざまな差異がみられるが、この差はかなり著しい。日記を書く習慣の違いがどのような要因で生じているのか、興味深いテーマともいえる。

2) 日記を書くのはどんな高校生

ところで、どのような高校生が日記を書くのか、クロス集計を用いて検討してみた。

図3-1は、「人生や社会を考える」と「日記を書く」との、クロス集計の結果である。

グラフからわかるように、「けっこう自分の人生について考えている」「けっこう社会や政治のことを考えている」者はそうでない者より、日記を書く傾向があることがわかる。また、社会や人生について話す機会の多い高校生の方が、日記を書く傾向があることもわかる。

前述したように、この調査では日記の内容までは尋ねていない。したがって、人生や社会に関することがどれだけ日記のテーマとなっているかまではわからない。しかし、人生や社会について考えたり話したりすること、日記を書くことには、一定の関連性があることがわかる。

図3-2は、「友だちとの会話の内容」と「日記を書く」との、クロス集計の結果である。友だちとの会話の内容については、上の方から2つずつ、人生や社会のこと、異性や

表3-6 日記を書く × 性

	わりと書く	ときどき書く	まったく書かない
男子	2.1	6.7	91.2
	8.8		
女子	21.3	35.1	43.6
	56.4		
全体	12.7	22.3	65.0
	35.0		

友だち関係、ファッションや趣味、学校のこと、と並べてみた。それぞれの話題を「よく+ときどき話す」者と、「あまり+ぜんぜん話さない」者との2つのグループに分け、それぞれのグループが日記を書く割合（「わりと+ときどき書く」）をグラフにしてみた。分析の意図は、どのようなことに興味を持っている（=会話の内容にする）者が、より日記を書くのかをみようとしたものである。

グラフでみる限り、会話の内容の傾向と日

記を書くという習慣の間に、特にきわだった関連性はみられなかった。ただ全ての項目で、友だちとよく会話をする者ほど、あまり会話をしない者より日記を書く比率が高かった。内向的な者が日記を書くというより、いろいろ話題が豊富で友だちとよく話すが、かえて日記を書く傾向にあるようだ。

図3-3は、「自分の性格やタイプ」と「日記を書く」との、クロス集計の結果である。

図3-1 日記を書く（「わりと+ときどき書く」割合）× 人生や社会を考える

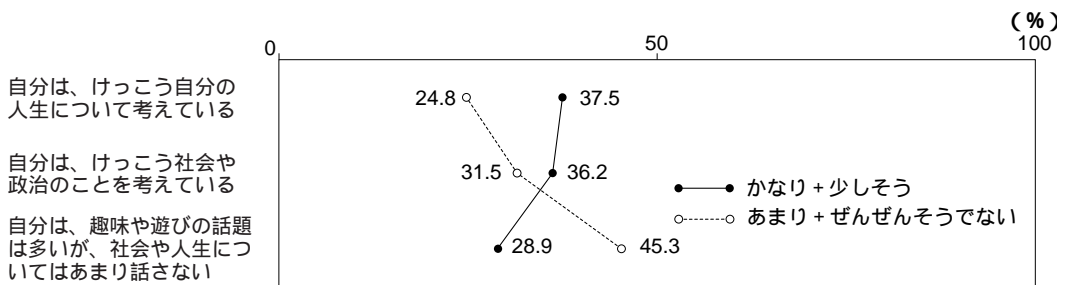
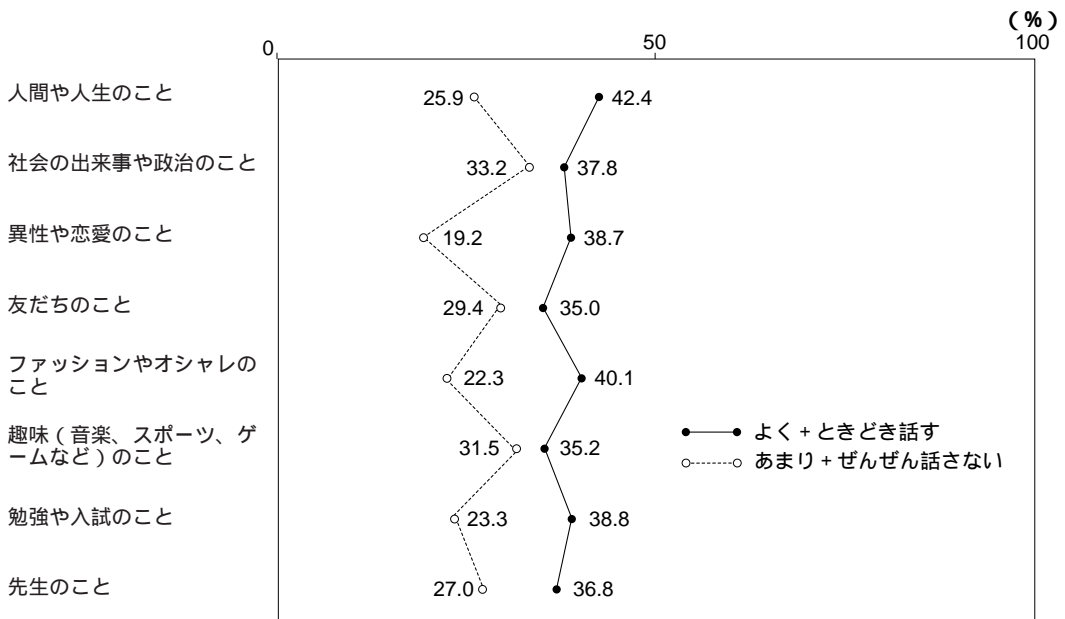


図3-2 日記を書く（「わりと+ときどき書く」割合）× 友だちとの会話の内容



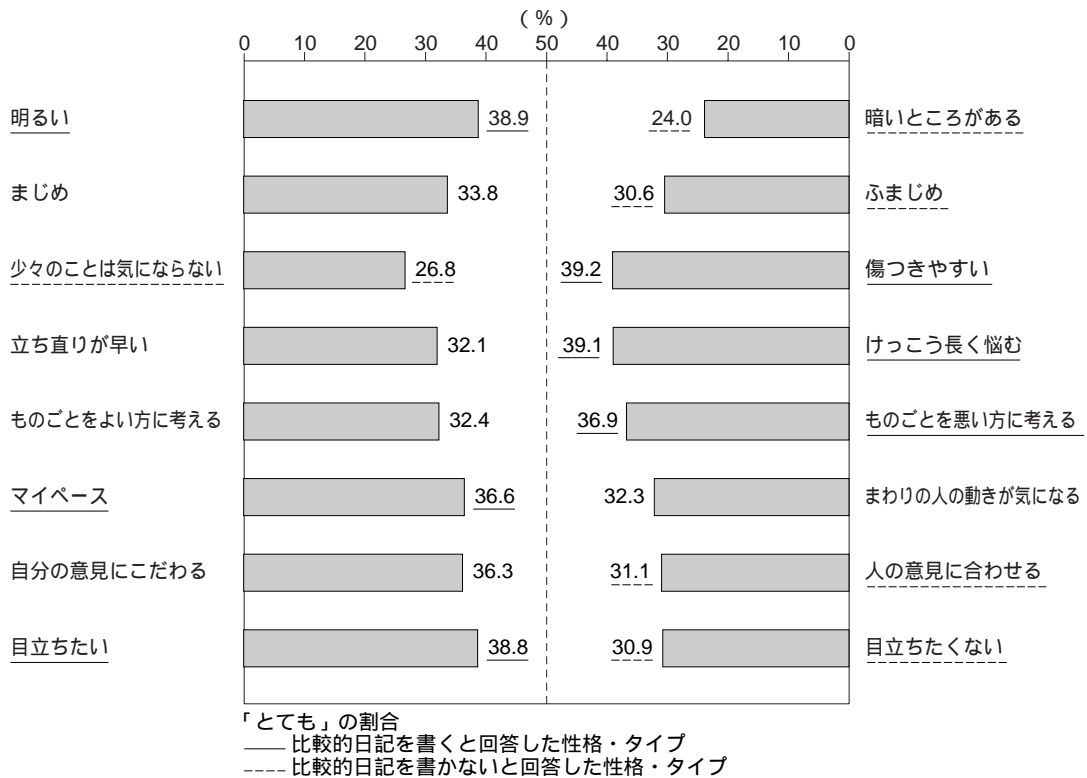
調査票の設問⑥に、自分の性格やタイプを尋ねたものがある。その中からいくつかの項目を選び、それぞれの性格やタイプ別に、日記を書く割合（「わりと+ときどき書く」）をグラフにしてみた。

比較的日記を書くとは回答した性格・タイプをあげると、「傷つきやすい」(39.2%)、「けっこう長く悩む」(39.1%)、「明るい」(38.9%)、「目立ちたい」(38.8%)などであった。一方、比較的日記を書かないとは回答した性格・タイプをあげると、「暗いところがある」(24.0%)、「少々のは気にならない」(26.8%)、「ふま

じめ」(30.6%)、「目立ちたくない」(30.9%)などであった。

「傷つきやすい」「けっこう長く悩む」者が比較的日記を書くという結果は予測されるものであり、「暗いところがある」者が比較的日記を書かないのは意外といえるかもしれない。全体的にみて、日記を書く傾向のある者の性格・タイプにはかなりばらつきがあり、今回の調査結果からは、日記を書く傾向のある典型的な性格やタイプというものは特定できなかった。

図3-3 日記を書く（「わりと+ときどき書く」割合）×自分の性格やタイプ



3 社会や人生への漠然とした不安

1) フィーリングで決めるけれど 迷うことも多い

フィーリング世代といわれる今の高校生。確かに、ものごとを感覚で決めることが多いのが調査結果からもわかる。表3-7によると、「ものごとをフィーリング(感覚)で決めるか」という問いに対し、「よくある」と「ときどきある」を加えた肯定的な回答は、88.6%に上った。

しかしその高校生たちも、ものごとの判断において、迷ってしまうことがかなり多いこともわかる。「何かを決めるとき、迷ってしまうか」という問いに対し、実に90.8%の者が肯定的回答をしている。

フィーリングで決めるけれど、迷うことも多いという回答。ここからは、しっかりした価値基準や判断基準を持ってない今の高校生の姿が見て取れる。

表3-7 どのようにものごとを決めるか

(%)

	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
ものごとをフィーリング(感覚)で決めること	33.2	55.4	10.3	1.1
	88.6			
何かを決めるとき、迷ってしまうこと	57.5	33.3	7.8	1.4
	90.8			

2) イライラしたり、不安だったり

今の若者は、がまんをしたり耐えたりすることが苦手であるといわれる。表3 - 8をみてみよう。「イライラしたり、ムカついたりするか」という問いに対し、「よくある」と「ときどきある」を加えた肯定的な回答は87.7%もある。かなり多くの高校生が、日常生活において精神的なストレスを感じていることがうかがえる。一方「我を忘れてカッとなる」ということになると、肯定的な回答は45.7%と、イライラしたりムカついたりする状態よりも低くなる。多くの高校生が、日常生活で精神的なストレスを感じながらも、それなりにコントロールしているのであろう。

次に、高校生の不安感を聞いてみた。同じく表3 - 8からわかるように、「漠然とした不安を感じるか」「居場所がないように感じるか」について、それぞれ肯定的な回答の合計は、73.6%、58.9%であった。かなりの数の高校生が、日常生活の中で、「漠然とした不安」や、もう少しストレスが強いと思われる「居場所がないような不安」を感じていることがわかる。

3) 心暖まる思いも

このようにイライラしたり、不安を抱く高校生であるが、心暖まる思いを感じることもそれほど少ないわけではない。表3 - 9によると、「心の暖まる思いが少ないと感じるか」

表3 - 8 イライラや不安を感じるか

	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
イライラしたり、ムカついたりすること	44.0	43.7	11.0	1.3
	87.7			
我を忘れてカッとなること	17.3	28.4	39.4	14.9
	45.7			
漠然とした不安を感じること	27.6	46.0	20.9	5.5
	73.6			
居場所がないように感じること	18.5	40.4	32.3	8.7
	58.9			

という問いに対して、55.9%の者は、否定的な回答をしている。反対にいうと、半数を超える高校生が日常生活の中で心暖まる思いを感じているのである。また、「宗教や占いなどに頼りたくなるか」という問いに対しては、肯定的な回答は28.1%であった。

今の高校生は、人間関係が希薄である、他者に対してクールであるなどといわれることも多い。しかし、この調査結果からみえてくるのは、それなりに心暖まる思いを感じている高校生の姿といえる。

4) 漠然とした不安を抱いている高校生

表3 - 10によると、将来のイメージを尋ねた「社会がだんだん悪くなっていくと感じる

こと」に対し、「よくある」(26.1%)と「ときどきある」(37.4%)を加えた肯定的な回答は63.5%であった。高校生の3分の2近くは、将来の社会に対して否定的な見方をしており、特に高校生の約4分の1は、そのように感じる事が「よくある」と回答している。

現在についてイライラや不安があり、将来についてもあまりいいイメージを持っていないとすると、そこには大きな問題があるといえる。これからの社会を担っていく高校生たちが、現状ばかりか将来の社会に対しても漠然とした不安を抱いているのである。将来に対する閉塞感が若者の心にもたらす問題を、もう一度おとなたちが考えてみる必要があるのではないか。

表3 - 9 心暖まる思いがするか、宗教や占いに頼りたくなるか

(%)

	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
心の暖まる思いが少ないと感じること	13.2	30.9	45.3	10.6
	55.9			
宗教や占いなどに頼りたくなること	7.8	20.3	27.1	44.8
	28.1			

表3 - 10 社会が悪くなっていくと感じるか

(%)

	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
社会がだんだん悪くなっていくと感じること	26.1	37.4	26.8	9.8
	63.5			

4 考察とまとめ

時として、「今の若者はあまりものを考えない」という言い方がされる。さまざまな情報やものがあふれ、時間に追われる今日、高校生の間でもそのような傾向はみられるかもしれない。しかし同時に、高校生と学校で日頃接していると、思いのほかものを考えているという面を見いだすこともある。

筆者の担当教科は社会科である。授業の中に、スピーチや討論、小論文などを組み込んでいるが、授業の進め方によっては、生徒たちはかなり積極的な反応を示す。スピーチでは、けっこう社会や人生についてのさまざまなテーマを自ら選んできて発表するし、グループ討論ではかなり熱心に意見を戦わせているのがみられる。同じ仲間の生徒の人生や社会に関する文章を紹介すると、かなり熱心な反応をみせるし、ある程度授業で掘り下げたテーマに関しては、文章は苦手だといながらも、それぞれ自分なりの考えを書く力をみせる。

確かに現在の日本の学校文化の中では、生徒たちは、自ら進んでものを言ったり考えを述べたりすることを避ける傾向が大変強い。ましてや、授業において自分から手を挙げて意見を述べるなどは、かなり例外的な行為である。しかし機会が与えられれば、高校生たちは、思いのほか意見を言える側面を持っているし、案外ものを考えている面をみせる。学校現場で、生徒たちが考える授業、発言できる授業をめざしてきた経験から、筆者はそのようなことを感じている。

さて、本章での考察から、まず「人生や社会についてそれなりに考えている高校生」という像を捉えることができた。自分自身の人生については、かなり多くの高校生が考えているという結果がみられたし、人生や社会に

ついて語り合える友だちを持っている高校生は87.4%にも達した。また社会や政治についても、自分の人生ほどではないにせよ、それなりに考えている高校生の現状をみることができた。

次に、「思ったよりも日記を書いている高校生」という像を捉えることができた。今回の調査では、「わりと書く」と「ときどき書く」という回答を合わせると、全体で35.0%、女子では56.4%の高校生が日記を書いていることがわかった。活字離れや、ものを書く習慣が少ないといわれる今日、当初の予想を超える数字であった。日記を書くことがものを考えることにどのような形でつながるかは簡単にはいえないが、高校生がものを書く習慣を、我々おとなたちがもっと大切にしていけないものであろうか。

さらに、高校生が現代の社会をどう感じているかという設問からは、「漠然とした不安を感じている高校生」という像を捉えることができた。フィーリング世代といわれる今の高校生、確かにしっかりした価値基準や判断基準を見いだすことは難しいのであろう。そして、イライラしたり漠然とした不安を感じる高校生は70~90%に達したし、社会がだんだん悪くなっていくのではないかという設問に対しても、高校生の約3分の2(63.5%)は、肯定的な回答を示している。

このような高校生の現状を前に、2つの提言をして、本章のまとめとしたい。

1つは、高校生たちが人生や社会を考える機会や情報の提供ということについてである。本章の考察から、人生や社会についてそれなりに考えている高校生の姿が捉えられた。そして一方、彼ら高校生が人生や社会について考える機会や情報は、必ずしも十分と

はいえないのではないか。授業を通して、あるいは社会全体で、高校生たちが自らの人生や自分を取り巻く社会に目を向け考えられるよう、そのような機会をもっと多く提供していくことが望まれるのではないか。

もう一つは、若者たちが抱く社会や将来についての不安の除去ということである。本章の考察から、今の高校生は日常の中にイライラや漠然とした不安を抱いており、また将来の

社会に対しても、だんだん悪くなっていくのではないかという見方をしていることがわかった。昨今の17歳前後の若者が引き起こす凶悪事件を背景に、「17歳の危険」「17歳の不安」などということが盛んにいわれている。これらの事件の解明はこれからの研究を待つとしても、前にも述べたように、将来に対する閉塞感が若者の心にもたらす問題を、もう一度おとなたちが考えてみる必要があるといえよう。

第4章 ||||

高校生の自分探し

- 「自分探し」という神話 -

1 はじめに

「あなたはどんな人ですか」
 「私は、こんな人です……」
 それは、本当のあなたでしょうか。
 ひょっとすると、それはたんにあなたの考え
 かもしれません。
 自分のことをもっと知りたくないですか。
 自分にどれだけの可能性があるか探求してみ
 ませんか。
 他人が与えてくれる答えではなく
 自分自身の答えを自分で見つけるところ、
 それが 　　　　　　です。

これはあるパンフレットの一節である。¹⁾あ
 なたならこの 　　　　　　に何を入れるだろう
 か。正解は、「Aセミナー」という自己啓発
 セミナーの名前である。しかし、ここに「B
 高校」あるいは「C大学」と入れても何の不
 思議も感じないのではないだろうか。近年、
 教育の目的を「自分探し」のサポートに置き、
 自分について考える機会や体験を提供するこ
 とが重要だ、という主張をよくみかける。多

くの読者の方も共感を覚えこそすれ、積極
 的に反対する方は少ないのではないだろう
 か。

ここでは、多くの批判を受けている自己啓
 発セミナーのメッセージと、いわゆる「個性
 を重視した教育」のメッセージとの類似性を
 取り上げて、そうした教育を批判しようとい
 うのではない。³⁾そうではなく、「自分探し」
 の欲求が多くの人々に共有されており、その
 欲求に訴えかけることが顧客（セミナーでは
 受講者、教育では生徒や学生）を引きつける
 はず、という共通の認識があることを確認し
 たいだけである。つまり、「『自分の可能性』
 とか『本当の自分』などと表現されるような」
 現状とは異なるよりよい自分の存在を信じ、
 その発見や実現を目指す心性」（芳賀
 [1998:124]）への働きかけである。このよう
 な若者の志向に訴えかけるのは、何も個性を
 重視した教育や自己啓発セミナーだけではな
 い、ある種の宗教やエステなども同様である
 （芳賀・弓山 [1994]）。

教育においてこのような若者の志向に訴えかけ、自分探しをサポートしていくことは、いかなる帰結をもたらすのだろうか。確かに、「自分の可能性」や「本当の自分」を見つけることができれば、それは生徒や学生にとってよい教育といえるかもしれない。あるいは、それが見つけられなくても、見つけようとすること自体に意味があるのだ、という主張もあるだろう。しかし、自分の可能性や本当の自分の存在をあまりに自明視しすぎていないだろうか。「誰でも可能性を秘めている」という考えは、「誰でもがんばれば100点を取ることができる」というこれまでの教育的な信念とどれだけ異なるのだろうか。「どこかに唯一の本当の自分があるはず」という考えは、近代社会が要請する自己の「統合への脅迫的信仰」(三上 [1995:101]) にとらわれすぎて

いないだろうか。教育までも、どこかに本当の自分があって、それは素晴らしく、それさえ発見できれば幸せになれるという自分探しの「神話」を作り上げてしまう可能性はないのだろうか。

むろん、「自分らしさ」を感じるができるような社会や教育それ自体を否定するわけではない。ましてや、近年の「学力低下」に関する一部の議論にみられるような「画一的な教育」の復権を主張しようというのでもない。しかし少なくとも、「自分探し」という言葉を教育における「自明の真理」として語る前に、自分らしさについて考えてみることも無駄ではないだろう。本稿は、高校生にとっての自分らしさを手がかりとして、これらのことを考える、ささやかではあるがその1つの試みである。

2 高校生の「自分らしさ」

はじめに、「自分」や「自分らしさ」について尋ねた9つの質問から高校生の自分らしさについて検討してみることにしよう。まず、全体の回答傾向をみてみた(図4-1)。肯定的回答「とても+まあそう思う」の割合が高いのは、「状況によってでてくる自分というものは違う」82.0%、「どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切だ」73.5%、「本当の自分は1つとは限らない」71.6%となっている。逆に肯定的回答が少ない項目は、「今の自分が好きだ」48.5%、「どこかに、今の自分と違う本当の自分があるように思う」63.5%、「自分には自分らしさというものがあると思う」63.9%である。

この結果をみると、今の自分を好きだと回答している高校生が非常に少ないことが目を引く。若者にとって自分らしく生きるのは重要なことであり、自分らしさの有無が自分自身への評価と深く関連していることが指摘されている(芳賀 [1999:20-21])。本調査の結

果も、自分に自分らしさがあると思っているかどうか自己肯定感に大きく影響していることを示している。「今の自分が好きだ」と「自分には自分らしさというものがあると思う」という質問をクロス集計してみると、表4-1のようになる。自分らしさがあると思っている高校生の6割が自分自身を肯定的に評価している。それに対して、自分らしさがないと思っている者で自分自身を肯定的に評価するのは3割にも満たない。

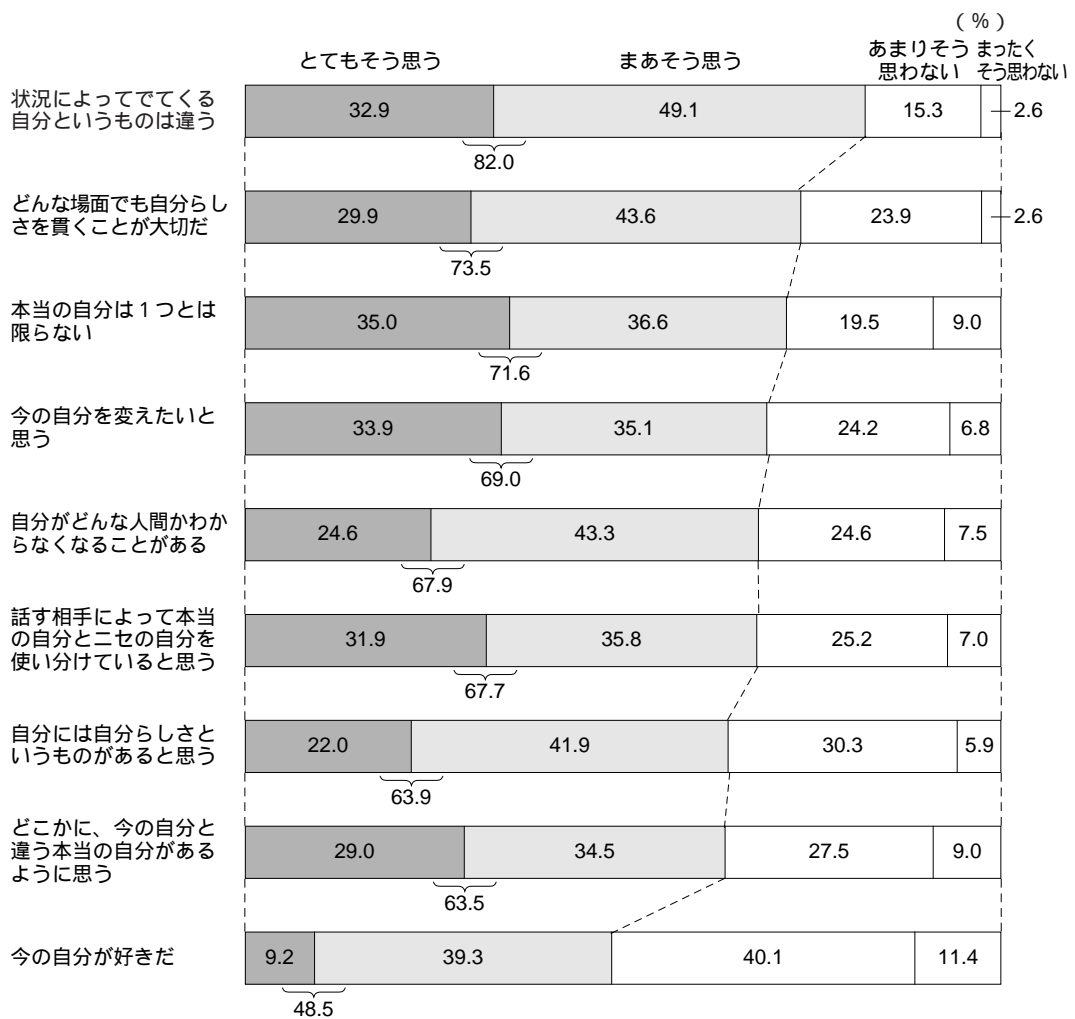
それでは、この「自分らしさ」とはいかなるものなのであろうか。このことを考える上で、「状況によってでてくる自分というものは違う」と「どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切だ」をとともに肯定する割合が高いことが1つの手がかりを与えてくれる。

両質問とも肯定的回答が多いのは、一見すると奇妙に思われる。自分らしさを貫くということと、場面によって自分が変わるということは、矛盾するように感じられるからだ。

しかし、両質問をクロス集計しても、このことを確認することができる。全体の60%もの高校生が、自分らしさを貫くことを大切としつつも、状況ごとに自分というものは異なると感じている（表4 - 2）。これを高校生は自己の一貫性を貫こうとしているにもかかわらず、それを状況が許さないのだ、と解釈することもできる。しかしそうではなく、解釈する我々おとなの側の視線に目を向けること

もできよう。つまり、自分というものは1つであるべきだ、と我々が知らず知らずのうちに想定してしまうということである。「本当の自分は1つとは限らない」に対する肯定的回答の多さからみても、これらの高校生の意識を自己の複数性という観点からみることもできるように思われる。高校生は、自分というものが1つに限定できるものではなく、多元的なものと感じているのではないだろうか。

図4 - 1 高校生の「自分らしさ」



我々おとなが、「唯一本当の自己」というような「理想」を描きがちなのは、自分というものが1つに定まっていないことをよくないと考えている部分があるからではないか。例えば、アイデンティティ論における自己拡散的な意識を想定してしまうということである。それは、孤立感・空虚感や時間的展望の喪失のような負の意識をもたらすとされる。しかし、自己拡散的な意識と自己の複数性と

いう意識は、同じものといえるのだろうか。

そこで、自己の拡散と複数性との関係をクロス集計によってみてみた。ここでは、「自分がどんな人間かわからなくなることがある」という質問を自己拡散的な意識を捉えた質問としている。また、「状況によってでてくる自分というものは違う」と「本当の自分は1つとは限らない」という回答を自己の変異性や複数性に関連した意識と見なしている。

表4 - 1 自己肯定感 × 自分らしさ

(列の% / 実数)

		自分には自分らしさというものがあると思う		合 計
		肯 定	否 定	
今の自分が好きだ	肯 定	62.1 (718)	24.8 (162)	48.6 (880)
	否 定	37.9 (439)	75.2 (491)	51.4 (930)
合 計		100.0 (1157)	100.0 (653)	100.0 (1810)

肯定は「とても」+「まあ」そう思う割合 否定は「あまり」+「まったく」そう思わない割合

表4 - 2 状況による自己 × 自己の一貫性

(総和の% / 実数)

		どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切だ		合 計
		肯 定	否 定	
状況によってでてくる自分というものは違う	肯 定	60.0 (1085)	22.1 (400)	82.1 (1485)
	否 定	13.6 (245)	4.3 (78)	17.9 (323)
合 計		73.6 (1330)	26.4 (478)	100.0 (1808)

肯定は「とても」+「まあ」そう思う割合 否定は「あまり」+「まったく」そう思わない割合

確かに表4 - 3をみると、自己拡散的な意識と複数性を示唆する意識にはかなり関連性があることがわかる。全回答者の5～6割が拡散的な意識と複数性の意識を同時に抱いており、約1割がどちらも否定している。しかし他方で、約3割の生徒はどちらかの意識しか感じていない。これは、自己拡散と自己の複数性の関連が必然的なものではないことを示唆している。さらに、これらの3つの質問と「今の自分が好きだ」という質問とのクロス集計も、自己拡散と自己の複数性の差異を明らかにしている。表4 - 4のように、自己拡

散的な意識と比べ、自己の可変性や複数性を示唆する意識は、自己肯定感とはあまり関連がみられないことがわかる。

それでは、自己の可変性や複数性を示唆する意識と、孤立感・空虚感や時間的展望の喪失などのマイナスとみなされるような意識との関連はどうであろうか。ここでは、「居場所がないように感じる」という項目との関連をみてみよう。表4 - 5をみると、自己の可変性や複数性を示唆する意識は、自己拡散的な意識と比べ、居場所のなさとの関連が弱いことがわかる。

表4 - 3 自己の拡散 × 自己の複数性

(総和の% / 実数)

		状況によってでてくる自分というものは違う		本当の自分は1つとは限らない	
		肯定	否定	肯定	否定
自分がどんな人間かわからなくなることがある	肯定	58.3 (1057)	9.7 (175)	52.8 (960)	15.0 (273)
	否定	23.7 (430)	8.3 (150)	18.7 (340)	13.4 (244)
合計		82.1 (1487)	17.9 (325)	71.5 (1300)	28.5 (517)

肯定は「とても」+「まあ」そう思う割合 否定は「あまり」+「まったく」そう思わない割合

表4 - 4 自己肯定感 × 自己の拡散と複数性

(列の% / 実数)

		自分がどんな人間かわからなくなることがある		状況によってでてくる自分というものは違う		本当の自分は1つとは限らない	
		肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
今の自分が好きだ	肯定	43.9 (542)	58.4 (341)	48.1 (717)	50.9 (165)	47.5 (619)	51.0 (263)
	否定	56.1 (693)	41.6 (243)	51.9 (773)	49.1 (159)	52.5 (684)	49.0 (253)
合計		100.0 (1235)	100.0 (584)	100.0 (1490)	100.0 (324)	100.0 (1303)	100.0 (516)

肯定は「とても」+「まあ」そう思う割合 否定は「あまり」+「まったく」そう思わない割合

これらの結果は、自己の複数性が 同一性 - 拡散 という軸で必ずしも把握されるものではないということを示唆しているといえよう。

しかし、複数の自己に真偽を見いだしている場合には、自己の複数性に対する認識も自己肯定感と関連を示している（表4 - 6）、つまり、本当の自分と二つの自分を使い分けしていると回答した高校生の方が、自己を肯定する者が少なくなっている。

また、自分探しや自己変革に関連する意識はどうであろうか。表4 - 6のように、「ど

こかに、今の自分とは違う本当の自分があるように思う」と「今の自分を変えたいと思う」という項目は、いずれも自己肯定感と関連がみられる。この結果を、自分のことを嫌いな場合には、どこかに今の自分とは違う本当の自分があるように見え、自分を変えたいと思うのだ、とみることできる。しかし逆に、どこかに今の自分とは違う本当の自分があり、自分を変えることができるのだ、と強調することが却って自己肯定感を低くする危険性を示唆しているともいえよう。

表4 - 5 居場所のなさ × 自己の拡散と複数性

(列の% / 実数)

		自分がどんな人間かわからなくなることがある		状況によってでてくる自分というものは違う		本当の自分は1つとは限らない	
		肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
居場所がないように感じる事	ある	66.8 (824)	42.3 (247)	60.3 (898)	52.2 (169)	62.2 (809)	50.9 (263)
	ない	33.2 (409)	57.7 (337)	39.7 (590)	47.8 (155)	37.8 (492)	49.1 (254)
合計		100.0 (1233)	100.0 (584)	100.0 (1488)	100.0 (324)	100.0 (1301)	100.0 (517)

肯定は「とても」+「まあ」そう思う割合 否定は「あまり」+「まったく」そう思わない割合
あるは「よく」+「ときどき」ある割合 ないは「あまり」+「まったく」ない割合

表4 - 6 自己肯定感 × 自己の真偽や自分探し

(列の% / 実数)

		話す相手によって本当の自分と二つの自分を使い分けられていると思う		どこかに、今の自分と違う本当の自分があるように思う		今の自分を変えたいと思う	
		肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
今の自分が好きだ	肯定	45.3 (559)	55.2 (324)	44.1 (510)	56.0 (371)	36.6 (461)	74.8 (422)
	否定	54.7 (675)	44.8 (263)	55.9 (646)	44.0 (291)	63.4 (797)	25.2 (142)
合計		100.0 (1234)	100.0 (587)	100.0 (1156)	100.0 (662)	100.0 (1258)	100.0 (564)

肯定は「とても」+「まあ」そう思う割合 否定は「あまり」+「まったく」そう思わない割合

3 高校生の「自己イメージ」

本節では、高校生が自らの性格やタイプをどのように把握しているのかみてみることにしよう(表4-7)。

明るい-暗い やさしい-冷たい のような対立的な性質のどちらに自分が近いかを18の項目について尋ねてみた(巻末の調査票見本⑥を参照)。回答者全体でみると、左側の性質に対する肯定的回答(「とても」+「やや」)の割合が高い項目は、「明るい」76.9%、「髪型、服装にこだわる」70.1%、「やるなら1番になりたい」69.1%となっている。肯定的回答が少ない項目は、「まわりの人をひっぱっていく」38.9%、「ものごとをよい方に考える」47.2%、「目立ちたい」49.6%で、5割に満たない。

ここで注目したいのは、自己イメージの男女差である。学年別とは異なり、男女別では多くの項目で差異がみられる。男子の方が女子よりも、人に負けないものがあり やさしく やるなら一番になりたいし 自分の意見にこだわる と回答している者が多い。逆に、女子の方が男子よりも、髪型や服装にこだわり 傷つきやすく まじめで 明るい と考えている。そして、人の役に立ちたいと考え 人のめんどろをよみて マイペースで おとなの言うことをよくきく と自分のことをイメージしている者が多くなっている。

これらの回答には、ジェンダー(社会的・文化的な性差)の影響が非常に強く現れているようにみえる。つまり、男子の自己イメージは、競争的な産業社会で努力してゆくために求められるような性質と重なっている。女子では、従順さやケアー役割に関するような性質との関連がみられる。

ただし、「やさしい」という項目の回答は異なる傾向を示している。ジェンダー論的な

観点からみると「やさしさ」は、これまでの日本においてはどちらかといえば女子に求められてきた性質の1つと思われる。しかし、今回の調査結果では男子の方が自らを「やさしい」と思っている者が多くなっている。テレビなどで、若い女性が好きなタイプの異性をきかれ、「やさしい人」と答えるのをよくみかける。今や「やさしい」という性質は男性に求められるものとなっているのかもしれない。そして、このことは社会的・文化的な影響の強さだけでなく、その恣意性という点をも浮かび上がらせるものといえよう。

この分析結果は、高校生の自分探しという文脈では、いかなる意味を持つのだろうか。高校生の自己イメージと自己肯定感(「今の自分が好きかどうか」)の関係は、1つの示唆を与えてくれる。表4-7の左側にあげられている性質は、現在の日本社会でみれば多くの場合、肯定されるようなものといえよう(ただし、傷つきやすい-少々のは気にならない は逆になっている)。暗いよりも明るいことが、冷たいよりもやさしいことがよいというような価値の序列は、先に男女差でみたように社会的・文化的に形成されるものである。それは決して普遍的なものとはいえない。例えば、「自分の意見にこだわる」と「人の意見に合わせる」という二項対立を考えてみればよい。近年でこそ、自分の意見を強く持つことが推奨される場合が多いが、一昔前の日本社会では人の意見に合わせるということもそれに劣らず美德とされていた。このようにみると、高校生の自己イメージがジェンダー的なバイアスに限定されない社会的・文化的な影響を非常に強く受けていることがわかる。

そしてこのことは、「自分らしさ」や「唯一本当の自己」といったものがどこかにあるはずと自明視することの不十分さをも照らし

出しているように思われる。つまり、自分らしさや唯一本当の自己といったものは、個人の奥深くに宿っているというようなものではなく、社会的・文化的に形成されるものだという事である。それは、どのようなことを

「自分らしさ」や「本当の自分」と感じるかということだけでなく、そうしたものがあらずだと想定してしまうような心性も含めてである。

表4 - 7 高校生の自己イメージ × 性・学年・自己肯定感

(%)

	全 体	性 別		学 年		今の自分が好きだ	
		男 子	女 子	1 年	2 年	肯 定	否 定
明るい(暗いところがある)	76.9	72.1	< 80.7	76.0	77.8	85.0	> 69.3
髪型、服装にこだわる(髪型、服装に気がつかわない)	70.1	61.0	< 77.7	71.7	68.6	70.6	69.7
やるなら1番になりたい(中くらいでよい)	69.1	72.8	> 66.0	70.0	68.2	73.9	> 64.7
やさしい(冷たいところがある)	67.3	71.1	> 64.2	68.0	66.5	75.3	> 59.7
傷つきやすい(少々のことには気にならない)	64.8	56.5	< 71.8	63.9	65.9	59.7	< 69.7
人のめんどろをみる(人のことに立ち入らない)	64.3	60.6	< 67.4	65.2	63.5	68.9	> 59.9
マイペース(まわりの人の動きが気になる)	63.7	60.4	< 66.5	64.2	63.2	69.4	> 58.4
人の役に立ちたい(まず自分のことをやりたい)	62.8	58.5	< 66.4	61.1	64.6	67.0	> 58.8
まじめ(ふまじめ)	59.9	54.1	< 64.7	57.8	62.0	64.0	> 56.1
人に負けないものがある(特に人より優れたところはない)	57.7	63.5	> 52.9	57.4	58.0	68.8	> 47.1
思いこんだらいぢず(わりと気が変わりやすい)	55.5	55.1	55.7	53.3	57.7	60.6	> 50.6
自分の意見にこだわる(人の意見に合わせる)	53.2	56.1	> 50.8	53.8	52.6	59.6	> 47.1
立ち直りが早い(けっこう長く悩む)	51.4	52.8	50.2	51.5	51.6	60.1	> 43.3
おとなの言うことをきく(おとなには反抗的)	51.2	48.0	< 53.8	48.4	< 53.9	55.9	> 46.6
素直だ(ひねくれたところがある)	50.1	52.5	48.2	49.1	51.2	56.3	> 44.3
目立ちたい(目立ちたくない)	49.6	51.6	47.9	49.6	49.6	57.7	> 41.9
ものごとをよい方に考える(ものごとを悪い方に考える)	47.2	48.5	46.0	48.0	46.1	58.0	> 36.9
まわりの人をひっぱっていく(まわりの人についていく)	38.9	39.3	38.5	41.1	> 36.5	45.8	> 32.2

「今の自分が好きだ」の肯定は「とても」+「まあ」そう思う割合 否定は「あまり」+「まったく」そう思わない割合 > は統計的に有意な差(危険率5%水準)があることを示している

4 「自分らしさ」を感じるとき

次に、高校生が自分らしさをどのようなときに感じているのか、みてみることにしよう。ここでは、「どんなときに一番『自分らしい』あるいは『自分はこれだ』と感じるか」という質問に対する自由記述の分析を試みる⁴⁾。

この質問に対して何らかの回答を記入した高校生は、全回答者1,826名中1,219名で66.8%であった。男女別にみると、男子が560名、女子が659名となっている。学年別では、1年生が618名、2年生が601名である。自由記述の回答者の男女別・学年別の割合は、ともに全回答者における割合とほぼ同じである。また、回答者のなかで、「わからない」としている者が28名、「感じたことがない」と回答している者が55名いる(重複3名)以下、最も多くみられた4つのパターンに着目して、そこに表れる主要なキーワードから分析を加えることにしよう。4つのパターンのいずれかに含まれるのは562名で、全回答者の30.8%、自由記述回答者の46.1%となっている(2つ以上のパターンを含むものが61ケースである)。

①まず、229ケースと最も多くみられた回答のパターンは、「自分の好きなことに没頭しているとき」や「やりたいことに一生懸命になっているとき」である。これは、「好きなこと・やりたいこと」と「没頭・一生懸命」という2つの要素の組み合わせからなっている。上記の件数は、「好きなことをやっているとき」や「何かに一生懸命なとき」など単独の場合や、「好きなことに夢中になっているとき」のように2つの要素の異なる組み合わせも含んでいる。好きなこと 単独の記述は129ケース、没頭 単独の記述は53ケースである。また、両者をともに含んでいるの

は、47ケースである。

②次に多くみられるパターンは、「友だちと一緒にいるとき」や、「友人と話しているとき」「友だちと遊んでいるとき」である(具体的な場面や特別な内容が表記されていないという点から、「一緒にいるとき」「話しているとき」「遊んでいるとき」をひとまとめにした)。こうした回答は164ケースでみられる。ここでは、このパターンのキーワードである「友人」という語彙に着目し、高校生が自分らしさを感じる際に関係する他者という点をみてみよう。

まず、友人(「友だち」や「親友」などの表記も含む)という言葉にだけ着目すると、そうした言葉を含む回答は217ケースになる。この数は記述に登場する友人以外の他者の数と比べるとかなり突出したものである。友人の次に多くあげられたのは家族で、27ケースとなっている(友人との重複16ケース)。ちなみに、先生は4ケースである(友人との重複2ケース、家族との重複2ケース)。これは、高校生が自分らしさを実感する際にかかわり合う重要な他者が、圧倒的に友人であることを示している。

③第3に多いパターンは、「部活動をしているとき」で73ケースとなっている。これに、スポーツや音楽(歌うことや楽器演奏のみで聴くという行為は除く)という記述も合わせると第2のパターンを上回る。部活動、スポーツ、音楽の3つのうちいずれかを含むものは、166ケースである。むろん、部活動といった場合には、スポーツや音楽に必ずしも限定されるわけではないので、一括りにすることはできないかもしれない。部活動という表記が、その活動自体を指しているのか、そこでの人間関係など他の要素を指しているのかも定かではない。また、音楽で

は自己表現などの要素が、スポーツでは勝敗などの要素が表記に含まれている場合もある。しかしこれらの回答から、自分らしさを感じるという体験における「身体」という要素の重要性が示唆されているように思われる。

④最後のパターンは、「自分の考え方や行動が他人と違っていたとき」で60ケースである。すなわち、他者との違いを認識するような体験をあげるものである。自分と他人との違いを自覚するような体験が、自分らしさの確認にとって重要というのとは当然ともいえる。しかしこれは、高校生が自分らしさを感じるのが他者とのいかなる関係においてか、ということを考える上で示唆的である。自由記述に表れた他者との関係性すべてをみることは難しい。ここでは、本音をみせるという関係や共感するという関係についてみてみよう。それは、若者についての議論で、希薄な人間関係や競争的状况による共感能力の低下が自分らしさの確認にとってマイナスに働いているという指摘がしばしばみられるからである。集計結果をみると、本音⁵⁾や共感といった体験を指摘する回答は必ずしも多くない。本音が29ケース、共感が7ケースとなっている。この結果を、本音をみせる関係を築くことや共感するような体験をすることが難しいのだ、とみることもできる。しかし、逆にそうした体験が必ずしも自分らしさの確認にとって重要とみなされていないと考えることもできよう。少なくとも、現在の高校生が自分らしさを感じる際に、他者との差異が表面化するような体験や関係が重要性を持っていることは確認できる。

それでは、本稿の主題である高校生の自分探しという文脈ではこれらの結果はどのように理解することができるだろうか。ここでは、社会学者の浅野智彦の議論を手がかりにしてみよう。浅野は、「本当の自分」という言葉に意味を与える4つの選択肢の可能性を「他者」という視点から次のようにまとめている

(浅野 [1999:52-54]) (1)第1は、ごく身近で具体的な共同体の他者との包括的な関係にたよって意味を充填しようとするものとされる(典型的には、「家族」「恋人」など) (2)第2は、超越的で普遍的な他者にたよるものである(典型的には「神」) (3)第3は、メディアを介した他者にたよるものである(例えば、ブランド・グッズの消費にみられるような消費共同体の他者)。そして、(4)第4の選択肢は、「この空白」を特定の他者によって充填しようとすることをはじめから放棄してしまうことである。「それは『本当』が多元的・脱中心的であることを前提として、その都度の感覚・好み・趣味によってその都度の自分をどれもそれなりに自分らしい『私』として認めていこうとする試み」であるとされる(浅野 [1999:53])。実際には、これらは独立して行われるわけではなく、複雑に絡み合った形で行われるとされる。しかし、身近な他者を供給する共同体の包括性の解体(例えば、離婚の増大)や、状況志向という現代の若者の他者との関係性の特質などから、今後第4の選択肢が主流になっていくのではないかと予測している。

この自分というものの意味を満たす選択肢に関する浅野の指摘からすると、本調査の結果における多くの高校生のスタイルは、非常に「古典的」なものにみえてくる。多くの高校生は第1の選択肢のように友人という身近な他者との関係によって、自己の意味を満たしているようにみえるからである。果たして、そのように解釈してよいのだろうか。

第3の選択肢は、本調査の結果から直接に検討できる。モノという視点から、服装、持ち物、そしてその購入をキーワードとして自分らしさを確認するという回答を選び出してみた。すると、予想外に少なく、25名(服装に関するもの19名、その他持ち物9名、重複3名)とかなり少数派といえる。この調査結果も先の印象を裏づけるものとなっている。

しかし、1000件を超える自由記述を何度も

読み直し分類しているうちに、こうした印象とは異なるイメージも浮かび上がってきた。そのことを述べるために、まず友人とのつきあい方という点に目を向けてみよう。先にも述べたように、若者の人間関係に関して本音をさらけ出すような体験が少ないことがしばしば批判的に指摘されている。自由記述においても、友人との関係において「一緒にいるとき」や「しゃべっているとき」といった必ずしも「熱い関係」が回答されたわけではないことはすでにみた通りである。これは質問文との関係による部分もあるだろう。しかしそれだけでなく、友人との関係が必ずしも第1の選択肢でイメージされているような特定の他者との包括的な関係ではないことをも示唆しているのではないかと、『モノグラフ・高校生』Vol.56においても、限定された文脈におけるさまざまな友人との選択的な関係を志向する意識がみられることが確認されている(岩田 [1999])。少なくとも、特定の親しい友人との本音でのつきあいが自分らしさに意味を与えると考えるのは問題であろう。

また、「好きなことに没頭しているとき」という回答も、我々おとなが想定するほど、好きなことが一貫性を持ち、それに向けてひたむきに努力するといったものとは必ずしもいえない可能性がある。むしろ、「おもしろいから、そうしたいから、そうすることが好きだから」というコンサマトリーな(即時充足的な)志向の現れと解釈することもできよう。というのは、「好きなこと」の具体的な記述に比べ、抽象的な表現が多用されており、それが何を入れてもよい空白として使用され

ているように思われるからである。「何かに一生懸命なとき」という表記の多さもこのことを示唆している。また、次のような回答もみられる。「1つのことに必死になって、一生懸命なとき。またそれが楽しいとき(具体的なことは思い出せない)。」

もちろん、例を補足するケースも若干数(10件)はみられるし、回答の手間や時間の制約ということもあろう。しかし、積極的にではないが、他の質問とのクロス集計の結果も、この仮説を支持している。好きなこと+没頭の一貫性をみるために、「いつも自分である」や「流行に流されないポリシーがある」など自己の一貫性を指摘するケースと比較してみよう。ちなみに、自己の一貫性に分類したのは、52ケースである。好きなこと+没頭および自己の一貫性と、自己イメージの「思いこんだらいちず」という質問とをクロス集計すると、表4-8のようになる。自由記述の回答者全体の「いちず」と「気が変わりやすい」の比率を基準とすると、自己の一貫性のケースでは「いちず」の割合が高くなっているのに対し、好きなこと+没頭のケースでは差がみられない。

これらのことから、多くの高校生が自分というものの意味を充填するスタイルに異なる解釈を与えることもできよう。それは、その都度の感覚や好みで他者・関係・行動を選択し、それに没頭することによって自分というものの意味を充填するという志向である。これは浅野の指摘する第4の選択肢にもかなり近いといえよう。

表4-8 いちずさと気の変わりやすさ × 好きなことに没頭するとき

(列の%/実数)

		好きなこと+没頭	自己の一貫性	自由記述回答者全体
思いこんだらいちず わりと気が変わりやすい	いちず	59.8 (137)	69.2 (36)	58.0 (699)
	気が変わりやすい	40.2 (92)	30.8 (16)	42.0 (507)
合計		100.0 (229)	100.0 (52)	100.0 (1206)

いちず と 気が変わりやすい は「とても」+「やや」の割合

5 まとめ

ここではまず、調査結果を手短に要約する。それをふまえ、最後に簡単な考察を加えることにしよう。

1) 調査結果の要約

①高校生で今の自分を好きとしている者は、5割にも満たない。そして、その自己肯定感、自分に自分らしさがあるかどうかという意識と関連していることが明らかとなった。しかし、その自分らしさとは、我々おとなが想定する「唯一本当の自己」というような自分らしさとは異なり、その場その場で可変的であり多面的なものと思われる。また、このような自分らしさは、いわゆる自己拡散と同一ではなく、それ自体を否定的にみる必要は必ずしもない。しかし、この自己の複数性ともいえる感覚は、そのいずれをも本当の自分と考えるか、あるいはそれらの間に真偽を認めるかによって、自己肯定感と異なる関連の仕方を示す。つまり、本当の自分とニセの自分を想定するような意識は、自分自身に対する否定的な意識と関連している。

②高校生の自己イメージは、ジェンダーによる影響を非常に強く受けている。女子では、ケア役割に沿うようなイメージを抱いている者の割合が多い。それに対し男子は、競争社会に適応的な自分をイメージしている割合が多い。しかし、これまでの日本社会では女性に求められていたと思われる「やさしい」という性質は、男性に強く求められるようになっている可能性がある。このことは、自己イメージに対する社会的・文化的な影響の強さだけでなく、その恣意性をも示唆している。

③高校生が自分らしさを感じる時にに関して、主に4つのパターンを見いだすことができる。それは、「自分の好きなことに没頭しているとき」「友だちと一緒にいるとき」「部

活動をしているとき」「自分の考え方や行動が他人と違っていたとき」である。ただし、それらのパターンが、好きなものを一貫して努力するという体験や友人との本音をさらけ出すような「熱い関係」の重要性を示しているわけでは必ずしもない。むしろ、それらのパターンに現れるキーワードの分析が示唆しているのは、その都度の好みによって選択された事柄に没頭する体験や友人との選択的な関係の中で考え方などの差異が表面化する体験が重要だということである。

2) 「自分探し」の神話とその行方

確かに、自分らしさを確信できる(できたように思える)体験は、我々に生きることの充実感を与えてくれるものである。しかし、高校生の自分らしさが示唆する自己の複数性ともいえる感覚を前提とすると、次のようなことが予想される。それは、「唯一本当の自己」というようなものを想定した自分探しの過剰な強調が、その複数の自己に真偽を見いだすような意識を強化してしまうという事態である。さらに言えば、どこかに本当の自分があって、それは素晴らしく、それさえ発見できれば幸せになれるという自分探しの「神話」が生み出されてしまう可能性がある。

また、高校生の自己イメージの社会性・文化性を考えるとき、「唯一本当の自己」を個人の奥深くに眠るダイヤモンドのように考えることも注意を要しよう。社会学者の森真一[2000:175-190]は、「個性重視・自己実現」という言説が能力主義の徹底化を可能にする効果を持つと指摘している。能力主義の徹底化の善悪は別として、特別な自分の「特別」という側面が、社会的・文化的に大きく左右されることを忘れてはならないだろう。

とはいえ、そのような「特別な」自分を見

いだせたと思える場合はまだよい。平凡な我々にとって特別な自分らしさを見つけだすことはそれほど容易なことではないからだ。つまり、自分探しの神話は、そのネガティブな反面として「透明な自己」あるいは「空虚な自分」というものを逆に生み出してしまふ可能性がある。単純化すれば、自分探しにとらわれすぎてしまうと、本当の自分と思えるものに出会えない場合、より深い悩みを抱えてしまうということである。超越的な基準を容易に受け入れてしまったオウム信者や、バモイドオキ神という幻想の神を作り出してしまった酒鬼薔薇聖斗もこうしたことと決して無関係とはいえないだろう。

しかし、高校生が自分らしさの意味を満たすスタイルの1つからは新たな方向性も示唆されている。そのスタイルとは、その都度の感覚や好みで他者・関係・行動を選択し、それに没頭することによって自分というものの意味を充填するものである。つまり、「唯一本当の自己」といったものを想定するのではなく、複数の自己をどれもそれなりに本当の自分としてありのままに受け入れるものといえよう。それは、脱自分探しによる自分らし

さの保持の可能性を示している。

もちろん、事態はそれほど単純ではない。というのも、もうすでに「ありのままの自分」という言葉に代表されるような「癒し」言説が我々を標的にしているからだ。「等身大の自分を見つめよ」「自分の感覚に素直になろう」という言葉は、我々を自分探しの呪縛から解放する一方で、自己を實體視する視線にも容易に接続されう。どこかに「自然な自分」や「素の自分」というものがあるはず、というように。そのとき、我々は再び果てしない「本当の自分探し」へと誘われることになる。

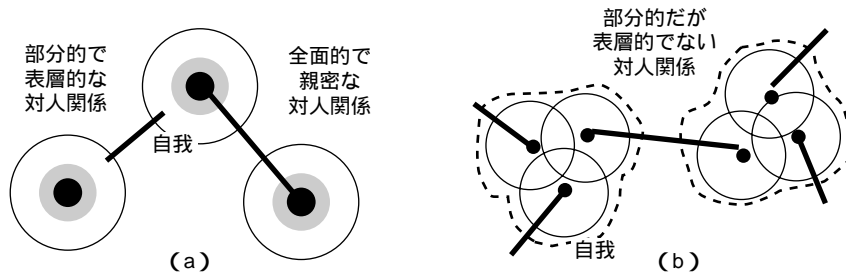
我々に残されているのは、いかなる道なのであろうか。具体的な道筋を本稿に求めるには荷が重すぎるが、暫定的な見通しだけでも述べておこう。それは、どこかに自己の唯一の確かさを求めるのではなく、自分というものの不確かさに耐え、そのようなものとして自己を保持しつつ生きていくということになるか。少なくとも、自分探しのサポートを教育の目的とするのであれば、我々はこうした問いを避けて通ることはできまい。

〔注〕

- 1) これはパンフレットを直接参照したものではなく、芳賀 [1998:123-4] からの引用である。
- 2) 例えば、15期中央教育審議会が1997年6月に提出した「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」(第二次答申)の第1章を参照。
- 3) ここでは、自己啓発セミナー自体について問うことはしない。興味のある方は、芳賀・弓山 [1994] 芳賀 [1998]、櫻村 [1998a] [1998b] などを参照。
- 4) 自由記述の分析には、富山大学の佐藤裕が作成した「自由回答コーディング支援プログラムAUTOCODE」を使用した。また、質問自体が一番「自分らしい」と感じるときと、「自分はこれだ」と感じるときを同時に聞いているため、それらを区別することなく分析を行っている。
- 5) ただし、「仲の良い友人」や「親友」という表記もみられ、そのような限定の中に、「本音」や「共感」という要素が含まれていると考えることもできる。しかし少なくとも、そうした回答と、本音をさらけ出せるとか、共感しあうというような「熱い関係」との間にはかなりの温度差がある。
- 6) 紙幅の関係から詳述できないが、宮台 [1995] の「まったく革命(意味から強度へ)」や、鷲田 [1996] の「自分がぼやけることの心地よさ」、丘沢 [1999] の「マンネリズム」、香山 [1999] の「等身大のじぶん」という指摘は、この第4の選択肢を考える上で参考となる。
- 7) こうした点を考える上で、辻大介 [1999] が参考になる。辻は、若者の対人関係の希薄化論を批判的に検討し、若者の対人関係の変化を「フリッパー志向」の強まりにみている。フリッパー志向とは、「そのときどきの気分に応じてテレビのチャンネルを手軽に切り替えるように、場面場面に合わせて気軽にスイッチを切り替えられる」他者との関係の志向を意味する(辻 [1999:20])。こうした部分的な人間関係は、同心円状の自我構造を前提とした場合、表層的で希薄な対人関係を意味することになる(模式図(a))。しかし、同心円状の自我構造の仮定自体を見直す必要があるとし、「対人

関係のフリッパーの自我構造はむしろ、複数の中心を持ち複数の円が緩やかに束ねられた」模式図 (b) のような成り立ちを予想させるとしている (辻 [1999: 23])。これは、本稿の自己の複数性という点とも呼応するものと思われる。

自我構造の2つの模式図



出典：辻大介 1999 「若者のコミュニケーションの変容と新しいメディア」p.23より

8) より厳密に言えば、平凡であるかどうかは必ずしも重要ではない。アンソニー・ギデンズがいうように、近代社会では我々のいかなる知や生き方の基準も常に改訂にさらされている (Giddens [1990 = 1993] [1991])。その中で、自己は絶えず選り直し再構成されていく一連の過程として捉えられる。つまりそれは、我々が平凡であるか否かにかかわらず、自己が偶有的・恣意的なものとして、つまり常に別様なものとしての可能性を持つということでもある。

[引用・参考文献]

- 浅野智彦 1999 「親密性の新しい形へ」富田英典・藤村正之編 『みんなぼっちの世界 - 若者たちの東京・神戸 90's・展開編 -』恒星社厚生閣
- Giddens, Anthony 1990 *The Consequences of Modernity*, Polity Press. = 1995 松尾精文・小幡正敏訳 『近代とはいかなる時代か? - モダニティの帰結 -』而立書房
- 1991 *Modernity and Self-Identity: Self and Society in Late Modern Age*, Stanford University Press.
- 芳賀 学 1998 「親密さと自由の共存 - 自己啓発セミナーのコミュニケーション特性 -」島園進・越智貢編 『情報社会の文化4 心情の変容』東京大学出版会
- 1999 「自分らしさのパラドクス」富田英典・藤村正之編 『みんなぼっちの世界 - 若者たちの東京・神戸 90's・展開編 -』恒星社厚生閣
- 芳賀 学・弓山達也 1994 『祈るふれあう感じる - 自分探しのオデッセー -』I P C
- 岩田 考 1999 「友人関係の現在 - 友人関係・自己意識・不安 -」深谷昌志監修 『高校生の他者感覚 - ゆるやかな人間関係の持ち方 -』(モノグラフ・高校生'99 Vol.56) ベネッセ教育研究所
- 櫻村愛子 1998a 「自己啓発セミナーの危険性」『ラカン派社会学入門』世織書房
- 1998b 「自己啓発セミナーの困難 - 『自己による自己の支配』が生みだす自己解体 -」『自己決定 - 私とは何か -』(現代思想Vol. 26-8) 青土社
- 香山リカ 1999 『じぶん を愛するということ - 私探しと自己愛 -』(講談社現代新書1456) 講談社
- 三上剛史 1993 『ポスト近代の社会学』世界思想社
- 1995 「現代人のアイデンティティと自己意識」荻野昌弘他著 『社会学の世界』八千代出版
- 宮台真司 1995 『終わりなき日常を生きる - オウム完全克服マニュアル -』筑摩書房
- 森 真一 2000 『自己コントロールの檻 - 感情マネジメント社会の現実 -』(講談社選書メチエ177) 講談社
- 丘沢静也 1999 『マンネリズムのすすめ』(平凡社新書010) 平凡社
- 辻 大介 1999 「若者のコミュニケーションの変容と新しいメディア」橋本良明・船津衛編 『子ども・青少年とコミュニケーション』(シリーズ情報環境と社会心理3) 北樹出版
- 鷺田清一 1996 『じぶん・この不思議な存在』(講談社現代新書1315) 講談社

第5章 ||||

高校生のキラやすさ

1 アイデンティティをゆさぶる体験

まず高校生に、アイデンティティをゆさぶるような体験の有無についてきいてみることにしたい。

調査票設問¹⁰でそのような体験についてきいてみると、表5-1のようになる。まず「自分を完全に燃焼させた体験」(60.7%)、「身震いが起きるくらいの感動的な出来事」(59.5%)、「夜も眠れないくらいに気になる異性の存在」(45.0%)などのプラスの体験は、約半数以上の高校生にみられた。

また重要な人との出会いは、「全幅の信頼を置ける人物との出会い」が6割(62.7%)で、「心底あこがれる先輩との出会い」(41.8%)、「心底あこがれる先生との出会い」(37.4%)は4割前後であった。このように、一般的な人物、先輩よりも接する機会が多いと思われる先生との重要な出会いの方が低か

った。

またマイナスの体験については、「今思っても赤面するような経験」(83.4%)、「チクチクと自分を傷つけるような言葉や視線」(78.7%)とも8割前後に達していた。

またこれを性別にみると、「全幅の信頼を置ける人物との出会い」「心底あこがれる先輩との出会い」「心底あこがれる先生との出会い」「今思っても赤面するような経験」「チクチクと自分を傷つけるような言葉や視線」は女子に多かった。これらの体験の有無は、高校生側の受け止め方もかなり関連していると考えられ、このような結果は女子の方が体験を情緒的に受け止めることも影響していると考えられる。また学年別では、「身震いが起きるくらいの感動的な出来事」が学年とともに増加する傾向がみられた。

表5 - 1 アイデンティティをゆさぶる体験 × 性・学年

(%)

		全 体	性 別		学 年	
			男 子	女 子	1 年	2 年
1. 身震いが起きるくらいの感動的な出来事	あった	59.5	58.4	60.4	56.7	< 62.4
	なかった	40.5	41.6	39.6	43.3	37.6
2. 夜も眠れないくらいに気になる異性の存在	あった	45.0	44.2	45.7	43.0	< 47.1
	なかった	55.0	55.8	54.3	57.0	52.9
3. 自分を完全に燃焼させた体験	あった	60.7	58.8	62.3	60.8	60.7
	なかった	39.3	41.2	37.7	39.2	39.3
4. 全幅の信頼を置ける人物との出会い	あった	62.7	59.7	< 65.1	62.4	63.0
	なかった	37.3	40.3	34.9	37.6	37.0
5. チクチクと自分を傷つけるような言葉や視線	あった	78.7	72.0	< 84.2	77.9	79.4
	なかった	21.3	28.0	15.8	22.1	20.6
6. 今思っても赤面するような経験	あった	83.4	78.8	< 87.1	82.1	84.6
	なかった	16.6	21.2	12.9	17.9	15.4
7. 心底あこがれる先生との出会い	あった	37.4	35.2	< 39.2	38.1	36.8
	なかった	62.6	64.8	60.8	61.9	63.2
8. 心底あこがれる先輩との出会い	あった	41.8	38.5	< 44.6	41.2	42.5
	なかった	58.2	61.5	55.4	58.8	57.5

> は「あった」において4%以上差があるもの

2 高校生のキレるとき

1) キレる場面

「キレる」「キレそう」などは今の高校生の日常語になっているようだが、実際に彼/彼女らはどのようなときにキレるのだろうか？表5-2(設問12)は高校生に、友だち、親、先生、社会的場面などのさまざまな場面でのキレやすさについてきいたものである。

まず友だち、親、先生について「キレる」をみると、比較的多いのは「自分は騒いでいないのに、先生から注意される」(36.8%)、「朝、親に起こしてもらおうを頼んだのに起こしてくれない」(23.4%)という、先生、親の方が悪いときにキレやすくなっている。そしてこれらに対して、「友だちが連絡なしに30分以上遅れる」(9.0%)という、友だちが悪いときはあまりキレない、という傾向がある。

また親、先生、友だちに対しても、「朝寝坊して、親に怒られる」(12.0%)、「授業中騒いで、先生に注意される」(4.8%)、「自分が遅れて、友だちにすごく怒られる」(1.6%)という、自分が悪いときはキレない、という傾向がある。

こうしてみると、現在の高校生においても、実際にキレる、ということはあまり多くないようである。

また公共の場では、「レジなどで割り込みをされる」(23.9%)という実害がある割り込みにはキレるが、「混んだ電車のシルバーシート(優先席)に、高校生が座っている」(5.8%)、「高校生が道でタバコを吸っている」(5.1%)、「電車の中で携帯電話で話している人がいる」(3.5%)には無関心であるという傾向もみられた。これらは現在の高校生にお

いて、電車や道が、世間というよりは他人をあまり気にしない領域になっているというストリートカルチャーの変化が影響を与えていると思われる。

また「社会で悪いことをしている人がつかまらない」(20.6%)、「戦争で人がたくさん死んでいる」(19.2%)というマクロな社会的正義に対しても、約2割はキレるという傾向もみられた。一般に「キレる」という言葉には、私生活の場面で、わがままにキレる、というイメージがあるようだが、この調査結果からは、むしろ幅広い使い方がされているようである。

このようにマスコミで事件が報道され、「キレる」などは高校生がよく使うが、実際にキレる場面はそれほど多くなく、使い方も日常の場面だけには限らないようである。

また性別では、「自分が遅れて、友だちにすごく怒られる」「授業中騒いで、先生に注意される」「電車の中で携帯電話で話している人がいる」を除く全ての項目で、男子より女子がキレやすい、という傾向がみられた。一般に「怒る」のは男子の方が多いように思うが、「ムカつく」「キレる」などの情緒をともなう場合は女子の方が多くなってくる傾向があるようだ。

また学年別では、「朝、親に起こしてもらおうを頼んだのに起こしてくれない」「授業中騒いで、先生に注意される」「自分は騒いでいないのに、先生から注意される」「レジなどで割り込みをされる」「高校生が道でタバコを吸っている」「社会で悪いことをしている人がつかまらない」「戦争で人がたくさん死んでいる」が2年生になるとキレにくくなる、という「発達」の傾向もみられた。

表5 - 2 高校生のキレるとき × 性・学年

(%)

		全 体	性 別		学 年	
			男 子	女 子	1 年	2 年
1. 友だちが連絡なしに30分以上遅れる	キレる	9.0	8.2	9.6	9.5	8.4
	キレそうになる	44.3	40.7 <	47.3	43.9	44.7
	キレない	46.7	51.1 >	43.2	46.6	46.9
2. 自分が遅れて、友だちにすごく怒られる	キレる	1.6	2.0	1.4	1.9	1.4
	キレそうになる	12.6	13.7	11.8	12.5	12.7
	キレない	85.7	84.4	86.8	85.6	85.8
3. 朝、親に起こしてもらいのを頼んだのに起こしてくれない	キレる	23.4	18.2 <	27.6	25.7 >	21.0
	キレそうになる	42.9	39.9 <	45.4	42.3	43.6
	キレない	33.7	41.9 >	26.9	32.0	35.4
4. 朝寝坊して、親に怒られる	キレる	12.0	12.3	11.8	14.0	10.1
	キレそうになる	29.2	24.7 <	32.9	29.1	29.3
	キレない	58.7	63.0 >	55.3	56.9	60.6
5. 授業中騒いで、先生に注意される	キレる	4.8	6.4	3.6	6.7	3.0
	キレそうになる	22.4	21.4	23.3	25.0 >	19.9
	キレない	72.7	72.2	73.1	68.4 <	77.1
6. 自分は騒いでいないのに、先生から注意される	キレる	36.8	36.9	36.7	40.4 >	33.1
	キレそうになる	48.5	45.4 <	51.0	47.7	49.3
	キレない	14.7	17.7 >	12.3	11.9 <	17.6
7. 電車の中で携帯電話で話している人がいる	キレる	3.5	4.4	2.8	3.8	3.2
	キレそうになる	17.3	18.5	16.3	18.4	16.0
	キレない	79.2	77.1	80.9	77.7	80.8
8. レジなどで割り込みをされる	キレる	23.9	26.0	22.1	26.1 >	21.6
	キレそうになる	51.8	48.6 <	54.5	49.7 <	54.0
	キレない	24.3	25.4	23.4	24.2	24.4
9. 混んだ電車のシルバーシート（優先席）に、高校生が座っている	キレる	5.8	6.5	5.2	6.4	5.1
	キレそうになる	24.9	21.0 <	28.0	23.8	26.0
	キレない	69.3	72.5 >	66.8	69.8	68.9
10. 高校生が道でタバコを吸っている	キレる	5.1	4.9	5.3	6.4	3.8
	キレそうになる	15.3	13.0 <	17.2	16.2	14.4
	キレない	79.6	82.1 >	77.5	77.4 <	81.8
11. 社会で悪いことをしている人がつかまらない	キレる	20.6	17.6 <	23.1	23.0 >	18.3
	キレそうになる	29.6	25.6 <	32.8	29.0	30.2
	キレない	49.8	56.8 >	44.1	48.1	51.5
12. 戦争で人がたくさん死んでいる	キレる	19.2	14.4 <	23.0	19.8	18.5
	キレそうになる	26.8	21.8 <	31.0	28.3	25.3
	キレない	54.0	63.8 >	46.0	51.9 <	56.2

> は4%以上差があるもの

3 高校生をキレなくさせるもの

次に高校生の、特に友だち、親、先生に対する「キレル - キレない」に影響を与えるものをみていくことにしたい。

1) 家庭

家庭の教育力の低下がよくいわれるが、親の存在は高校生の「キレル - キレない」にどのような影響を与えているのだろうか？

図5 - 1にみられるように、母親といろいろと話すことがある高校生ほど、「友だちが連絡なしに30分以上遅れる」「自分が遅れて、友だちにすごく怒られる」、そして「授業中騒いで、先生に注意される」ときでも、キレない傾向がみられた。

また、父親については、図5 - 2にみられるように、いろいろと話すことがある高校生

図5 - 1 キレルとき × 母親との会話

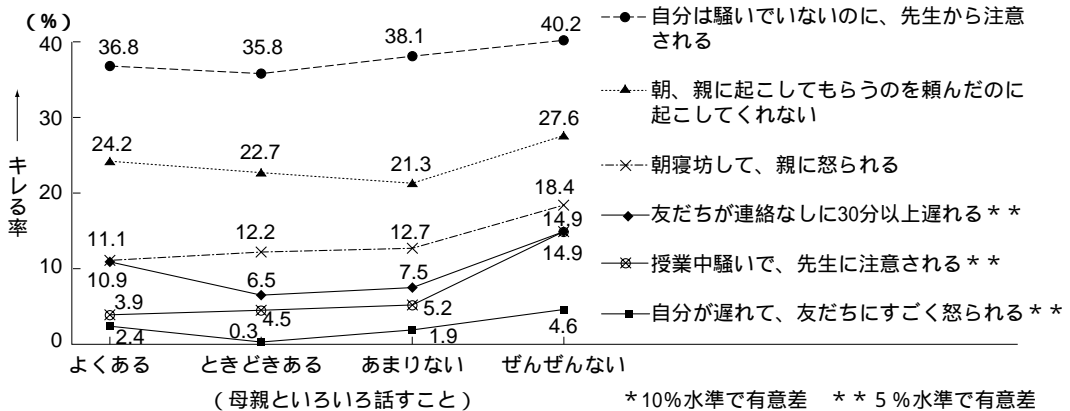
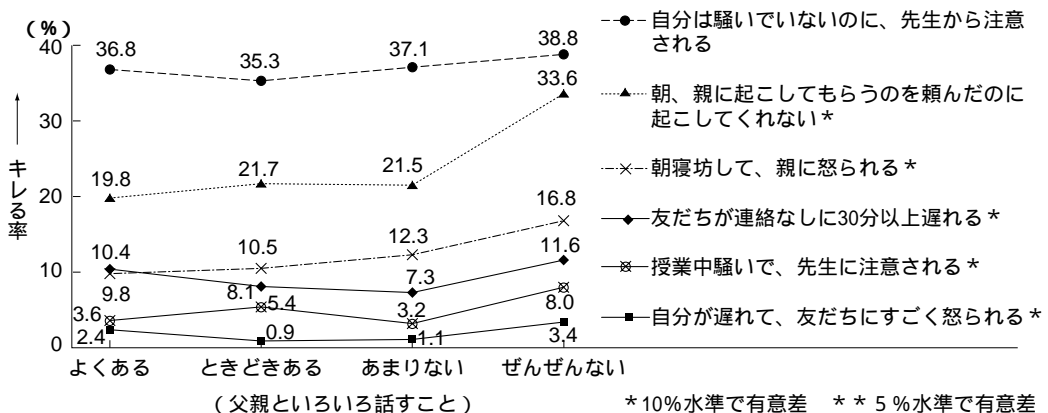


図5 - 2 キレルとき × 父親との会話



ほど、「自分は騒いでいないのに、先生から注意される」という先生に責任がある場合を除いて、キレない傾向がみられた。

このように、話す機会は母親よりも父親の方が少ないが（「よく＋ときどきある」が、母親80.5%＞父親50.8%）父親といろいろと話すことがある高校生ほど、キレにくくなる、という傾向がみられた。またさらに、キレル場合についてその段階をみると、特に母親、父親ともに話すことが「ぜんぜんない」場合、キレル割合が高まる傾向がみられた。

また親の期待についてみると、図5-3にみられるように、「親の自分への期待が大き

く精神的に負担に感じる」とあるほど、「自分が遅れて、友だちにすごく怒られる」を除いて、キレやすくなる、という傾向がみられた。また家庭全体の雰囲気として、図5-4にみられるように、「家族の会話が少なく、人間関係がギスギスすること」がよくあるほど、全ての場合においてキレやすくなる傾向がみられた。

このように、高校生においても、親との会話、親からの期待、そして家庭の雰囲気が、キレやすさに大きな影響を与えていた。なおきょうだいの数は、高校生のキレやすさに特に影響を与えていなかった。

図5-3 キレるとき × 親の期待を負担に感じる

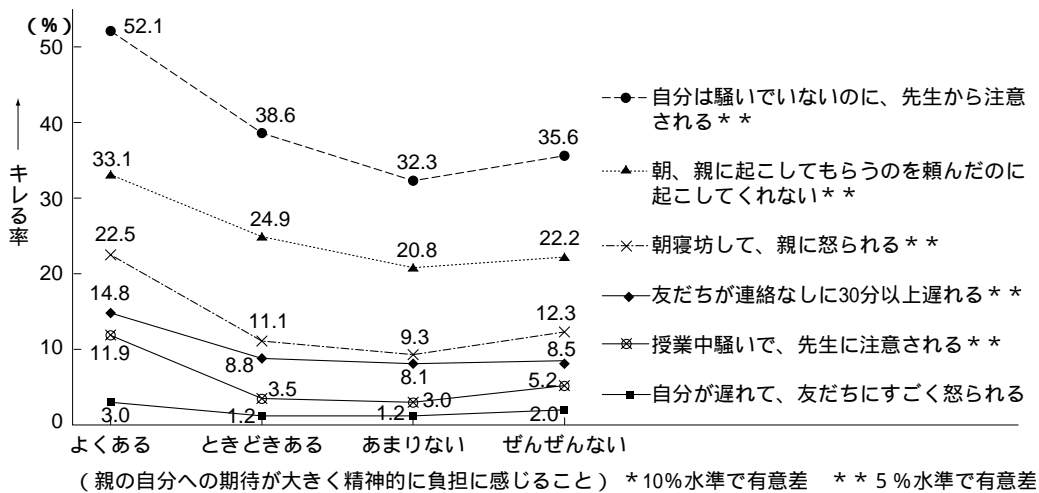
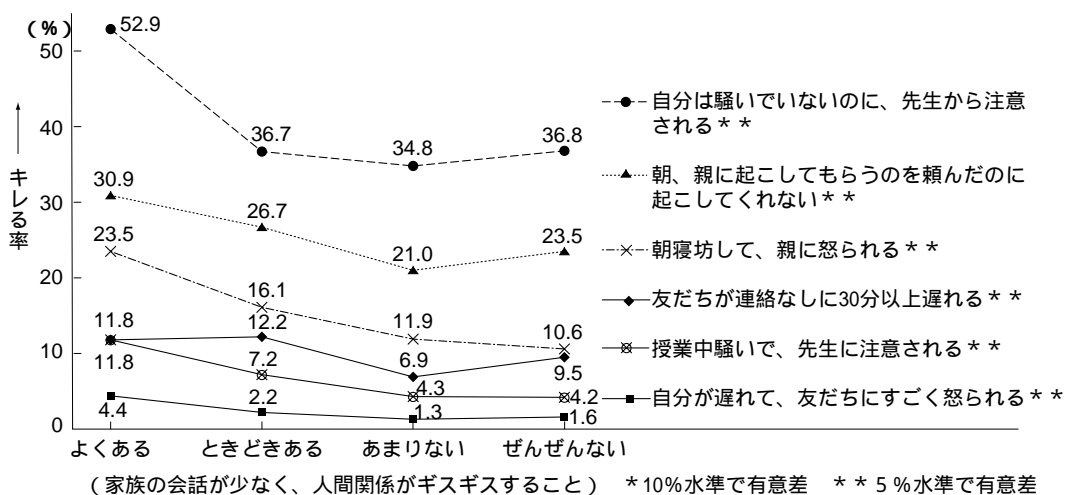


図5-4 キレるとき × 家族の人間関係がギスギスすること



2) 学校

次に学校についてみると、図5 - 5にみられるように、「人の生き方や人生について教えられる」先生がいる場合、「友だちが連絡なしに30分以上遅れる」「朝寝坊して、親に

怒られる」場合を除いて、キレにくくなる傾向がみられた。

またその他にも、「学校の授業は退屈である」という授業について(図5 - 6)「学校の校則や規則が厳しい」という校則・規則について(図5 - 7)そして「学校へ行くのは楽

図5 - 5 キレるとき × 先生から人生について教えられることがある

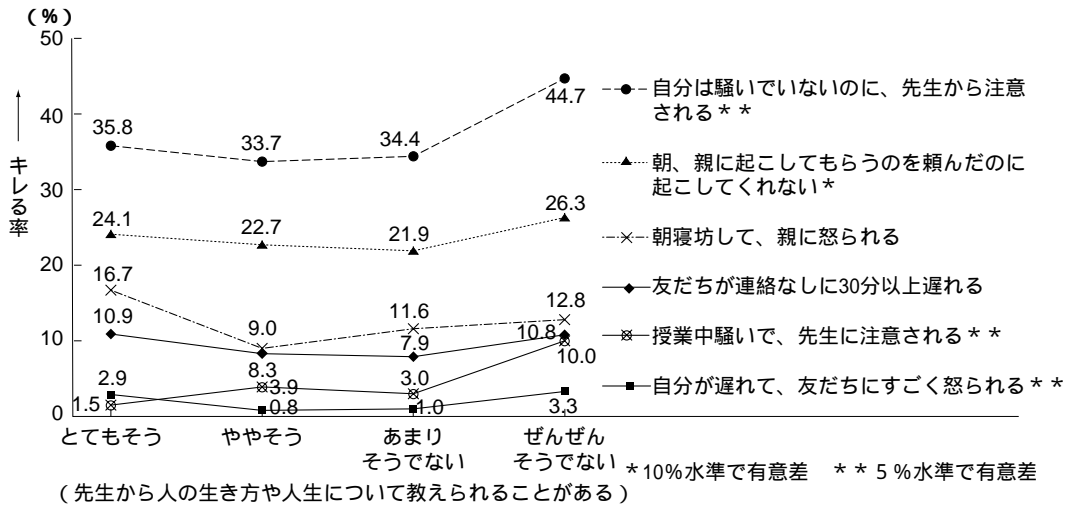
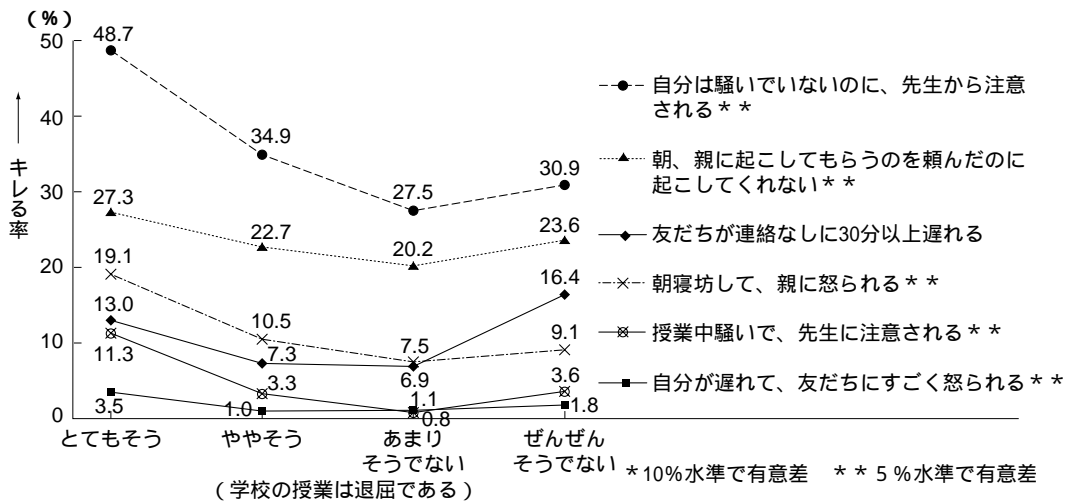


図5 - 6 キレるとき × 学校の授業は退屈である



しい」という学校全体の雰囲気について(図5-8)みると、授業と「友だちが連絡なしに30分以上遅れる」の関係を除いては、それぞれに問題があるほどキレやすい、という傾向がみられた。このように学校の存在も、高校生のキレやすさに重要な影響を与えている

ようであった。

ただし部活動の体験は、「授業中騒いで、先生に注意される」ときのみキレにくさに影響を与えていた。またアルバイト体験は「キレる-キレない」に、特に影響を与えていなかった。

図5-7 キレるとき × 学校の校則や規則が厳しい

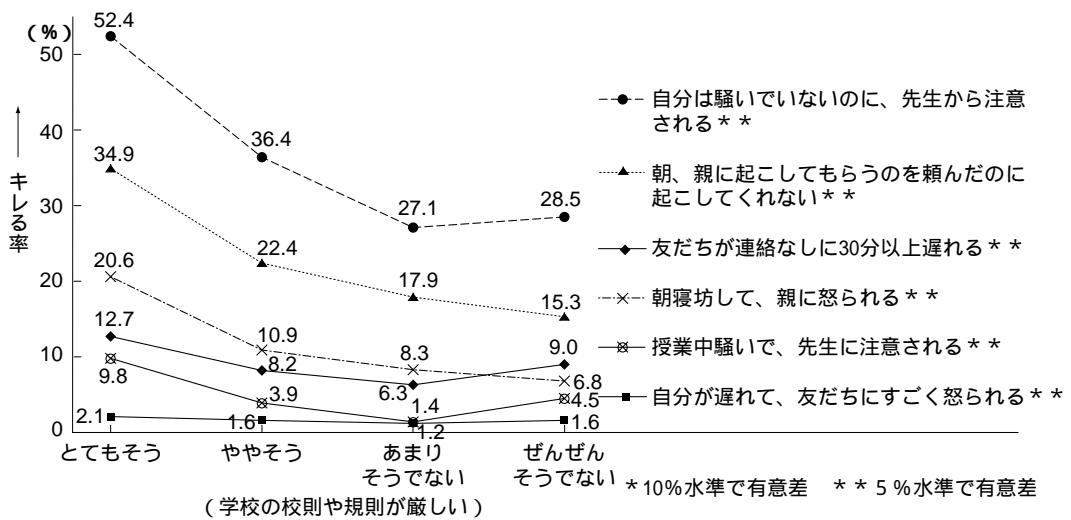
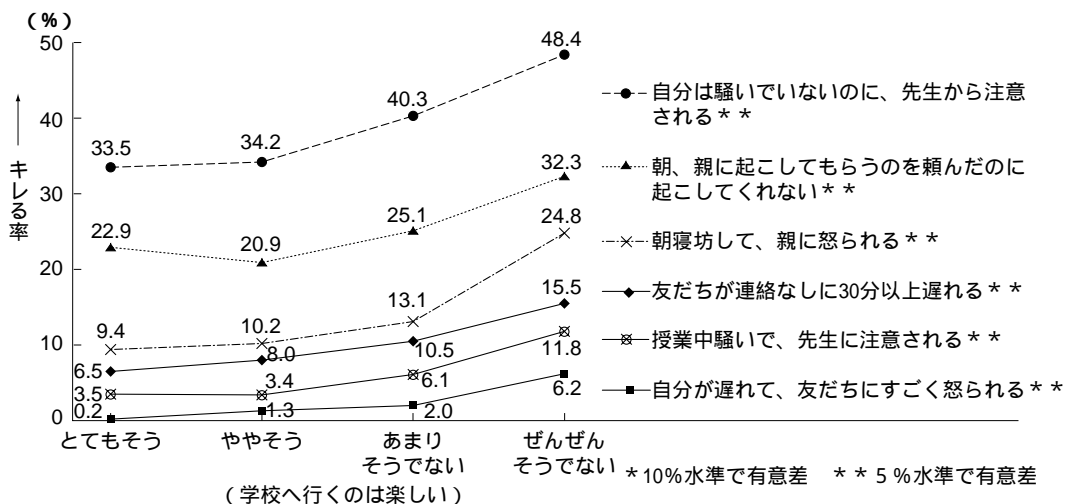


図5-8 キレるとき × 学校へ行くのは楽しい



3) 友だち

最後に友だちについてみると、図5-9にみられるように、「親友といえる友だち」がいても「自分が遅れて、友だちにすごく怒られる」という友だちとの関係で自分が悪いときのみ、キレないに影響を与えていた。また「困ったときに相談にのってくれる友だち」「人生や社会について語り合える友だち」がいる場合も同様で、「自分が遅れて、友だちにすごく怒られる」という友だちとの関係で自分が悪いときのみ、キレないに影響を与えていた。

このように友だちの存在は、高校生の「キレる - キレない」に限定的な影響のみを与えているようであった。

4) まとめ

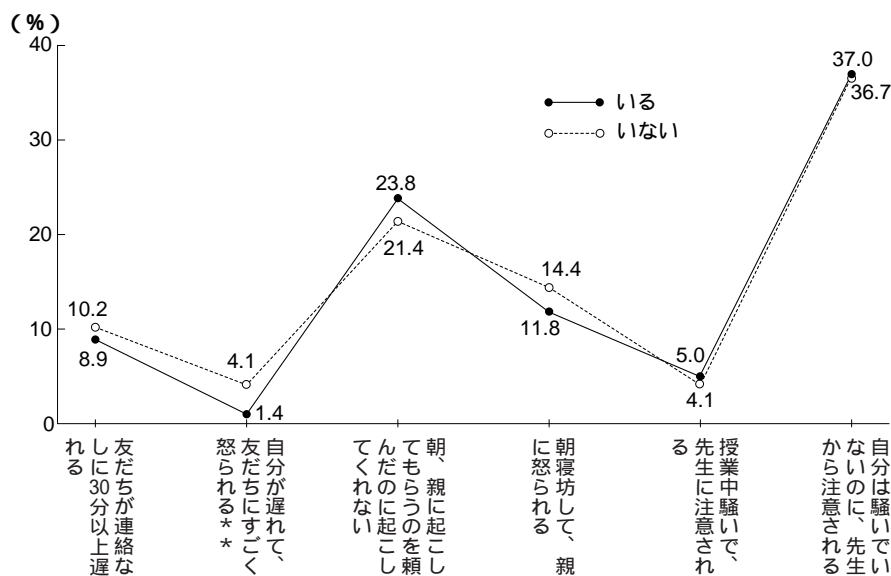
以上のように、「キレる」は高校生の流行語になっているように思われているが、キレることが最も多い「自分は騒いでいないのに、先生から注意される」でもその割合は36.8%であり、実際にキレる場面は限定的のようで

あった。また「社会で悪いことをしている人がつかまらない」や「戦争で人がたくさん死んでいる」というマクロな社会的正義に対しても約2割がキレる傾向がみられた。またキレることに影響を与えるものとしては家庭、学校が主であり、友だちの影響は少なかった。

高校生がキレるのは、上の世代の予想する枠組みである近代的なものごとへの許容範囲と、高校生の生きている脱近代的な世界での許容範囲とが異なるためであり、それが上の世代からは、いきなり高校生がキレた、とみえるわけである。本調査ではキレることに対して、親との会話、子どもへのプレッシャー、家庭の雰囲気、そして学校の先生、授業、校則、雰囲気が影響を与えることを示唆している。

また一般に思春期にある高校生は、成人と比べてエネルギーにあふれ、ものごとへの許容範囲が限定的な傾向がある。したがって高校生にとってはそのエネルギーをどのように向けるのか、いつ、どのようにキレるのかという「キレるスキル」を身につけていくことが大切なのではないかと思う。

図5-9 キレるとき × 親友の有無



* 10%水準で有意差 ** 5%水準で有意差

4 アイデンティティに影響を与えたメディア

1) 高校生とメディア

高校生は、さまざまなメディアに囲まれて暮らしている。その高校生に、「高校に入ってから読んだり見たり聞いたりしたものの中で、一番心に残ったもの」についてきいてみると(設問18)それは表5-3のようになる。

表にみられるように、「映画」(19.7%)が最も多く、次いで、「音楽」(17.4%)「本や雑誌」(17.1%)がともに2割弱であった。映画が1位なのはやや意外な感もあるが、映画界も近年は1つの建物の中でいくつもの映画が上映できるシネマコンプレックスの増設等を行い、¹⁾1998年においては、映画人口(前年比7%)興行収入(同9%)とも増加させている。また新聞社の調査によれば、²⁾高校生の読書量は月1冊といわれているが、心に残ったメディアとしては「本や雑誌」は3位で

あった。

また他には、「テレビ」(10.4%)、マンガ(10.0%)が約1割だった。³⁾NHKの調査によれば、高校生の平日のテレビ視聴時間は2時間7分で、CD・テープ(40分)雑誌・マンガ(18分)本(5分)よりも多いが、「一番心に残ったもの」としては、音楽、本や雑誌より少なくなっていた。またマンガ業界も1996年よりマイナス成長になっており、かつてほどのブームではない、といわれている。

なお「その他」は3.8%で、その内容は先生、先輩、友人の言葉が多かった。また「特に心に残ったものはない」も約2割(21.6%)いた。

これを性別にみると、「本や雑誌」は女子に多く、「マンガ」「特に心に残ったものはない」は男子に多かった。

学年別では、「映画」が2年生に多く、「特

表5-3 心に残ったメディア × 性・学年

(%)

	全 体	性 別		学 年	
		男 子	女 子	1 年	2 年
1. 本や雑誌	17.1	13.3	< 20.1	16.3	17.8
2. マンガ	10.0	12.5	> 8.1	11.2	8.8
3. テレビ	10.4	8.5	11.9	9.2	11.5
4. 映画	19.7	19.8	19.6	16.1	< 23.3
5. 音楽	17.4	17.7	17.1	18.1	16.7
6. その他	3.8	4.1	3.6	4.2	3.5
7. 特に心に残ったものはない	21.6	24.1	> 19.7	24.9	> 18.4

> は4%以上差があるもの

に心に残ったものはない」が1年生に多かった。

また友人関係との関連をみると、表5 - 4 にみられるように、親友がいる高校生は「本や雑誌」「音楽」が心に残っており、親友がいない高校生は「特に心に残ったものはない」が多かった。

なおきょうだいの数、成績、部活動は特にメディアとの関係はなかった。ただアルバイトをしている高校生は、「音楽」「その他」が多かった。これはアルバイト先では、音楽を聴いたり、さまざまな人と出会ったりする機会があることが関係している、と考えられる。

2) メディアの影響

① 選択肢のある回答から

次に、それぞれのメディアが高校生にどのような影響を与えたのかをみてみよう。まず設問18 - Bでの選択肢での回答をみると、それは表5 - 5のようになる。

まず全体としては、「気分転換になった・おもしろかった」が半数近く（50.5%）で、メディアの高校生への影響が、何よりも「気分転換・おもしろさ」になっていることがうかがえた。また次に、「もっとがんばろうという元気が出た」（40.0%）が多く、「がんばる」は日本の若者への合い言葉になっているようであった。

さらに「今まで知らなかったこと（知識）を知った」が約3割（29.1%）そして「自分のやりたいこと（理想）がわかった」（14.2%）「自分のことがよくわかった」（5.9%）の順になっていた。マンガ等の研究で、高度成長期までは理想の追求、石油ショック以降は私らしさを求める傾向があるという指摘があるが、本調査では現代の高校生でも「自分のことがよくわかった」よりも、「やりたいこと（理想）を知った」者の方が多い、という結果がみられた。また「その他」は12.6%だった。

性別では、女子に「もっとがんばろうという元気が出た」が多かった。学年別では、1年生に「自分のやりたいこと（理想）がわかった」が多かった。

またこれをメディア別にみると、表5 - 6 にみられるように、本や雑誌は「今まで知らなかったこと（知識）を知った」「自分のやりたいこと（理想）がわかった」「自分のことがよくわかった」という、何かを知った知的な影響がみられた。

それに対して映画、マンガは「気分転換になった・おもしろかった」という気分の転換という影響が強くみられた。また音楽は「もっとがんばろうという元気が出た」、その他は「今まで知らなかったこと（知識）を知った」「その他」が強かった。

表5 - 4 心に残ったメディア × 親友の有無

(%)

	親友といえる友だち	
	いる	いない
1. 本や雑誌	17.9	> 10.9
2. マンガ	9.7	13.5
3. テレビ	10.4	10.4
4. 映画	19.4	21.8
5. 音楽	18.1	> 11.9
6. その他	3.9	3.1
7. 特に心に残ったものはない	20.6	< 28.5

> は4%以上差があるもの

表5 - 5 メディアの影響 × 性・学年

(%)

	全 体	性 別		学 年	
		男 子	女 子	1 年	2 年
1. 自分のやりたいこと（理想）がわかった	14.2	15.0	13.5	16.8	> 11.7
2. 自分のことがよくわかった	5.9	6.2	5.8	6.5	5.4
3. もっとがんばろうという元気が出た	40.0	36.5	< 42.7	38.9	41.0
4. 気分転換になった・おもしろかった	50.5	52.1	49.1	51.1	49.9
5. 今まで知らなかったこと（知識）を知った	29.1	30.0	28.4	29.3	29.0
6. その他	12.6	13.0	12.3	13.9	11.3

(複数回答)

> は4%以上差があるもの

表5 - 6 メディアの影響 × メディア

(%)

	メディア						
	本や雑誌	マンガ	テレビ	映画	音楽	その他	
1. 自分のやりたいこと（理想）がわかった	(19.0)	10.6	12.9	9.9	17.3	15.9	**
2. 自分のことがよくわかった	(9.8)	7.2	3.8	1.4	7.1	7.2	**
3. もっとがんばろうという元気が出た	35.3	36.1	40.9	30.3	(58.3)	39.1	**
4. 気分転換になった・おもしろかった	41.5	(61.1)	47.8	60.1	47.8	20.3	**
5. 今まで知らなかったこと（知識）を知った	(44.8)	29.4	31.2	21.5	18.3	34.8	**
6. その他	7.5	10.6	10.2	14.7	8.7	(29.0)	

(複数回答)

* 10%水準で有意差 ** 5%水準で有意差

○ は最大値

②自由回答から

次にメディアの影響を、設問18 - Cの自由回答からみていくことにしたい。

映画の中で最も人気があったのは「アルマゲドン」で、4.4%の高校生があげていた。ストーリーは地球にぶつかるうとしている小惑星へ、男たちがそれを核爆発させようと宇宙船で乗り込むという、アメリカ映画らしいものである。特にクライマックスでは、機械の故障で小惑星に1人残らなければならない、主人公が娘の恋人の代わりに残ることになる。最後に地球にいる娘と交信するシーンが感動的である。

そして高校生の感想でも、「親子の絆の深さと信頼関係に感動した」「父親の娘への愛とか、他の人々の勇気とか生命力をとでも感じた」などの父娘の絆に感動したというものが多かった。また「あきらめないで最後までやりとおしていたところ」「最後の方のシーンで、自分の命をかけて、地球を救う場面で、すごく感動した。自分も命をかけて助けたいと思った」という、日常では起こりえないような使命を果たしていくところへの感動も多かった。

2番目には、「タイタニック」(1.2%)があげられていた。「タイタニック」は、その出航から、冰山との衝突、沈没という歴史的な事実の中に、船上で出会った男女のラブストーリーが描かれている。そして高校生の感想でも、「自分の命を犠牲にしてまで相手の命を救ったから」「今まで、今いち愛というものを信じられなかったが、本物の、命をかけてもいいくらいの愛というものがこの世にあることを知った」という、男女の愛に感動した、というものが多かった。

なお、その他には「パッチ・アダムス」(0.7%、「私も将来、あんなやさしい気持ちで医療の仕事がしたい」などの感想)、「フォレスト・ガンプ」(0.6%、「自分もいろいろなことに挑戦すれば何かできるのではないかと思った」などの感想)などがあげられていた。

このように、先に選択肢の回答から映画の

影響として「気分転換・おもしろかった」が多いことをみたが、この場合はかなり強い感動による気分の転換も含まれているようであった。

音楽ではサザンオールスターズの「TSUNAMI」(1.0%)が最も多かった。「TSUNAMI」はサザンオールスターズの久々のヒット曲で、サビの部分で「見つめ合うと素直にお喋り出来ない 津波のような佻しさに I know...怯えてるHoo...」と歌うバラード調の歌である。高校生の感想では「その歌を聞くと、ジーンとなるから」「その時の自分にピッタリきて、ぐさぐさと刺さったから」など、歌詞、メロディーとも自分の気持ちにぴったり合ったというものが多かった。またその他には、ゆずの歌(0.5%、「すごく心があたたかくなる。メッセージが心に届く」などの感想)、19の歌(0.5%、「生き方について悩んでいるときに、この曲にはげまされたように感じた」などの感想)などの「はげまし」があげられていた。なお心に残った歌としては、モーニング娘。、SPEED、浜崎あゆみ、宇多田ヒカルなどの同年代の女性歌手はほとんどあげられていなかった。これはやはり、高校生もCDなどはたくさん買ってカラオケなどで歌うだろうが、「高校に入ってから一番心に残ったもの」としてはあげにくかったため、と思われる。

本や雑誌では、ベストセラーになった障害を持つ若者の半生が書かれた『五体不満足』が圧倒的に多かった(1.2%)。感想としては「今まで見たことのない人に出会って、すごい衝撃を受けた」「生命の尊さと、自分の可能性を知り、将来のことにも前向きに考えられるようになった」など、主人公の障害について知り、さらに自分自身についても知ることができた、というものが多かった。

テレビでは「金八先生」が多かった(1.1%)。現代の高校生でも、学園もののシリーズの人気は根強いようである。感想は、「先生と生徒の絆に心を打たれた」「本気で生徒にぶつかった」などがあつた。他には「ZONE」

というさまざまなテーマを扱うドキュメンタリーがあげられ(0.3%)、感想は「自分がどれだけ甘えていたかを思い知らされた」などがあった。

マンガでは、体がゴムのように伸びるという特殊な能力を持った海賊少年の物語「one piece」(0.8%)が最も多かった。感想は「絵がスクリーンをあまりつかわず、海賊とゆう、いままでにはあまりなかったジャンルなので、おもしろく、作者もユニークでおもしろく、いろんな豆知識(ピッケ、パイキングetc.)を知れたから。てゆうか、ストーリーがおもしろい」という、ストーリーをはじめとする海賊の物語のおもしろさに引かれたものが多かった。また次は「スラムダンク」というバスケットボールを描いたマンガが多く(0.5%)「僕も、バスケットをやっている

ばっているのを見て感動し、部活動を一生懸命やろうと思った」などの感想がみられた。

③自分らしさ観

最後に、メディアと設問7の自分らしさ観との関係を見ると、それは表5-7のようになる。表にみられるように、マンガに影響を受けた者は、「本当の自分とニセの自分を使い分けている」と考えている。またその他で影響を受けた者は、「今の自分が好きだ」「自分らしさがある」「自分らしさを貫くことが大切だと思う」一方で、「自分がどんな人間かわからなくなることがある」「本当の自分は1つとは限らない」「本当の自分とニセの自分を使い分けている」「自分を変えたい」とも考えている、という多様な傾向がみられた。

なお影響を与えたメディアと、2節でみたキレやすさとは特に関係はなかった。

表5-7 自分らしさ観 × メディア

	メディア						割合	
	本や雑誌	マンガ	テレビ	映画	音楽	その他		
1. 今の自分が好きだ	11.8	7.3	5.9	9.3	12.2	26.1	**	
2. 自分がどんな人間かわからなくなることがある	24.2	27.4	20.4	23.2	29.8	37.1	*	
3. 自分には自分らしさというものがあると思う	27.6	23.2	25.8	19.8	24.0	37.7	**	
4. どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切だ	32.4	29.2	33.0	31.4	33.9	37.7	**	
5. 状況によってでてくる自分というものは違う	33.4	31.6	34.4	31.9	36.0	43.5		
6. 話す相手によって本当の自分とニセの自分を使い分けていると思う	31.0	39.1	33.9	26.6	32.5	43.5	*	
7. どこかに、今の自分と違う本当の自分があるように思う	30.4	32.6	26.3	25.0	35.2	37.7		
8. 本当の自分は1つとは限らない	33.9	35.8	33.3	31.4	35.2	44.9	*	
9. 今の自分を変えたいと思う	30.1	31.3	41.9	33.7	40.1	36.2	*	

「とてもそう思う」割合
 * 10%水準で有意差 ** 5%水準で有意差
 ○ は最大値

3) まとめ

以上のように高校に入ってから一番心に残ったメディアとしては、映画（19.7%）、音楽（17.4%）、本や雑誌（17.1%）などがみられた。またその影響を選択肢の回答や自由回答からみると、例えば映画では、「アルマゲドン」や「タイタニック」により、親子や男女の愛の深さに感動し気分を転換できた、などの影響がみられた。また音楽では、サザンオールスターズ、ゆず、19などの歌で、「自分にぴったりきた」「はげまされた」などの影響がみられた。また本や雑誌では、『五体不満足』で「障害者、そして生命の尊さや自分自身についても知ることができた」などの影響がみられた。

若者を取り巻くメディアは、活字からCD、映画、マンガ、テレビ、ビデオ、そしてインターネットなどさまざまなものがある。また

その内容も、純文学と大衆文学という枠組みの変化や、音楽におけるさまざまなジャンルの出現など、多様な変化がみられる。最近では音楽と映画、さらに、テレビ、アニメ、小説などとのタイアップも進んでいる。これらは主に、学校を通じた学校文化というよりも、若者文化として高校生に影響を与えているので実態が捉えにくく、重要性があるわりには研究が進んでいない面がある。社会学の分野ではカルチュラル・スタディの研究が広がりにつつあるが、高校生に影響を与える文化としてのメディアにも着目する必要があると思う。

[引用文献]

- 1) 『現代用語の基礎知識』自由国民社、2000年。
- 2) 第44回学校読書調査（毎日新聞、1998年10月28日）
- 3) NHK放送文化研究所編『日本人の生活時間・1995』NHK出版、1996年。
- 4) 宮台真司他『サブカルチャー神話解体』パルコ出版、1993年。

第6章 ||||

悩みの相談相手と癒し

近年、高校生は悩まなくなったといわれることが多い。豊かな社会は、高校生たちにゆとりある消費生活をもたらし、高校受験は推薦入試の導入により（もちろん少子化も大いに影響しているが）以前と比べて楽になったという。さらに、いわゆる有名大学や一流大学の価値が低下し、以前の受験生のように自分の人生の成功を大学受験に賭ける必要もなく無理もせず、高校受験も大学受験も人生の一通過点にすぎないようである。高校生活にはさほどの価値をおいているわけではないが、他に居場所もない。とりあえず学校にいれば、友だちもいる、得意な教科もある、部

活動もある。すごく充実しているわけではないが、一日を過ごせる。そんなさめた高校生にとって、いったい悩みとはどんなことを意味するのだろうか。

調査項目を作成するにあたり、高校生にヒアリングをしてみた。高校生にとって「悩み」とはなんだろうか、一層疑問がわいてきた。高校生の言葉を借りれば、悩みには「苦しいほどの悩み」と「心地よい悩み」があり、抱えていて心地よい悩みは、それ自体ほどほどの幸せ感を持つという。そこで、この章では、高校生の悩みの程度とその癒しを探ってみた。

1 悩みの種類と重さ

高校生にとって「悩み」とは、どんなことなのだろうか。「悩み」と大きく括っても、不安や迷い、困っていることなどさまざまである。そこで、悩みを捉える項目として学校生活や友だち関係、ファッションや体のことをどのくらい気になるかと尋ねてみた。その結果が表6-1である。学業成績・友だち関係、ファッション・容姿や体のこと、性・異

性関係にまとめて示した。「とても気になる」数値に着目してみると、「出かけるときの髪型や服装」が37.9%と最も高く、次いで「定期試験や模擬試験の結果」(36.4%)、「自分の容姿やスタイル」(34.5%)、「友だちから信頼されているか」(34.2%)が3割を超える。「わりと気になる」を合わせると7割を超え、多くの高校生が試験の結果やファッシ

ョン、友だちから信頼されているかなどを気にしていることがわかる。性・異性関係については、「異性の体への興味・関心」「彼氏(彼女)ができない」「アダルトビデオやポルノ雑誌」が「とても気になる」割合は1～2割程度である。「彼氏(彼女)が

できない」「アダルトビデオやポルノ雑誌」は「ぜんぜん気にならない」が「とても気になる」割合を上回っている。

ここからは、属性との関連で「気になること」をさらに追ってみよう。図6-1は、性別での比較である。数値は「とても気になる」

表6-1 気になること

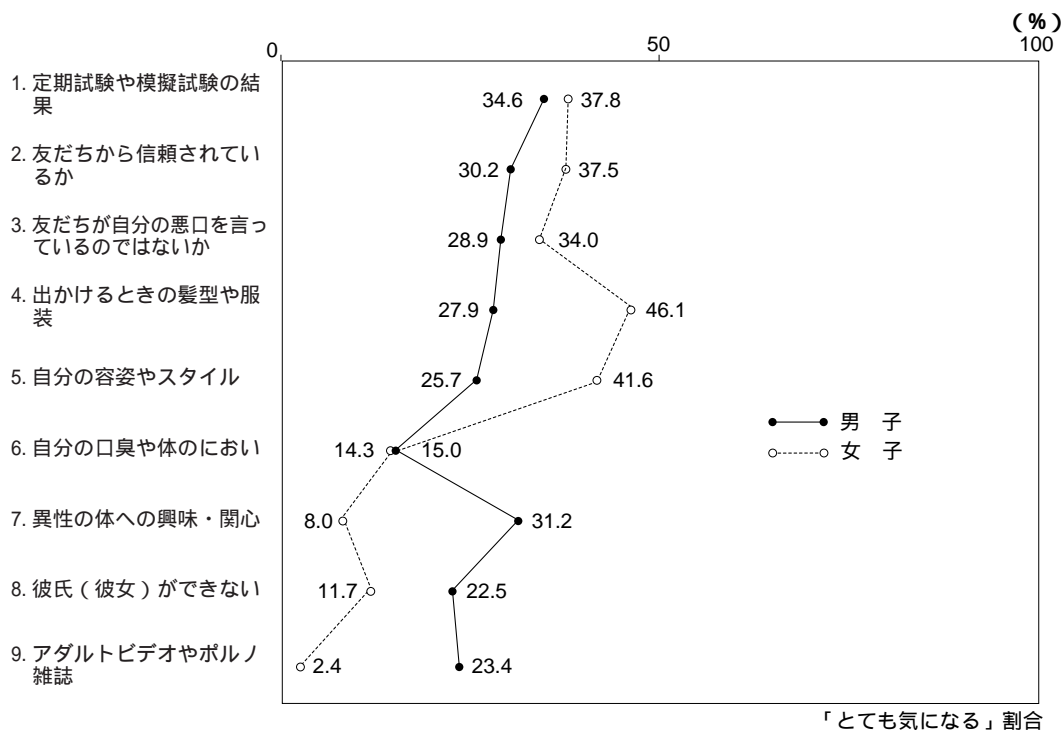
(%)

	とても 気になる	わりと 気になる	あまり 気にならない	ぜんぜん 気にならない
1. 定期試験や模擬試験の結果	36.4	43.9	15.6	4.2
2. 友だちから信頼されているか	34.2	41.8	19.5	4.5
3. 友だちが自分の悪口を言っているのではないか	31.7	37.1	24.0	7.1
4. 出かけるときの髪型や服装	37.9	45.8	13.2	3.1
5. 自分の容姿やスタイル	34.5	44.9	16.7	4.0
6. 自分の口臭や体のにおい	14.6	40.9	34.5	10.0
7. 異性の体への興味・関心	18.4	28.4	38.9	14.3
8. 彼氏(彼女)ができない	16.6	24.5	34.2	24.8
9. アダルトビデオやポルノ雑誌	11.9	21.2	38.0	28.9

割合を示している。女子が気にしていることは、「出かけるときの髪型や服装」(男子27.9% < 女子46.1%) 「自分の容姿やスタイル」(男子25.7% < 女子41.6%) である。一方、男子は「異性の体への興味・関心」(男子31.2% > 女子8.0%) 「アダルトビデオやポル

ノ雑誌」(男子23.4% > 女子2.4%) 「彼氏(彼女)ができない」(男子22.5% > 女子11.7%) となる。女子はファッションや自分の容姿・スタイルに、男子は性・異性関係に関心が高いことがわかる。

図6 - 1 気になること × 性



次に、学校生活との関連をみてみよう。表6-2は、「学校へ行くのは楽しい」とのクロス集計を示した。表によれば、学校がとても楽しい群は、「定期試験や模擬試験の結果」(43.6%)、「友だちから信頼されているか」(39.0%)、「出かけるときの髪型や服装」(42.4%)、「異性の体への興味・関心」(21.7%)の項目で「とても気になる」と答えた割合が高い。逆に、学校が楽しくない群は

「自分の容姿やスタイル」(37.7%)、「自分の口臭や体のおい」(18.6%)が「とても気になる」割合が高く、「定期試験や模擬試験の結果」や「友だちから信頼されているか」は、あまり関心を示していない。

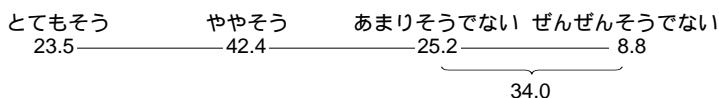
表6-3は、成績との関連である。各項目の最大値をみると、成績上位者は「定期試験や模擬試験の結果」(48.1%)、「友だちが自分の悪口を言っているのではないか」(35.9%)

表6-2 気になること × 学校の楽しさ

	学校へ行くのは楽しい		
	とてもそう	ややそう	あまり+ぜんぜん そうでない
1. 定期試験や模擬試験の結果	43.6	33.1	35.5
2. 友だちから信頼されているか	39.0	33.9	31.5
3. 友だちが自分の悪口を言っているのではないか	31.7	30.2	33.7
4. 出かけるときの髪型や服装	42.4	34.7	38.8
5. 自分の容姿やスタイル	36.4	30.8	37.7
6. 自分の口臭や体のおい	15.6	10.9	18.6
7. 異性の体への興味・関心	21.7	15.1	20.4
8. 彼氏(彼女)ができない	14.3	16.6	18.2
9. アダルトビデオやポルノ雑誌	13.3	9.5	13.8

「とても気になる」割合
 ○ は最大値 ◯ は最小値 (5%以上の差)

「学校へ行くのは楽しい」



「彼氏（彼女）ができない」（21.8%）を、逆に、成績下位者は「友だちから信頼されているか」（37.5%）「出かけるときの髪型や服装」（42.7%）「自分の容姿やスタイル」（38.2%）「異性の体への興味・関心」（29.9%）「自分の口臭や体のおい」（20.4%）「アダルトビデオやポルノ雑誌」（19.5%）などを気にしている割合が高い。しかし、成績上位者も「友だちから信頼されているか」「自分の容姿や

スタイル」「自分の口臭や体のおい」「異性の体への興味・関心」「アダルトビデオやポルノ雑誌」の項目では、成績下位者に次いで「とても気にしている」数値が高いことがわかる。これらのことから、試験の結果や性・異性関係、ファッションや容姿・スタイルなどは、学校の楽しさや成績にかかわらず高校生にとって気になる関心事であると考えられる。

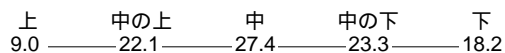
表 6 - 3 気になること × 成績

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
1. 定期試験や模擬試験の結果	48.1	39.3	34.8	35.0	31.7
2. 友だちから信頼されているか	35.9	34.5	30.6	33.3	37.5
3. 友だちが自分の悪口を言っているのではないか	35.9	33.6	27.0	30.9	34.3
4. 出かけるときの髪型や服装	35.9	38.0	34.5	37.7	42.7
5. 自分の容姿やスタイル	37.2	34.5	31.2	32.0	38.2
6. 自分の口臭や体のおい	19.2	13.0	11.8	13.2	20.4
7. 異性の体への興味・関心	23.1	12.0	13.9	19.6	29.9
8. 彼氏（彼女）ができない	21.8	12.8	15.2	16.1	19.9
9. アダルトビデオやポルノ雑誌	13.5	7.1	10.1	12.7	19.5

「とても気になる」割合
 ○ は最大値 _____ は最小値（5%以上の差）

「成績」



もう少し別な視点から「気になること」を探ってみよう。まず、過去の体験を「夜も眠れないくらいに気になる異性の存在」「チクチクと自分を傷つけるような言葉や視線」「今思っても赤面するような経験」の有無が「気になること」に与える影響をみたのが、表6-4である。「夜も眠れないくらいに気になる異性の存在」の体験では、「友だちから信頼されているか」(あった41.7% > なかった28.3%)、「友だちが自分の悪口を言っているのではないか」(同様に38.4% > 26.4%)、「出かけるときの髪型や服

装」(47.5% > 30.0%)、「自分の容姿やスタイル」(42.6% > 27.7%)、「異性の体への興味・関心」(25.0% > 13.0%)、「彼氏(彼女)ができない」(23.5% > 11.1%)など、友だち関係、ファッションや容姿、性・異性関係の項目で体験がない者との差が顕著である。次に、「チクチクと自分を傷つけるような言葉や視線」の体験では、「友だちから信頼されているか」(あった37.9% > なかった20.9%)、「友だちが自分の悪口を言っているのではないか」(同様に35.7% > 17.3%)、「自分の容姿やスタイル」(37.4% > 23.3%)

表6-4 気になること × 体験

(%)

	夜も眠れないくらいに 気になる異性の存在		チクチクと自分を傷つ けるような言葉や視線		今思っても 赤面するような経験	
	あった	なかった	あった	なかった	あった	なかった
1. 定期試験や模擬試験の結果	37.8	35.3	38.1	> 29.9	38.1	>> 27.7
2. 友だちから信頼されているか	41.7	>> 28.3	37.9	>> 20.9	36.5	>> 22.4
3. 友だちが自分の悪口を言っているのではないか	38.4	>> 26.4	35.7	>> 17.3	33.6	>> 21.8
4. 出かけるときの髪型や服装	47.5	>> 30.0	39.4	> 32.2	40.0	>> 26.8
5. 自分の容姿やスタイル	42.6	>> 27.7	37.4	>> 23.3	36.8	>> 22.2
6. 自分の口臭や体のにおい	17.4	> 12.2	16.2	> 8.8	15.6	> 9.6
7. 異性の体への興味・関心	25.0	>> 13.0	18.6	17.8	18.7	16.8
8. 彼氏(彼女)ができない	23.5	>> 11.1	16.6	16.8	17.1	13.9
9. アダルトビデオやポルノ雑誌	14.3	9.8	11.5	13.1	11.6	12.9

「とても気になる」割合
> 5%以上 >> 10%以上差があるもの

の項目で差が顕著にみられ、友人関係や自分の容姿に自信のない様子がうかがえる。さらに、「今思っても赤面するような経験」では、「定期試験や模擬試験の結果」(あった38.1% > なかった27.7%)、「友だちから信頼されているか」(同様に36.5% > 22.4%)、「友だちが自分の悪口を言っているのではないか」(33.6% > 21.8%)、「出かけるときの髪型や服装」(40.0% > 26.8%)、「自分の容姿やスタイル」(36.8% > 22.2%)の項目で差が開いており、過去の体験が悩みや不安に与える影響は大きいと推測される。

次に、自己受容や自己評価からみてみよう。表6 - 5は、「今の自分が好きか」とのクロス集計の結果である。自己受容の高い者は「異性の体への興味・関心」が33.5%と最も高く、自己受容の低い者では、「定期試験や模擬試験の結果」(45.2%)、「友だちから信頼されているか」(47.1%)、「友だちが自分の悪口を言っているのではないか」(50.5%)、「自分の容姿やスタイル」(48.1%)、「自分の口臭や体のおい」(24.2%)、「彼氏(彼女)ができない」(25.6%)などの項目を気にかける割合が高く、友人関係や自分

表6 - 5 気になること × 今の自分が好き

	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
1. 定期試験や模擬試験の結果	36.5	<u>34.5</u>	35.5	(45.2)
2. 友だちから信頼されているか	34.3	<u>28.8</u>	35.8	(47.1)
3. 友だちが自分の悪口を言っているのではないか	27.5	<u>24.3</u>	34.7	(50.5)
4. 出かけるときの髪型や服装	41.9	34.4	39.7	40.4
5. 自分の容姿やスタイル	30.5	<u>28.7</u>	37.1	(48.1)
6. 自分の口臭や体のおい	18.6	<u>11.5</u>	14.1	(24.2)
7. 異性の体への興味・関心	(33.5)	16.2	<u>15.7</u>	23.2
8. 彼氏(彼女)ができない	20.4	<u>11.7</u>	17.9	(25.6)
9. アダルトビデオやポルノ雑誌	19.2	10.3	11.0	13.6

(%)

「とても気になる」割合
 は最大値 は最小値(10%以上の差)

「今の自分が好きだ」

とてもそう思う まあそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない
 9.2 39.3 40.1 11.4

自身に迷いを感じている様子がうかがえる。

ところで、最近の高校生は、相手や場によってどのような態度をとれば自分にプラスになるかには敏感のようである。その背景には高校受験に推薦入試が導入されたことを指摘する声も多く聞く。そこで、表6-6では、「話す相手によって本当の自分とニセの自分を使い分けている」との関連についてみてみた。「とてもそう思う」と答えた者は、「友だちから信頼されているか」(42.5%)、「友だちが自分の悪口を言っているのではないか」(40.8%)、「出かけるときの髪型や服装」(46.4%)、「自分の容姿やスタイル」(45.5%)、「自分の口臭や体のおい」(21.6%)の項目で気になる数値が高く、友だちへの信頼や不

信感、自分の容姿やファッションがどうみられるか気にしており、相手によって本当の自分とニセの自分を使い分ける態度からは、相手の気持ちを素直に受け入れられない様子がうかがえる。

表6-7は、「今の自分を変えたい」との関連である。「とてもそう思う」と答えた者は、「定期試験や模擬試験の結果」(44.1%)、「友だちから信頼されているか」(48.1%)、「友だちが自分の悪口を言っているのではないか」(47.8%)、「出かけるときの髪型や服装」(50.3%)、「自分の容姿やスタイル」(51.4%)、「自分の口臭や体のおい」(21.8%)、「彼氏(彼女)ができない」(22.9%)の項目で最大値を示し、「まったくそう思わない」者は、「異性の体への興味・関心」(29.0%)、「アダ

表6-6 気になること × 話す相手によって本当の自分とニセの自分を使い分けている

(%)

	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
1. 定期試験や模擬試験の結果	41.6	34.7	32.4	35.2
2. 友だちから信頼されているか	42.5	32.6	26.1	33.6
3. 友だちが自分の悪口を言っているのではないか	40.8	31.2	21.1	32.0
4. 出かけるときの髪型や服装	46.4	34.2	31.4	41.4
5. 自分の容姿やスタイル	45.5	32.8	22.9	33.6
6. 自分の口臭や体のおい	21.6	12.7	8.1	16.4
7. 異性の体への興味・関心	22.3	16.0	16.7	18.8
8. 彼氏(彼女)ができない	21.1	13.7	14.4	18.8
9. アダルトビデオやポルノ雑誌	13.9	10.6	10.7	12.5

「とても気になる」割合
 は最大値 は最小値(10%以上の差)

「話す相手によって本当の自分とニセの自分を使い分けていると思う」

とてもそう思う まあそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない
 31.9 35.8 25.2 7.0

ルトビデオやポルノ雑誌」(21.0%)で数値が最大となっている。

これまでの結果から高校生の悩みをまとめると、以下ようになる。①性差がみられ、男子は、性・異性関係、女子は自分の容姿やスタイル、ファッションに関心が高い。②学校が楽しく・成績上位者は、試験の結果や異性の体への興味・関心が高い。試験の結果の悩みは高校生であれば当然だろうし、異性への関心はむしろ成長発達が順調であるといえよう。③体験や自己評価の影響が大きい。気になる異性の存在の体験は、友だちへの信頼、不信任感、自分の容姿やスタイル、ファッション、異性の体への興味・関心、異性交際の悩みを多くしている。このような悩みは、多くの生徒たちが

持っており、「軽い悩み、悩みを抱えることが心地よい」もので、むしろ悩むことで今後の楽しみや幸せが予測できるものと考えられる。

逆に、傷つけられるような言葉や視線の体験や、思い出しても赤面するようなマイナスの体験を持つ者や自己受容の低い者、相手によって態度を使い分けたり、自分を変えたいと思っている者が抱く友だちへの信頼、不信任感、容姿やスタイル、口臭や体のおいなどの悩みは、生徒たちがよくいう、「いろいろなことが絡み合って一層深刻な抱えきれない悩みとなって深みにはまっっていく」種類の重い悩みと考えられるのではないだろうか。

表6-7 気になること × 今の自分を変えたい

(%)

	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
1. 定期試験や模擬試験の結果	44.1	33.7	30.8	30.6
2. 友だちから信頼されているか	48.1	30.2	23.0	25.0
3. 友だちが自分の悪口を言っているのではないか	47.8	28.3	17.2	21.0
4. 出かけるときの髪型や服装	50.3	36.2	26.8	24.2
5. 自分の容姿やスタイル	51.4	29.7	21.3	21.0
6. 自分の口臭や体のおい	21.8	12.1	9.1	12.1
7. 異性の体への興味・関心	20.6	15.3	16.6	29.0
8. 彼氏(彼女)ができない	22.9	14.6	10.5	16.9
9. アダルトビデオやポルノ雑誌	12.7	10.8	9.4	21.0

「とても気になる」割合
 は最大値 は最小値(10%以上の差)

「今の自分を変えたいと思う」

とてもそう思う 33.9
 まあそう思う 35.1
 あまりそう思わない 24.2
 まったくそう思わない 6.8

2 悩みの相談相手

では、悩みを持ったとき、生徒たちはどのように解決しているのだろうか。近年、高校においても教育相談機能の充実が指摘されている。しかし相談室に相談に来る生徒は年間を通じてごくわずかである。多くの生徒たちは自分で解決方法を模索し解決しているのか、または解決できず抱えているのだろうか。高校生をみていると、不安や悩みに追いつめられながらそれを乗り越えるがまた押し寄せる不安や悩みの連続の者、悩みを解決する必要性を感じないような態度の者、あまり深刻

に悩まない者などさまざまな印象を受ける。ここでは、高校生たちが不安や悩みにどのように対処しているのか探ってみた。

表6 - 8は、友だち関係、容姿やスタイル、口臭や体のにおい、成績や進路、将来の目的などについての不安や悩みを誰に相談するか尋ねた結果である。どの項目も圧倒的に「友だち」に相談する割合が高い。そんな中で「自分の口臭や体のにおいが気になるとき」は、47.7%の者が「誰にも相談しない」と答えており、「生きる目的が見つからないとき」

表6 - 8 不安や悩みを誰に相談するか

(%)

	友だち	親	親以外の 家族や 親戚の人	先生	先輩	相談機関	その他	誰にも 相談しない
1. 友だちとのトラブル	75.9	4.1	1.8	0.2	0.5	0.2	1.6	15.6
2. 友だちからいじめられたとき	51.3	12.0	2.0	1.7	1.2	0.3	4.5	26.8
3. 異性の友だちができない	59.2	0.8	0.7	0.1	1.0	0.1	2.6	35.7
4. 異性の体への興味・関心	61.2	0.8	0.6	0.1	1.0	0.1	3.0	33.1
5. 自分の髪型や服装が似合わない	56.6	9.2	7.5	0.0	0.5	0.1	2.6	23.4
6. 自分の容姿やスタイルやダイエット	51.3	11.7	5.0	0.2	0.4	0.1	2.3	29.0
7. 自分の口臭や体のにおいが気になるとき	23.2	21.0	4.6	0.3	0.2	0.4	2.6	47.7
8. やりがいのある打ち込めるものが欲しい	50.4	8.7	2.1	0.8	1.8	0.2	4.2	31.8
9. 生きる目的が見つからない	37.7	15.2	2.0	1.1	1.3	0.3	3.9	38.5
10. 成績が落ちた	37.5	22.2	3.4	5.3	1.1	0.0	2.2	28.2
11. 将来、何をしたらいいのが迷う	34.9	31.6	3.6	4.3	1.6	0.2	2.6	21.2
12. 親の希望と異なる進路選択を考えると	34.1	18.7	5.6	9.6	1.1	0.2	4.0	26.8

○ は最大値

に「誰にも相談しない」割合も38.5%と最大値となっていることが目を引く。教師に関しては、「友だちとのトラブル」「友だちからいじめられたとき」では、ほとんど相談されないが、わずかに「親の希望と異なる進路を考えるととき」で9.6%の生徒が「先生」を相談相手にあげているにすぎない。

次に、悩みの相談相手として数値の高い「友だち」「親」「誰にも相談しない」について性別で比較したのが、表6-9である。

各項目の相談相手の最大値をみていくと、男子で「誰にも相談しない」と答えた項目は、「自分の口臭や体のおいが気になるとき」(55.5%)、「生きる目的が見つからないとき」(45.6%)、「親の希望と異なる進路選択を考えるととき」(37.5%)である。一方、女子は「自

分の口臭や体のおいが気になるとき」が41.4%で、それ以外のすべての項目では「友だち」に相談すると答えた者が最も多い。男女とも「友だち」に相談する割合は圧倒的に高いが、女子の方がより多く友だちに相談する傾向が強く、「誰にも相談しない」割合は男子に比べて低い。

ヒアリングしたとき、「異性のことで悩んで自分は異常かと不安だったが、友だちも同じようなことを話していたのでホッとしたり」「友だちに相談しても悩みの根本的な解決にはならないが、軽い気持ちになれるから」「誰かに無性にしゃべりたいから」など多くの高校生から聞いた。前節で述べた軽い心地よい悩みである「性・異性関係、ファッションや容姿・スタイル」などは、6~7割の生徒が友

表6-9 不安や悩みを誰に相談するか × 性

(%)

	男子			女子		
	友だち	親	誰にも相談しない	友だち	親	誰にも相談しない
1. 友だちとのトラブル	70.4	2.0	24.4	80.5	5.9	8.5
2. 友だちからいじめられたとき	48.6	5.8	34.3	53.5	17.1	20.8
3. 異性の友だちができない	58.7	0.7	36.0	59.5	0.9	35.4
4. 異性の体への興味・関心	67.4	0.5	28.2	56.2	1.0	37.2
5. 自分の髪型や服装が似合わない	52.1	4.3	35.7	60.3	13.3	13.5
6. 自分の容姿やスタイルやダイエット	45.3	4.8	43.5	56.3	17.4	17.3
7. 自分の口臭や体のおいが気になるとき	28.7	10.1	55.5	18.7	29.9	41.4
8. やりがいのある打ち込めるものが欲しい	48.8	6.6	36.6	51.8	10.3	27.8
9. 生きる目的が見つからない	33.7	12.0	45.6	40.9	17.7	32.7
10. 成績が落ちた	36.9	15.3	35.2	38.0	27.8	22.5
11. 将来、何をしたらいいのか迷う	31.3	25.8	29.6	37.9	36.4	14.3
12. 親の希望と異なる進路選択を考えるととき	23.1	20.3	37.5	43.1	17.5	18.1

○は最大値
□は親に相談する割合が20%以上

だちに相談することで、解決するまでには至らないが悩みや不安に一応対処しているようにみえる。表は省略したが、学校が楽しい群・成績上位者も同様の傾向を示している。

次に、「親」に相談する割合の高い悩みや不安をみると、女子では「自分の口臭や体のおいさが気になるとき」(29.9%)、「成績が落ちたとき」(27.8%)、「将来、何をしたらいいのか迷うとき」(36.4%)で3～4割、男子では「将来、何をしたらいいのか迷うとき」が25.8%と4人に1人となる。こうしてみると、成績が落ちたときや進路で迷ったとき親はかなり頼りにされていることがわかる。

もう少し相談相手を詳しくみてみよう。表

6-10は、「今の自分が好きか」とのクロス集計の結果である。自己受容の高い者は、すべての項目で「友だち」に相談する割合が高く、「親」や「誰にも相談しない」割合が低くなっている。逆に、自己受容の低い者は「友だち」に相談する割合が低く、「友だちにいじめられたとき」(42.5%)、「自分の口臭や体のおいさが気になるとき」(55.3%)、「やりがいのある打ち込めるものが欲しいとき」(48.1%)、「生きる目的が見つからないとき」(49.8%)、「成績が落ちたとき」(42.8%)、「親の希望と異なる進路選択を考えるととき」(43.4%)で4～5割を超える者が「誰にも相談しない」と答えており、「友だち」や「親」に相談すると答えた数値を大きく上回

表6-10 不安や悩みを誰に相談するか × 今の自分が好きだ

(%)

相談相手	とても好き			まったく好きでない		
	友だち	親	誰にも相談しない	友だち	親	誰にも相談しない
1. 友だちとのトラブル	77.8	5.4	13.2	64.4	2.4	26.0
2. 友だちからいじめられたとき	51.8	15.1	19.9	38.6	10.6	42.5
3. 異性の友だちができない	64.1	0.6	28.1	50.2	1.0	44.9
4. 異性の体への興味・関心	69.9	1.2	24.7	51.2	1.0	41.5
5. 自分の髪型や服装が似合わない	57.5	8.4	24.6	54.6	5.3	29.5
6. 自分の容姿やスタイルやダイエット	51.8	13.9	24.7	44.7	6.7	39.4
7. 自分の口臭や体のおいさが気になるとき	26.1	18.2	44.8	16.3	16.8	55.3
8. やりがいのある打ち込めるものが欲しい	55.7	10.2	23.4	38.3	5.8	48.1
9. 生きる目的が見つからない	41.6	14.5	32.5	33.8	8.6	49.8
10. 成績が落ちた	43.7	21.6	20.4	32.7	13.9	42.8
11. 将来、何をしたらいいのか迷う	32.9	37.1	16.2	29.6	23.8	31.6
12. 親の希望と異なる進路選択を考えるととき	39.2	18.7	18.7	33.6	18.6	43.4

○は最大値

っている。友だちからのいじめや口臭・体のにおい、生きる目的・やりがいや打ち込めるものが欲しいときなどの悩みや不安は、生徒たちにとっては深刻で重いものである。自己受容の低い者は、これら深刻な悩みや不安を1人で抱え込み、出口がみえない状況となつてますます深みにはまっていくのだろうか。こうした悩みをより一層深刻にさせないためには、生徒たちの「友だち関係」が重要であることが認められた。

人間関係が希薄で表面的なつきあいしかできないといわれる高校生にとって、友だちが悩みや不安の解消に大きな役割を担っていることに改めて驚く結果でもある。

最後に、表6-11で、心が癒される「ホッ

とする場所」を尋ねた。最もホッとする場所は「自分の部屋」で75.3%、次いで「自分の家」60.4%となる。学校内では「教室」が最もホッとする場所と答えているが、10.6%にすぎない。学校や自分の家以外では「自然（海、山、川など）」が46.4%と高く、次いで「友だちの部屋」が19.3%と続く。コンビニやカラオケに集う高校生は多いが、癒しの場にはなっていないことがわかる。性差でみると、女子は「家族がみんな集まる部屋」（女子32.5% > 男子17.8%）、「自分の家」（女子64.5% > 男子55.4%）などコミュニケーションも含めて癒しの場所と考える割合が高く、男子は「自然（海、山、川など）」で女子よりも若干高い。

表6-11 ホッとする場所

(%)

	全 体	男 子	女 子
教室	10.6	8.7	12.1
部室	8.4	9.6	7.4
図書室	6.3	5.3	7.2
保健室	3.5	2.8	4.0
校庭や体育館	2.4	3.8	1.3
自分の部屋	75.3	75.7	75.0
自分の家	60.4	55.4	64.5
家族がみんな集まる部屋	25.9	17.8	32.5
自然（海、山、川など）	46.4	49.9	43.5
友だちの部屋	19.3	20.4	18.5
カラオケやゲームセンター	6.7	8.6	5.2
コンビニ	5.1	7.2	3.3
路上や人ごみの中	2.3	2.0	2.5
塾や予備校	0.9	1.6	0.4
その他	14.5	16.1	13.2

(3つ選択)

> 5%以上 >> 10%以上差があるもの

終章ⅢⅢⅢ

高校生の悩み、 自我像の全体像

青少年の犯罪の増加が注目されている。確かに主要刑法犯で補導される人員、人口比はこの3、4年増加傾向にある。しかし、万引きや自転車泥棒が主要な比率を占めるこの数字は、取り締まる側の規制如何で増加もし減少もする。殺人、強盗などの凶悪犯罪は決して増加していない。また、青少年の家庭内暴力、校内暴力、いじめ、不登校、学級崩壊をめぐる数字にも一定の傾向がみられるわけではない。マスコミが、青少年犯罪の特異なケースを大々的に報道すると、それが今の青少年の一般的傾向であるように、人々の認識が形成される。

青少年の行動や意識の平均像がどのようなものであるかの、統計的調査が今求められている。

今回の調査対象者は、東北、関東、九州の3地域の高校生1～2年生1,826名(男子821名、女子1,005名)であり、必ずしも日本の

高校生の全体を代表しているわけではない。しかし、将来の進路希望をみると、国公立大学35.3%、私立大学15.1%、短期大学4.7%(以上大学・短大希望55.1%)、専修・専門学校17.4%、就職13.3%、その他2.9%、まだ決めていない11.2%と、かなりバラエティーがあり、さまざまな高校生が回答を寄せている。

悩みや不安のない青少年期というのは、考えられない。悩みや不安と格闘しながら成長を遂げていくのが、青少年期の課題である。しかし、悩みや不安にとらわれ、自分に自信をなくし、他者への不信感を持ち、将来への展望を拓けないというのは、好ましい状態ではない。

悩みや不安の原因を解明し、その悩み、不安除去の方策を探ることが肝要である。

高校生の悩みや自我像の全体像を最後にまとめておこう。

1 家族関係

「家族の会話が少なく、人間関係がギスギスすること」が「ある」は13.6%（「よくある」3.7%、「ときどきある」9.9%）、「ない」は86.4%（「あまりない」34.3%、「ぜんぜんない」52.1%）と、多くの高校生は暖かい家族関係の中で育っている。

「親から『勉強しなさい』と言われること」（「ある」53.1%）「親が自分の友だちや生活のことにうさく干渉すること」（「ある」37.0%）「親の自分への期待が大きくなり精神的に負担を感じる」（「ある」28.1%）は、あるにしても、それも親の子への愛情のなせるわざであり、愛情を感じ、適当にやりすごす術を、高校生たちは身につけている。

しかし、少数ながらも「家族の会話が少なく、家族の人間関係がギスギスしている高校生」が存在することにも注目しておきたい（男子14.0%、女子13.3%）。彼（彼女）らは、「イライラしたり、ムカついたりすることがよくあり」（69.1%）「居場所がないとよく感じ」（44.1%）「自分の将来に希望が持てないとよく思い」（44.1%）「学校はぜんぜん楽しくない」（20.6%）と感じている。

家族関係の改善を図ると同時に、家族の中で傷ついた自我を、家族以外の人間関係や活動で癒し、自信や人への信頼を回復する手だてが考えられなくてはならない。

2 友だち関係

「学校の授業は退屈である」（77.2% = 「とてもそう」25.4% + 「ややそう」51.8%）でも、「学校へ行くのは楽しい」（65.9% = 「とてもそう」23.5% + 「ややそう」42.4%）という生徒も多い。それは、学校には友だちがいるからである（学校で話す友だちが「いる」生徒の「学校へ行くのは楽しい」は66.6%に対して、「いない」生徒のそれは12.5%と低い）。

どんな友だちがいるかをきくと、「休み時間や昼休みに話す友だち」（98.7%）「一緒にいて、疲れない友だち」（95.6%）「困ったときに相談にのってくれる友だち」（93.1%）、「困ったときに相談にのってあげられる友だち」（93.0%）、「体育着や外出着を貸し借りできる友だち」（89.7%）、「親友といえる友だち」（89.1%）「自分の悪いところを気づかせてく

れる友だち」（88.1%）、「人生や社会について語り合える友だち」（87.4%）「うわべだけのつきあいの友だち」（85.4%）「勉強やスポーツでライバルの友だち」（68.3%）と、高校生の友人関係は多様であることがわかる。

親しい友人のいない生徒にとって、学校や人生や将来は暗いものになる。親友がいない生徒で、「学校へ行くのがぜんぜん楽しくない」割合は21.7%と多い（「親友がいる」生徒では7.3%）親友がいない生徒で、「イライラしたりムカついたりすることがよくある」は54.6%と多い（「親友がいる」生徒では42.8%）同様に親友がいないと「居場所がないようによく感じる」（38.8%対16.1%）「自分の将来に希望が持てない（よくある）」（25.6%対17.9%）と、現在も未来も暗く思えてしまう。

3 教師 - 生徒関係

人は人生の先達からさまざまなことを学んでいる。高校の教師は、高校生の人生の先達になっているのであろうか。

「人の生き方について考えたり討論したりする授業」は「ない」89.7%（あまり+ぜんぜん）、「学校の授業は退屈である」77.2%（とても+やや）と高校の先生の授業には満足度は低い。

しかし、「先生から人の生き方や人生について教えられること」が「ある」36.0%（「とてもそう」7.6%+「ややそう」28.4%）、「心底あこがれる先生との出会い」が「あった」37.4%とかなりの生徒が、先生から大きな影響を受けている（3分の1）

「先生から人の生き方や人生について教えられること」が「ない」生徒は、「ある」生徒に比べ、多少であるが、「学校へ行くのはぜんぜん楽しくなく」(42.8%対13.0%)、「イライラしたりムカついたりすること」が多く(51.9%対47.1%)、「居場所がないようによく感じ」(26.3%対21.0%)、「自分の将来に希望が持てない(よくある)」と感じ(22.8%対18.8%)ている。

高校教師の第1の役割は、いい授業をすることである。しかし同時に、教師は生き方の面でも知らず知らずに生徒に影響を与えている。その重要さを自覚して、授業や生活指導を行うことが大切である。

4 自我像

日本の子どもは、親や教師から叱られ、非難されることはよくあっても、誉められることは少ない。そのため 自我像の国際比較をすると、日本の青少年は自分に自信を持っていない者が多い。

今回の対象者では、「今の自分が好きだ」は、「とてもそう思う」9.2%、「まあそう思う」39.3%、「あまりそう思わない」40.1%、「まったくそう思わない」11.4%と、肯定が48.5%、否定が51.5%で否定の方が多い。半数以上が、今の自分が好きではない。

逆に自分の特質に関して多い回答は、「自分がどんな人間かわからなくなることがある」(「とてもそう思う」24.6%、「まあそう思う」43.3%、合計67.9%)、「今の自分を変えたいと思う」(「とてもそう思う」33.9%、「まあそう思う」35.1%、合計69.0%)、「何かを決めるとき、迷ってしまうこと」(「よくある」

57.5%、「ときどきある」33.3%、合計90.8%)、「自分の将来に希望が持てない」(「よくある」18.7%、「ときどきある」35.1%、合計53.8%)といった、自分に対する迷いや自信のなさを示す回答である。

このように、未来に関する自分に悲観的な見通しを持つ生徒が、半数以上いるというのは、ゆゆしきことであろう。

「自分の将来に希望が持てない」と相関の高い回答を拾ってみると(括弧内相関係数、すべて1%水準で有意差あり)、「今の自分が好きでない」(0.25)、「自分の居場所がないように感じる」(0.23)、「漠然とした不安を感じる」(0.22)、「自分がどんな人間かわからない」(0.22)、「ものごとを悪い方に考える」(0.17)、「イライラしたりムカつくことがある」(0.14)、「自分らしさを貫くことが大切とは思わない」(0.11)、「社会がだんだん悪くなる」

(0.11)「学校へ行くのは楽しくない」(0.10)などである。

これらの自分に対する否定的な自我意識を、どの程度の生徒が抱いているのであろうか。それを強く感じる生徒(「とても」「よく」)の割合と、「やや」「まあ」「ときどき」それを感じる生徒を加えた割合(括弧内)は、次の通りである。

「自分の将来に希望が持てない」18.7%(53.8%)、「今の自分が好きでない」11.4%(51.5%)、「居場所がないように感じる」18.5%(58.9%)、「漠然とした不安を感じる」27.6%(73.6%)、「自分がどんな人間かわからない」24.6%(67.9%)、「ものごとを悪い方に考える」19.0%(52.9%)、「イライラし

たりムカつくことがある」44.0%(87.7%)、「自分らしさを貫くことが大切とは思わない」2.6%(26.5%)、「社会がだんだん悪くなる」26.1%(63.5%)、「学校へ行くのは楽しくない」8.8%(34.0%)

以上から、極端な否定的自己イメージを持つ生徒は、それほど多くはない(3割以下)が、自己に対する漠然とした否定的、消極的イメージを持つ生徒が、半数以上いることがわかる。

これからの世代を担う高校生が、明るい未来社会をイメージし、積極的なかわりをしていくような自己像を築けるようにするのは、おとなたちの責任であろう。

おわりに

「自分の生き方を探す」 ことの大事さ

閉塞状態という感じ

これまで高校生の自己像を探ってきた。「はじめに」でふれたように、かつての高校生の心情といえば、「怒り」や「ふさぎ」に象徴されたように思う。しかし、現代の高校生は感情の起伏が少なくなった。

そこで、改めてかつての高校生らしさを考えてみよう。「怒り」にせよ、「ふさぎ」にせよ、そうした気持ちは、いくつかの背景から成立しているように思われる。

①社会的な達成の強さ

高校生は誰も自分の未来に夢をはせる。どんな生徒にせよ、将来に希望を持つことができるのが高校生の特権であろう。夢はふくらむのだが、現在の状況ではゴールにたどりつけそうもない。そうしたあせりが怒りやふさぎをもたらす。

②自尊感情の高さ

社会的な達成の高さは自分に対する自信に支えられている。自分ならこれくらいはできるはずだというような自尊感情の高さである。しかし、実際にはそうならない自分がある。自分の可能性を信じてはいるが、現実のダメな自分もある。そうしたギャップが怒りになったり、ふさぎをもたらす。

③将来や社会に対する信頼

それと同時に、高校生は将来に対して明るさを感じるだけでなく、社会についても信頼を抱いていたように思う。だから社会に不正があると怒るし、身体ごと不正にぶつかっていく。それが無力だと、自分の力量のなさをなげき、精神的に落ち込む。

そうした意味では、将来に向かって疾走するのが高校生らしさだった。しかし、本報告書によれば、現代の高校生はそれなりに不満の少ない環境の中で育ち、積極的な不満は少

ない。しかし、何となく満たされないものを感じているような印象を受ける。

確かに、かつてと比べ、将来や社会に信頼を持ちにくい状況が進んでいる(③)。この稿を執筆している7月、雪印の事件やそごうの倒産が大きく取り上げられている。警察の不祥事もあったし、総選挙の結果も夢を持てるものではなかった。大手企業や官僚組織は見掛け倒しだし、会社社長や局長にうさんくささを感じる。「社長や局長がこれでは、子どもが社会に夢を持ってない」などと単純な言い方をする気持ちはないが、それにしても高校生が社会的な達成に夢を抱きにくい(①)のは確かであろう。それでも、強い自我があれば、がんばろうという気持ちになる。しかし、今の状態では、がんばる必要はないし、がんばる自信もない(②)。

積極的な不満はないが、かといって、充実もしていない。将来に希望を持ってないが、現状が悲惨というわけでもない。とりあえず、このままでいようかというような、ぬるま湯状況の中の高校生という感じである。自分らしさを探しているが、自分を見つけにくい。出口を見いだせない閉塞状況といえよいのであろうか。

高校3年間で自分探しの期間に —————●

冒頭でふれたように、日本の高校生は韓国の高校生と比べ、大学進学への重圧から解放され、自分なりの生き方を貫ける時代を迎えている。それにもかかわらず、どう生きたらよ

いか迷っている。

確かに、学歴社会のもとでは一流大学を目指せばよいのであるから、価値観は一元化され、努力の方向もわかりやすかった。しかし、現在のような高度な高学歴状況になると、学歴の有効性が失われるので、学歴取得がゴールになりにくい。だから、それぞれが自分の生き方を見つけなければならない。自分なりの生き方を貫けそうな状況なのはわかる。でも、自分にぴったりとくる生き方が見つからない。もっとも、ぼんやりと高校生活を送っても、それなりの人生は送れそうだ。それなら、とりあえず今を楽しもうかという気持ちになる。

このように、高校生はどう生きていいのかわからないでいる。そして、多くの高校生は、せめて幸せな家庭を作りたいとマイホームに夢を託している。

今回のデータを見ていて、高校の3年間で「自分探し」に使ってはどうかと思った。25歳あるいは40歳になったとき、どんな生活をしたいか。それによって、高校卒業後すぐに進学するか、進学するならどの学部かが決まる。もちろん、高卒後、実社会に出て働き、その後で進学するのもよい。どんな結婚生活を送り、どこに住みたいか。それによっても状況が変わる。

時間をかけて、「自分の生き方」を探る。そうした期間として高校生活を活用できれば、高校も大事になる。多様な生き方のできる時代だけに、生き方の指導を試みてほしいと思った。

アンケートのお願い

このアンケートは、高校生の皆さんが友人関係や自分自身についてどのように考えているかをお聞きするためにつくったものです。

あなたの大切な時間をいただいて申しわけありませんが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

(お名前はいりませんので、ありのままをお答えください)

高校教育研究会

東京成徳短期大学教授 深谷昌志

上智大学教授 武内清

明治学院大学教授 望月重信

((回答のしかた)) 特にことわりのない場合は、あてはまる数字に1つだけをつけてください。

- | | よく話す | ときどき話す | あまり話さない | ぜんぜん話さない |
|------------------------|------|--------|---------|----------|
| 8. 友だちのこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 異性や恋愛のこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 人間や人生のこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 社会の出来事や政治のこと | 1 | 2 | 3 | 4 |

Ⅱ. 学校生活のことについてお聞きします。

④ あなたは、学校生活や先生のこと、次のように感じることはありませんか。

- | | とてもそう | ややそう | あまりそうでない | ぜんぜんそうでない | |
|--|-------|------|----------|-----------|---------------|
| 1. 学校の授業はたいくつである | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 2. 学校の勉強は難しく、ついていけない | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 3. 学校の授業は将来に役立つ | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 4. 学校の校則や規則がきびしい | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 5. 部活動と勉強の両立が難しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 部活動はしていない (5) |
| 6. 部活動の練習時間が長くてきびしい | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) |
| 7. 部活動のレギュラーや役員になりたいの
になれない | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) |
| 8. アルバイトがいそがしい | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 9. 学校へ行くのは楽しい | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 10. 先生から人の生き方や人生について教え
られることがある | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 11. 人の生き方について考えたり討論したり
する授業がある | 1 | 2 | 3 | 4 | |

資料1 調査票見本

Ⅲ．あなたのことについてお聞きします。

- ⑤ 「今の高校生はものを考えない(社会や人生のことなどについて)」とよく言われますが、あなたはそのことについてどう思いますか。

- | | かなり
そう思う | 少し
そう思う | あまり
そう思わない | ぜんぜん
そう思わない |
|---|-------------|------------|---------------|----------------|
| 1. 今の高校生も、けっこう社会や政治のことを考えている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 今の高校生も、けっこう自分の人生について考えている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 今の高校生は、趣味や遊びのことは考えるが、社会や人生についてはあまり考えない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. おとなたちも、あまりものを考えていない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 女子の方が男子よりも、いろいろとものをよく考えている | 1 | 2 | 3 | 4 |

[以下は、あなた自身のことです。]

- | | かなり
そう | 少し
そう | あまり
そうでない | ぜんぜん
そうでない |
|--|-----------|----------|--------------|---------------|
| 6. 自分は、けっこう社会や政治のことを考えている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 自分は、けっこう自分の人生について考えている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 自分は、趣味や遊びのことは考えるが、社会や人生についてはあまり考えない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 自分は、社会や人生についていろいろ考えているが、友だちと話す機会が少ない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 自分は、社会や人生についていろいろ考えているが、おとなの前でしゃべる機会が少ない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 自分は、社会や人生についてもけっこうしゃべる方だ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 自分は、趣味や遊びの話題は多いが、社会や人生についてはあまり話さない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13. 自分は、中学生の頃と比べると、ずいぶんものを考えるようになった | 1 | 2 | 3 | 4 |

⑥ あなたは、自分がどんな性格やタイプの人間だと思いますか。

- | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|---|----------|---|---------|---|---------|-------|----------------|--|---|
| | A | | とても
A | | やや
A | | やや
B | | とても
B | | B |
| 1. 明るい | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | 暗いところがある | | |
| 2. まじめ | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | ふまじめ | | |
| 3. やさしい | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | 冷たいところがある | | |
| 4. 傷つきやすい | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | 少々のことは気にならない | | |
| 5. 立ち直りが早い | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | けっこう長く悩む | | |
| 6. 素直だ | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | ひねくれたところがある | | |
| 7. ものごとをよい方に考える | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | ものごとを悪い方に考える | | |
| 8. まわりの人をひっぱっていく | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | まわりの人についていく | | |
| 9. マイペース | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | まわりの人のがきが気になる | | |
| 10. 人に負けないものがある | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | 特に人より優れたところはない | | |
| 11. 人のめんどろをみる | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | 人のことに立ち入らない | | |
| 12. 自分の意見にこだわる | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | 人の意見に合わせる | | |
| 13. 思いこんだらいちず | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | わりと気が変わりやすい | | |
| 14. 目立ちたい | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | 目立ちたくない | | |
| 15. 髪型、服装にこだわる | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | 髪型、服装に気がつかわない | | |
| 16. おとなの言うことをきく | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | おとなには反抗的 | | |
| 17. 人の役に立ちたい | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | まず自分のことをやりたい | | |
| 18. やるなら1番になりたい | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | | 中くらいでよい | | |

⑦ 「自分らしさ」などについてお聞きします。次にあげる質問について、あなたはどの程度そう思いますか。

- | | | | | | | | | |
|--------------------------------|---|-------------|---|------------|---|---------------|---|----------------|
| | | とても
そう思う | | まあ
そう思う | | あまり
そう思わない | | まったく
そう思わない |
| 1. 今の自分が好きだ | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | |
| 2. 自分がどんな人間かわからなくなることがある | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | |
| 3. 自分には自分らしさというものがあると思う | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | |
| 4. どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切だ | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | |
| 5. 状況によってでてくる自分というものは違う | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | |

資料1 調査票見本

- | | とても
そう思う | まあ
そう思う | あまり
そう思わない | まったく
そう思わない |
|---|-------------|------------|---------------|----------------|
| 6. 話す相手によって本当の自分と二つの自分を使い分けていると思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. どこかに、今の自分と違う本当の自分があるように思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 本当の自分は1つとは限らない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 今の自分を変えたいと思う | 1 | 2 | 3 | 4 |

- ⑧ あなたは、どんなときに一番「自分らしい」あるいは「自分はこれだ」と感じますか。

- ⑨ あなたは日記を書きますか。

1. わりと書く
2. ときどき書く
3. まったく書かない

- ⑩ あなたは、これまでに次のようなことはありましたか。

- | | | |
|---------------------------------------|--------|---------|
| 1. 身震いが起きるくらいの感動的な出来事 | 1. あった | 2. なかった |
| 2. 夜も眠れないくらいに気になる異性の存在 | 1. あった | 2. なかった |
| 3. 自分を完全に燃焼させた体験（自分をほめてあげたい気持ち） | 1. あった | 2. なかった |
| 4. 全幅の信頼を置ける人物との出会い | 1. あった | 2. なかった |
| 5. チクチクと自分を傷つけるような言葉や視線 | 1. あった | 2. なかった |
| 6. 今思っても赤面するような経験 | 1. あった | 2. なかった |
| 7. 心底あこがれる先生との出会い | 1. あった | 2. なかった |
| 8. 心底あこがれる先輩との出会い | 1. あった | 2. なかった |

⑪ あなたは日頃、次のようなことがどの程度ありますか。

	よく ある	ときどき ある	あまり ない	まったく ない
1. ものごとをフィーリング（感覚）で決めること	1	2	3	4
2. 何かを決めるとき、迷ってしまうこと	1	2	3	4
3. イライラしたり、ムカついたりすること	1	2	3	4
4. 我を忘れてカッとなること	1	2	3	4
5. プライドが傷つけられること	1	2	3	4
6. 居場所がないように感じること	1	2	3	4
7. ばくぜんとした不安を感じることに	1	2	3	4
8. 心の暖まる思いが少ないと感じること	1	2	3	4
9. 宗教や占いなどに頼りたくなること	1	2	3	4
10. 社会がだんだん悪くなっていくと感じること	1	2	3	4

⑫ あなたは次のようなとき、キレますか。

	キレル	キレそうになる	キレない
1. 友だちが連絡なしに30分以上遅れる	1	2	3
2. 自分が遅れて、友だちにすごく怒られる	1	2	3
3. 朝、親に起こしてもらおうのを頼んだのに 起こしてくれない	1	2	3
4. 朝寝坊して、親に怒られる	1	2	3
5. 授業中騒いで、先生に注意される	1	2	3
6. 自分は騒いでいないのに、先生から注意される	1	2	3
7. 電車の中で携帯電話で話している人がいる	1	2	3
8. レジなどで割り込みをされる	1	2	3
9. 混んだ電車のシルバーシート（優先席）に、 高校生が座っている	1	2	3
10. 高校生が道でタバコを吸っている	1	2	3
11. 社会で悪いことをしている人がつかまらない	1	2	3
12. 戦争で人がたくさん死んでいる	1	2	3

資料1 調査票見本

13 あなたは、家族との関係で、次のようなことがありますか。

	よく ある	ときどき ある	あまり ない	ぜんぜん ない
1. 父親といろいろ話すこと	1	2	3	4
2. 母親といろいろ話すこと	1	2	3	4
3. 親から「勉強しなさい」と言われること	1	2	3	4
4. 親が自分のことにもっと関心をもってほしい と思うこと	1	2	3	4
5. 病気などで具合の悪いとき、家族が心配して くれること	1	2	3	4
6. 親から「女らしくしなさい」とか「男らしく しなさい」と言われること	1	2	3	4
7. 親から服装やヘアースタイルについて注意さ れること	1	2	3	4
8. 親からお金の使い方やおこづかいのことにつ いて注意されること	1	2	3	4
9. 親が自分の友だちや生活のことに关しうるさ く干渉すること	1	2	3	4
10. 親の自分への期待が大きき精神的に負担に感 じること	1	2	3	4
11. 家族の会話が少なく、人間関係がギスギスす ること	1	2	3	4
12. 家の手伝いをするこゝ	1	2	3	4
13. 早く家を出て、ひとり暮らしがしたいと思 うこと	1	2	3	4

14 あなたは、将来の進路のことで、次のように感じるがありますか。

	よく ある	ときどき ある	あまり ない	ぜんぜん ない
1. 将来、何をしたらいいのか迷う	1	2	3	4
2. 進路のことで、親と意見が食い違ふ	1	2	3	4
3. 大学受験がうまくいくか心配	1	2	3	4
4. 将来の就職がうまくいくか心配	1	2	3	4
5. 将来、経済的に豊かになりたい	1	2	3	4
6. 日本社会の将来に希望がもてない	1	2	3	4
7. 自分の将来に希望がもてない	1	2	3	4

15 あなたは、次のようなことが気になることがありますか。

- | | とても
気になる | わりと
気になる | あまり
気にならない | ぜんぜん
気にならない |
|---------------------------------|-------------|-------------|---------------|----------------|
| 1. 定期試験や模擬試験の結果 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 友だちから信頼されているか | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 友だちが自分の悪口を言っているのではないかと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 彼氏（彼女）ができない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 異性の体への興味・関心 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 自分の口臭や体のにおい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 自分の容姿やスタイル | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 出かけるときの髪型や服装 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. アダルトビデオやポルノ雑誌 | 1 | 2 | 3 | 4 |

16 あなたは、次のような不安や悩みが生じたら、主に誰に相談しますか。

- | | 友だち | 親 | 親以外の
家族や
親戚の人 | 先生 | 先輩 | 相談機関 | その他 | 誰にも
相談しない |
|----------------------------------|-----|---|---------------------|----|----|------|-----|--------------|
| 1. 友だちとのトラブル | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 2. 友だちからいじめられたとき | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 3. 異性の友だちができない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 4. 異性の体への興味・関心 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 5. 自分の口臭や体のにおいが気
になるとき | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 6. 自分の容姿やスタイルやダイエ
ット | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 7. 自分の髪型や服装が似合わない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 8. 成績が落ちた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9. 将来、何をしたらいいのか迷う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 10. 親の希望と異なる進路選択を考え
るとき | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 11. やりがいのある打ち込めるもの
が欲しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 12. 生きる目的が見つからない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |

⑱ あなたは、学校で部活動をしていますか。

1. 運動部に入って熱心に活動している
2. 運動部に入っているが、あまり熱心に活動していない
3. 文化部に入って熱心に活動している
4. 文化部に入っているが、あまり熱心に活動していない
5. 以前入っていたが、今は入っていない
6. 入ったことがない
7. その他

⑳ あなたは現在、アルバイトをしていますか。

1. している
2. 以前にしたことがあるが、今はしていない
3. したことがない

㉑ あなたの成績は、クラスの中でどのあたりですか。

- | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|
| 上 | 中の上 | 中 | 中の下 | 下 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

㉒ あなたが希望する卒業後の進路は、次のどれですか。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 就職 | 6. 難しい私立4年制大学 |
| 2. 家業・家の手伝い | 7. 国公立4年制大学 |
| 3. 専修・専門学校 | 8. その他(具体的に) |
| 4. 短期大学 | 9. まだ決めていない |
| 5. ふつうの私立4年制大学 | |

㉓ あなたのお母さんは、現在仕事をしていますか。

- | | |
|------------------|-----------|
| 1. 常勤(フルタイム)の仕事 | 4. 家での仕事 |
| 2. パートタイムの仕事 | 5. 専業主婦 |
| 3. 自営業(家業手伝いも含む) | 6. その他() |

㉔ あなたは、自分を入れて何人きょうだいですか。

- | | | | | |
|-------------------|----|----|----|------|
| 1人
(きょうだいはいない) | 2人 | 3人 | 4人 | 5人以上 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

～以上です。ご協力ありがとうございました。～

資料2 学年・性別集計表

*数字は無回答を除いた%

質問項目		全体	性別		学年別		
			男子	女子	1年	2年	
サンプル数		1,826	821	1,005	919	907	
①	学年	1. 1年	50.3	50.2	50.4		
		2. 2年	49.7	49.8	49.6		
	性別	1. 男子	45.0			44.8	45.1
		2. 女子	55.0			55.2	54.9
②	友達に話す時間	1. いる	98.7	97.9	99.3	98.7	98.7
		2. いない	1.3	2.1	0.7	1.3	1.3
	バールのライなど	1. いる	68.3	72.6	64.8	67.1	69.5
		2. いない	31.7	27.4	35.2	32.9	30.5
	借りがで	1. いる	89.7	86.7	92.1	88.9	90.5
		2. いない	10.3	13.3	7.9	11.1	9.5
	あいのき	1. いる	85.4	80.9	89.0	83.7	87.0
		2. いない	14.6	19.1	11.0	16.3	13.0
	くわの相談	1. いる	93.1	88.4	96.9	92.6	93.6
		2. いない	6.9	11.6	3.1	7.4	6.4
	たれあけ	1. いる	93.0	88.0	97.1	92.7	93.4
		2. いない	7.0	12.0	2.9	7.3	6.6
	れない一疲	1. いる	95.6	93.2	97.5	96.0	95.1
		2. いない	4.4	6.8	2.5	4.0	4.9
	くわのそ	1. いる	88.1	85.1	90.5	86.4	89.7
		2. いない	11.9	14.9	9.5	13.6	10.3
える	1. いる	87.4	80.5	93.0	86.6	88.2	
	2. いない	12.6	19.5	7.0	13.4	11.8	
親友	1. いる	89.1	88.6	89.5	89.9	88.3	
	2. いない	10.9	11.4	10.5	10.1	11.7	
③	こと 勉強や入試	1. よく話す	26.0	18.9	31.7	20.7	31.3
		2. ときどき話す	55.2	54.5	55.8	56.4	54.0
		3. あまり話さない	16.2	21.9	11.5	19.8	12.5
		4. ぜんぜん話さない	2.6	4.8	0.9	3.1	2.2
	先生のこと	1. よく話す	26.9	24.9	28.5	27.8	26.0
		2. ときどき話す	46.4	43.8	48.5	45.2	47.6
		3. あまり話さない	22.1	24.2	20.4	22.8	21.4
		4. ぜんぜん話さない	4.6	7.1	2.6	4.2	5.0
	家族のこと	1. よく話す	12.8	4.2	19.8	11.9	13.7
		2. ときどき話す	39.3	24.1	51.7	37.8	40.8
		3. あまり話さない	35.4	48.1	25.1	36.5	34.4
		4. ぜんぜん話さない	12.5	23.7	3.4	13.8	11.2
	テレビ番組やタレントのこと	1. よく話す	48.1	42.9	52.4	51.2	45.0
		2. ときどき話す	38.8	41.6	36.4	36.4	41.2
		3. あまり話さない	11.0	12.2	10.0	10.1	11.9
		4. ぜんぜん話さない	2.1	3.3	1.1	2.3	1.9
オシャレのこと	1. よく話す	32.9	20.3	43.2	36.4	29.4	
	2. ときどき話す	41.7	43.8	39.9	38.8	44.6	
	3. あまり話さない	20.3	26.7	15.0	20.1	20.5	
	4. ぜんぜん話さない	5.1	9.2	1.8	4.7	5.5	
趣味のこと	1. よく話す	53.8	63.4	46.0	58.6	49.0	
	2. ときどき話す	36.7	32.1	40.4	32.0	41.4	
	3. あまり話さない	8.3	3.5	12.3	8.0	8.7	
	4. ぜんぜん話さない	1.2	1.0	1.3	1.4	0.9	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別		
			男子	女子	1年	2年	
3	の将来の進路	1. よく話す	21.5	13.3	28.1	13.1	29.9
		2. ときどき話す	49.3	48.4	50.0	49.6	49.0
		3. あまり話さない	24.5	30.2	19.8	31.0	17.9
		4. ぜんぜん話さない	4.8	8.1	2.1	6.3	3.2
	友だちのこと	1. よく話す	49.3	40.3	56.7	48.7	49.9
		2. ときどき話す	40.7	46.0	36.4	40.7	40.7
		3. あまり話さない	8.4	10.9	6.4	8.6	8.2
		4. ぜんぜん話さない	1.6	2.8	0.6	2.0	1.2
	異性や恋愛のこと	1. よく話す	42.7	33.2	50.5	43.4	42.1
		2. ときどき話す	33.9	37.1	31.3	33.1	34.7
		3. あまり話さない	17.2	20.2	14.7	17.2	17.2
		4. ぜんぜん話さない	6.2	9.5	3.5	6.3	6.1
	人間や人生のこと	1. よく話す	18.6	15.6	21.1	17.6	19.6
		2. ときどき話す	35.5	33.3	37.4	34.7	36.4
		3. あまり話さない	35.2	36.7	34.0	35.2	35.2
		4. ぜんぜん話さない	10.7	14.4	7.6	12.5	8.8
や社会の政治の出来事	1. よく話す	6.5	8.3	5.0	7.1	5.8	
	2. ときどき話す	24.7	24.1	25.2	23.2	26.2	
	3. あまり話さない	42.0	39.0	44.4	41.2	42.8	
	4. ぜんぜん話さない	26.8	28.5	25.5	28.5	25.1	
4	学校の授業は退屈である	1. とてもそう	25.4	31.3	20.6	25.1	25.8
		2. ややそう	51.8	47.0	55.7	51.1	52.5
		3. あまりそうでない	19.8	18.7	20.7	20.7	18.9
		4. ぜんぜんそうでない	3.0	3.0	3.0	3.2	2.9
	学校の授業は難しくいけない	1. とてもそう	11.3	9.3	12.9	12.2	10.4
		2. ややそう	43.2	39.4	46.3	47.1	39.3
		3. あまりそうでない	40.0	43.3	37.4	36.2	43.9
		4. ぜんぜんそうでない	5.5	8.0	3.4	4.5	6.5
	将来の学校の役立ちは	1. とてもそう	9.0	8.7	9.2	10.1	7.9
		2. ややそう	38.7	33.4	43.0	39.0	38.4
		3. あまりそうでない	40.1	40.3	39.9	38.9	41.2
		4. ぜんぜんそうでない	12.3	17.6	8.0	12.0	12.5
	学校の規則が厳しいや	1. とてもそう	26.5	21.9	30.3	29.6	23.4
		2. ややそう	28.5	27.0	29.7	27.4	29.6
		3. あまりそうでない	27.9	31.3	25.2	20.2	35.8
		4. ぜんぜんそうでない	17.1	19.8	14.8	22.8	11.3
両部活動が難しい	1. とてもそう	16.0	20.0	12.6	18.1	13.8	
	2. ややそう	22.3	25.1	20.0	24.1	20.4	
	3. あまりそうでない	23.6	19.9	26.6	24.6	22.6	
	4. ぜんぜんそうでない	13.8	9.2	17.5	13.6	13.9	
	5. 部活動はしていない	24.4	25.8	23.3	19.5	29.3	
が長く練習時間	1. とてもそう	10.2	10.8	9.8	13.4	7.1	
	2. ややそう	11.6	12.3	11.1	12.7	10.5	
	3. あまりそうでない	24.8	29.6	20.9	23.1	26.5	
	4. ぜんぜんそうでない	28.0	21.2	33.5	30.5	25.5	
	5. 部活動はしていない	25.3	26.1	24.7	20.3	30.5	
部活動のレギュラーになれない	1. とてもそう	4.8	7.0	3.0	5.0	4.5	
	2. ややそう	7.4	8.1	6.8	7.9	6.9	
	3. あまりそうでない	20.3	21.6	19.2	23.1	17.3	
	4. ぜんぜんそうでない	42.7	37.7	46.7	43.6	41.7	
	5. 部活動はしていない	24.9	25.6	24.4	20.3	29.6	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	2年		
4	学校生活や先生のこと で感じる こと	忙しいバイトが	1. とてもそう	2.0	2.2	1.8	1.5	2.4
			2. ややそう	4.7	4.0	5.3	3.9	5.6
			3. あまりそうでない	6.8	8.3	5.5	5.8	7.8
			4. ぜんぜんそうでない	86.5	85.5	87.3	88.8	84.2
		は楽しい学校へ行くの	1. とてもそう	23.5	19.1	27.1	21.8	25.2
			2. ややそう	42.4	41.6	43.1	44.1	40.7
			3. あまりそうでない	25.2	28.3	22.7	26.4	24.0
			4. ぜんぜんそうでない	8.8	11.0	7.1	7.6	10.0
	先生から生き方を教えられる	1. とてもそう	7.6	6.7	8.3	5.2	10.0	
		2. ややそう	28.4	26.9	29.6	25.9	30.9	
		3. あまりそうでない	39.1	37.6	40.3	39.8	38.4	
		4. ぜんぜんそうでない	24.9	28.8	21.7	29.1	20.7	
	生き方について授業がある	1. とてもそう	1.7	1.5	1.8	0.9	2.4	
		2. ややそう	8.6	10.1	7.4	8.4	8.8	
		3. あまりそうでない	37.3	35.8	38.6	36.9	37.8	
		4. ぜんぜんそうでない	52.4	52.6	52.2	53.8	50.9	
5	「今の高校生はものを考えない」と言われることについて	やけつ政治のこと社会を考えている	1. かなりそう思う	7.7	7.6	7.8	8.1	7.3
			2. 少しそう思う	37.7	29.5	44.4	38.9	36.5
			3. あまりそう思わない	42.0	45.5	39.2	40.7	43.4
			4. ぜんぜんそう思わない	12.6	17.4	8.6	12.3	12.8
		てのけつ政治に興味があるが遊びは考	1. かなりそう思う	34.0	24.6	41.6	33.2	34.8
			2. 少しそう思う	46.7	47.9	45.6	46.6	46.7
			3. あまりそう思わない	15.6	21.8	10.5	15.9	15.2
			4. ぜんぜんそう思わない	3.8	5.6	2.3	4.4	3.2
		政治に興味があるが遊びは考	1. かなりそう思う	12.3	17.4	8.2	12.3	12.3
			2. 少しそう思う	36.6	40.8	33.3	37.3	36.0
			3. あまりそう思わない	44.4	35.9	51.3	44.1	44.7
			4. ぜんぜんそう思わない	6.6	6.0	7.2	6.3	7.0
	おもたなものを考	1. かなりそう思う	27.5	28.7	26.5	30.9	23.9	
		2. 少しそう思う	48.9	46.2	51.2	47.7	49.9	
		3. あまりそう思わない	19.8	20.9	19.0	17.9	21.7	
		4. ぜんぜんそう思わない	3.7	4.2	3.4	3.1	4.4	
	女子の方が男子を考	1. かなりそう思う	11.6	12.0	11.3	12.2	11.0	
		2. 少しそう思う	27.9	28.8	27.1	26.9	28.9	
		3. あまりそう思わない	48.4	44.1	52.0	50.4	46.4	
		4. ぜんぜんそう思わない	12.1	15.1	9.6	10.5	13.7	
	やけつ政治のこと社会を考	1. かなりそう	9.4	11.3	7.8	9.7	9.0	
		2. 少しそう	31.8	30.6	32.9	31.5	32.2	
		3. あまりそうでない	44.6	41.7	47.0	44.7	44.5	
		4. ぜんぜんそうでない	14.2	16.4	12.4	14.2	14.2	
てのけつ政治に興味があるが遊びは考	1. かなりそう	40.0	34.2	44.8	36.8	43.4		
	2. 少しそう	40.5	40.8	40.3	41.0	40.1		
	3. あまりそうでない	16.4	20.1	13.4	18.8	14.0		
	4. ぜんぜんそうでない	3.0	4.9	1.5	3.5	2.5		
政治に興味があるが遊びは考	1. かなりそう	7.7	11.6	4.5	9.3	6.1		
	2. 少しそう	31.4	33.2	29.9	32.2	30.6		
	3. あまりそうでない	49.1	43.3	53.9	48.1	50.2		
	4. ぜんぜんそうでない	11.8	11.8	11.7	10.4	13.2		
機友が少と話	1. かなりそう	5.1	6.5	3.9	5.6	4.5		
	2. 少しそう	20.7	21.6	20.0	21.4	20.0		
	3. あまりそうでない	50.1	47.4	52.2	48.6	51.5		
	4. ぜんぜんそうでない	24.2	24.4	24.0	24.4	24.0		

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	2年		
5	「今の高校生はものを考えない」と言われることについて	が少ない	1. かなりそう	18.7	20.6	17.1	18.6	18.8
		おとなの前で	2. 少しそう	34.3	33.4	35.1	33.2	35.5
		社会や人生に	3. あまりそうでない	33.8	32.9	34.6	34.2	33.5
		ついでに	4. ぜんぜんそうでない	13.2	13.1	13.2	14.1	12.3
	べる方だ	1. かなりそう	8.4	7.1	9.4	7.4	9.3	
		2. 少しそう	22.2	19.6	24.3	19.8	24.6	
		3. あまりそうでない	46.9	45.9	47.7	46.2	47.6	
		4. ぜんぜんそうでない	22.6	27.4	18.6	26.5	18.6	
	生は話さない	1. かなりそう	16.9	22.6	12.2	19.8	13.8	
		2. 少しそう	42.1	43.0	41.4	43.3	40.9	
		3. あまりそうでない	34.7	28.3	39.9	31.1	38.4	
		4. ぜんぜんそうでない	6.3	6.1	6.5	5.8	6.9	
	るよつになつた	1. かなりそう	42.2	37.7	45.8	37.1	47.2	
		2. 少しそう	38.8	41.4	36.7	38.0	39.6	
		3. あまりそうでない	15.8	16.0	15.6	20.9	10.6	
		4. ぜんぜんそうでない	3.3	4.9	2.0	4.0	2.5	
6	自	明か、暗	1. とても明るい	28.7	22.0	34.1	27.6	29.8
			2. やや明るい	48.2	50.1	46.6	48.4	48.0
			3. やや暗いところがある	20.7	24.8	17.4	21.3	20.1
			4. とても暗いところがある	2.4	3.1	1.8	2.7	2.1
	分	ふまじめか、	1. とてもまじめ	10.0	11.0	9.1	8.9	11.0
			2. ややまじめ	49.9	43.1	55.6	48.9	51.0
			3. ややふまじめ	33.4	36.2	31.2	35.5	31.4
			4. とてもふまじめ	6.6	9.7	4.1	6.7	6.6
	性	冷やさいか、	1. とてもやさしい	17.6	24.0	12.4	18.0	17.2
			2. やややさしい	49.7	47.1	51.8	50.0	49.3
			3. やや冷たいところがある	28.1	22.9	32.4	27.8	28.4
			4. とても冷たいところがある	4.6	6.1	3.4	4.2	5.0
	格	な、傷つきやすい	1. とても傷つきやすい	31.5	23.7	38.0	32.0	31.1
			2. やや傷つきやすい	33.3	32.8	33.8	31.9	34.8
			3. やや少々のは気にならない	24.5	30.7	19.5	25.7	23.3
			4. とても少々のは気にならない	10.6	12.9	8.8	10.4	10.8
	や	か立ち直りが早い	1. とても立ち直りが早い	22.9	22.7	23.0	22.6	23.3
			2. やや立ち直りが早い	28.5	30.1	27.2	28.9	28.3
			3. ややけっこう長く悩む	31.1	31.3	31.0	32.3	30.1
			4. とてもけっこう長く悩む	17.5	15.8	18.8	16.4	18.6
	夕	が素直か、ひね	1. とても素直	15.9	18.6	13.7	14.9	16.9
			2. やや素直	34.2	33.9	34.5	34.2	34.3
			3. ややひねくれたところがある	38.1	35.3	40.4	39.3	37.0
			4. とてもひねくれたところがある	11.7	12.2	11.3	11.6	11.9
イ	に、よい方、悪い方	1. とてもものごとをよい方考える	19.0	19.3	18.7	17.9	20.0	
		2. ややものごとをよい方考える	28.2	29.2	27.3	30.1	26.1	
		3. ややものごとを悪い方考える	33.9	33.9	33.9	34.1	33.7	
		4. とてもものごとを悪い方考える	19.0	17.6	20.1	17.8	20.1	
ブ	い、人をひっぱって	1. とても人をひっぱっていく	7.7	7.6	7.7	7.4	7.9	
		2. やや人をひっぱっていく	31.2	31.7	30.8	33.7	28.6	
		3. やや人についていく	43.9	44.4	43.6	43.3	44.6	
		4. とても人についていく	17.2	16.3	18.0	15.6	18.9	
気になるか	マイペース	1. とてもマイペース	33.5	29.9	36.5	33.8	33.2	
		2. ややマイペース	30.2	30.5	30.0	30.4	30.0	
		3. やや人の動きが気になる	27.2	29.9	24.9	27.4	27.0	
		4. とても人の動きが気になる	9.1	9.7	8.6	8.4	9.8	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	2年		
6	自 分 の 性 格	人 に 負 け な い も の が あ る か 、 優 れ た と こ ろ は な い か	1. とてもし人に負けないものがある	26.6	33.2	21.2	26.8	26.5
		2. やや人に負けないものがある	31.1	30.3	31.7	30.6	31.5	
		3. やや人より優れたところはない	28.5	23.4	32.6	29.4	27.5	
		4. とてもし人より優れたところはない	13.9	13.2	14.4	13.2	14.5	
	自 分 の 性 格	人 の め ん ど う を み る か 、 か た か た か た か た か	1. とてもし人のめんどうをみる	17.0	15.2	18.5	17.3	16.7
		2. やや人のめんどうをみる	47.3	45.4	48.9	47.9	46.8	
		3. やや人のことに立ち入らない	28.0	31.4	25.2	28.9	27.1	
		4. とてもし人のことに立ち入らない	7.7	8.0	7.4	6.0	9.4	
	自 分 の 性 格	自 分 の 意 見 に こ だ わ る か 、 合 わ せ る か 、 人 に こ だ わ る か	1. とてもし自分の意見にこだわる	16.4	19.6	13.7	15.1	17.7
		2. やや自分の意見にこだわる	36.8	36.5	37.1	38.7	34.9	
		3. やや人の意見に合わせる	39.3	35.7	42.2	39.6	38.9	
		4. とてもし人の意見に合わせる	7.5	8.2	7.0	6.6	8.5	
	自 分 の 性 格	い ち ず か 、 か た か た か た か た か	1. とてもし思いこんだらいちず	24.4	23.8	24.9	22.2	26.7
		2. やや思いこんだらいちず	31.1	31.3	30.8	31.1	31.0	
		3. やや気が変わりやすい	31.7	31.7	31.6	33.5	29.8	
		4. とてもし気が変わりやすい	12.9	13.1	12.6	13.2	12.5	
	自 分 の 性 格	目 立 ち た い か 、 か た か た か た か た か	1. とてもし目立ちたい	14.7	16.2	13.5	16.2	13.2
		2. やや目立ちたい	34.9	35.4	34.4	33.4	36.4	
		3. やや目立ちたくない	35.6	33.0	37.9	35.8	35.5	
		4. とてもし目立ちたくない	14.8	15.4	14.3	14.6	15.0	
自 分 の 性 格	髪 型 ・ 服 装 に こ だ わ る か 、 つ か わ な い か	1. とてもしこだわる	25.5	19.5	30.5	27.3	23.7	
	2. ややこだわる	44.6	41.5	47.2	44.4	44.9		
	3. やや気をつかわない	22.2	27.2	18.1	22.0	22.3		
	4. とてもし気をつかわない	7.7	11.8	4.2	6.3	9.1		
自 分 の 性 格	お と な の 言 う こ と を き く か 、 反 抗 的 か	1. とてもしおとなの言うことをきく	6.4	6.1	6.6	5.7	7.0	
	2. ややおとなの言うことをきく	44.8	41.9	47.2	42.7	46.9		
	3. ややおとなには反抗的	37.4	38.8	36.3	39.7	35.1		
	4. とてもしおとなには反抗的	11.4	13.1	10.0	11.9	10.9		
自 分 の 性 格	人 の 役 に 立 ち た い か 、 自 分 の こ と を や り た い か	1. とてもし人の役に立ちたい	28.6	25.6	31.1	27.3	30.0	
	2. やや人の役に立ちたい	34.2	32.9	35.3	33.8	34.6		
	3. やや自分のことをやりたい	24.6	26.9	22.7	25.8	23.4		
	4. とてもし自分のことをやりたい	12.6	14.6	10.9	13.1	12.0		
自 分 の 性 格	一 番 に な り た い か 、 よ い か 、 中 く ら い で よ い	1. とてもしやるなら一番になりたい	35.0	39.3	31.4	34.7	35.3	
	2. やややるなら一番になりたい	34.1	33.5	34.6	35.3	32.9		
	3. やや中くらいでよい	21.0	16.7	24.6	20.8	21.2		
	4. とてもし中くらいでよい	9.9	10.4	9.4	9.2	10.6		
7	「 自 分 ら し さ 」 に つ い て	好 ま し い か 、 自 分 が	1. とてもしそう思う	9.2	10.4	8.2	8.8	9.5
		2. まあそう思う	39.3	39.9	38.8	38.4	40.2	
		3. あまりそう思わない	40.1	36.7	42.9	41.7	38.5	
		4. まったくそう思わない	11.4	13.0	10.1	11.0	11.8	
	「 自 分 ら し さ 」 に つ い て	自 分 が ど ん な 人 間 か 、 わ か ら な い	1. とてもしそう思う	24.6	25.1	24.1	25.3	23.8
		2. まあそう思う	43.3	39.3	46.6	44.0	42.6	
		3. あまりそう思わない	24.6	25.2	24.1	24.3	24.9	
		4. まったくそう思わない	7.5	10.4	5.2	6.3	8.7	
	「 自 分 ら し さ 」 に つ い て	自 分 ら し さ と い う も の が あ る か	1. とてもしそう思う	22.0	22.1	22.0	22.9	21.1
		2. まあそう思う	41.9	42.4	41.4	40.1	43.6	
		3. あまりそう思わない	30.3	28.4	31.8	31.3	29.2	
		4. まったくそう思わない	5.9	7.1	4.8	5.6	6.1	
	「 自 分 ら し さ 」 に つ い て	ど ん な 場 面 で も 自 分 ら し さ を 重 ん じ た か	1. とてもしそう思う	29.9	30.3	29.6	29.7	30.1
		2. まあそう思う	43.6	41.4	45.3	44.8	42.4	
		3. あまりそう思わない	23.9	24.1	23.7	23.2	24.6	
		4. まったくそう思わない	2.6	4.2	1.4	2.3	3.0	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	2年		
7	「自分らしさ」について	状況によって、 のほうで自分を くみ取るといっ ても	1. とてもそう思う	32.9	31.5	34.1	33.0	32.9
		2. まあそう思う	49.1	47.6	50.5	47.7	50.6	
		3. あまりそう思わない	15.3	17.2	13.6	16.4	14.2	
		4. まったくそう思わない	2.6	3.7	1.8	2.9	2.4	
	「自分らしさ」について	話す相手によっ て、自分の自分 を使い分ける	1. とてもそう思う	31.9	31.3	32.3	32.0	31.8
		2. まあそう思う	35.8	35.2	36.3	34.6	37.1	
		3. あまりそう思わない	25.2	25.2	25.2	27.1	23.4	
		4. まったくそう思わない	7.0	8.2	6.1	6.3	7.7	
	「自分らしさ」について	今の自分と本 当の自分か	1. とてもそう思う	29.0	31.3	27.2	31.2	26.9
		2. まあそう思う	34.5	30.8	37.6	35.4	33.6	
		3. あまりそう思わない	27.5	26.4	28.4	25.2	29.8	
		4. まったくそう思わない	9.0	11.5	6.9	8.2	9.7	
「自分らしさ」について	一本の自分 は、本当の自分 に限り	1. とてもそう思う	35.0	36.1	34.1	36.9	33.1	
	2. まあそう思う	36.6	32.4	40.0	36.4	36.8		
	3. あまりそう思わない	19.5	19.4	19.5	17.9	21.0		
	4. まったくそう思わない	9.0	12.1	6.4	8.8	9.1		
「自分らしさ」について	今の自分を 変えたいと思 う	1. とてもそう思う	33.9	27.8	38.9	35.4	32.3	
	2. まあそう思う	35.1	35.4	34.9	35.3	34.9		
	3. あまりそう思わない	24.2	26.1	22.6	22.2	26.2		
	4. まったくそう思わない	6.8	10.7	3.6	7.0	6.6		
9	日記を書くか	1. わりと書く	12.7	2.1	21.3	12.9	12.4	
		2. ときどき書く	22.3	6.7	35.1	23.5	21.2	
		3. まったく書かない	65.0	91.2	43.6	63.7	66.4	
10	過去の体験	感動的出来事	1. あった	59.5	58.4	60.4	56.7	62.4
		2. なかった	40.5	41.6	39.6	43.3	37.6	
	過去の体験	異質な存在	1. あった	45.0	44.2	45.7	43.0	47.1
		2. なかった	55.0	55.8	54.3	57.0	52.9	
	過去の体験	完全燃焼体験	1. あった	60.7	58.8	62.3	60.8	60.7
		2. なかった	39.3	41.2	37.7	39.2	39.3	
	過去の体験	信頼を置く人	1. あった	62.7	59.7	65.1	62.4	63.0
		2. なかった	37.3	40.3	34.9	37.6	37.0	
	過去の体験	自分を傷つける言葉	1. あった	78.7	72.0	84.2	77.9	79.4
		2. なかった	21.3	28.0	15.8	22.1	20.6	
	過去の体験	赤面する経験	1. あった	83.4	78.8	87.1	82.1	84.6
		2. なかった	16.6	21.2	12.9	17.9	15.4	
過去の体験	あこがれの先輩と出会う	1. あった	37.4	35.2	39.2	38.1	36.8	
	2. なかった	62.6	64.8	60.8	61.9	63.2		
過去の体験	あこがれの先輩と出会う	1. あった	41.8	38.5	44.6	41.2	42.5	
	2. なかった	58.2	61.5	55.4	58.8	57.5		
11	日頃あること	ものごとをフ ィーリングで決める	1. よくある	33.2	35.5	31.3	32.9	33.4
		2. ときどきある	55.4	52.9	57.4	54.3	56.5	
		3. あまりない	10.3	10.0	10.6	11.6	9.1	
		4. まったくない	1.1	1.6	0.7	1.2	1.0	
	日頃あること	何かを決める とき、迷って しまう	1. よくある	57.5	51.6	62.2	55.4	59.6
		2. ときどきある	33.3	37.0	30.3	36.8	29.8	
		3. あまりない	7.8	9.6	6.4	6.9	8.8	
		4. まったくない	1.4	1.7	1.1	1.0	1.8	
	日頃あること	イライラした りする	1. よくある	44.0	38.3	48.7	45.4	42.7
		2. ときどきある	43.7	45.8	42.1	43.3	44.2	
		3. あまりない	11.0	13.7	8.8	9.9	12.0	
		4. まったくない	1.3	2.2	0.5	1.4	1.1	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	2年		
11	日頃あこころと	我を忘れてカッとなる	1.よくある	17.3	19.1	15.9	18.1	16.5
			2.ときどきある	28.4	24.7	31.5	28.6	28.3
			3.あまりない	39.4	38.6	40.0	38.3	40.5
			4.まったくない	14.9	17.6	12.7	15.0	14.7
		つげられるブライドが傷	1.よくある	13.1	15.1	11.5	14.0	12.2
			2.ときどきある	39.5	37.8	40.8	39.2	39.7
			3.あまりない	40.6	38.7	42.2	40.1	41.2
			4.まったくない	6.8	8.4	5.5	6.7	7.0
		よ居場所がないように感じる	1.よくある	18.5	17.8	19.1	18.8	18.2
			2.ときどきある	40.4	36.8	43.5	41.1	39.8
			3.あまりない	32.3	35.2	30.0	31.6	33.0
			4.まったくない	8.7	10.3	7.5	8.5	9.0
	安漠然とした不を感じる	1.よくある	27.6	24.5	30.1	27.7	27.5	
		2.ときどきある	46.0	42.1	49.1	44.2	47.7	
		3.あまりない	20.9	26.5	16.3	21.6	20.1	
		4.まったくない	5.5	6.8	4.5	6.4	4.6	
	感じ心の暖かいと思	1.よくある	13.2	13.5	13.0	27.7	27.5	
		2.ときどきある	30.9	32.1	29.9	44.2	47.7	
		3.あまりない	45.3	44.1	46.4	21.6	20.1	
		4.まったくない	10.6	10.4	10.8	6.4	4.6	
	頼宗り教や占いにた	1.よくある	7.8	7.3	8.2	8.4	7.2	
		2.ときどきある	20.3	16.6	23.2	19.8	20.8	
		3.あまりない	27.1	24.7	29.1	27.8	26.4	
		4.まったくない	44.8	51.3	39.5	44.0	45.6	
	いん社会がだんだん悪く	1.よくある	26.1	28.1	24.4	26.3	25.9	
		2.ときどきある	37.4	34.7	39.6	35.2	39.6	
		3.あまりない	26.8	24.9	28.3	27.8	25.7	
		4.まったくない	9.8	12.2	7.8	10.7	8.8	
12	遅30分	1.キレル	9.0	8.2	9.6	9.5	8.4	
		2.キレそうになる	44.3	40.7	47.3	43.9	44.7	
		3.キレない	46.7	51.1	43.2	46.6	46.9	
	に怒られる	1.キレル	1.6	2.0	1.4	1.9	1.4	
		2.キレそうになる	12.6	13.7	11.8	12.5	12.7	
		3.キレない	85.7	84.4	86.8	85.6	85.8	
	ない朝	1.キレル	23.4	18.2	27.6	25.7	21.0	
		2.キレそうになる	42.9	39.9	45.4	42.3	43.6	
		3.キレない	33.7	41.9	26.9	32.0	35.4	
	られる朝寝坊に怒	1.キレル	12.0	12.3	11.8	14.0	10.1	
		2.キレそうになる	29.2	24.7	32.9	29.1	29.3	
		3.キレない	58.7	63.0	55.3	56.9	60.6	
れる生授業中に注意	1.キレル	4.8	6.4	3.6	6.7	3.0		
	2.キレそうになる	22.4	21.4	23.3	25.0	19.9		
	3.キレない	72.7	72.2	73.1	68.4	77.1		
注意されない	1.キレル	36.8	36.9	36.7	40.4	33.1		
	2.キレそうになる	48.5	45.4	51.0	47.7	49.3		
	3.キレない	14.7	17.7	12.3	11.9	17.6		
話携帯電	1.キレル	3.5	4.4	2.8	3.8	3.2		
	2.キレそうになる	17.3	18.5	16.3	18.4	16.0		
	3.キレない	79.2	77.1	80.9	77.7	80.8		
されるレジ	1.キレル	23.9	26.0	22.1	26.1	21.6		
	2.キレそうになる	51.8	48.6	54.5	49.7	54.0		
	3.キレない	24.3	25.4	23.4	24.2	24.4		

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	2年		
12	キレるか	優先席に高 校生が座っ ている	1. キレる	5.8	6.5	5.2	6.4	5.1
			2. キレそうになる	24.9	21.0	28.0	23.8	26.0
			3. キレない	69.3	72.5	66.8	69.8	68.9
		高校生の道 でタバコを 吸っている	1. キレる	5.1	4.9	5.3	6.4	3.8
			2. キレそうになる	15.3	13.0	17.2	16.2	14.4
			3. キレない	79.6	82.1	77.5	77.4	81.8
		悪いことをし ている人がつ かまらない	1. キレる	20.6	17.6	23.1	23.0	18.3
			2. キレそうになる	29.6	25.6	32.8	29.0	30.2
			3. キレない	49.8	56.8	44.1	48.1	51.5
		戦争で人がた いで	1. キレる	19.2	14.4	23.0	19.8	18.5
			2. キレそうになる	26.8	21.8	31.0	28.3	25.3
			3. キレない	54.0	63.8	46.0	51.9	56.2
13	家族との関係	父親と 話すこと について	1. よくある	18.7	15.1	21.7	19.0	18.4
			2. ときどきある	32.1	36.8	28.2	30.6	33.5
			3. あまりない	31.2	30.9	31.4	32.4	30.0
			4. ぜんぜんない	18.0	17.3	18.7	17.9	18.2
		母親と 話すこと について	1. よくある	43.9	27.3	57.4	44.3	43.4
			2. ときどきある	36.6	45.8	29.1	35.8	37.4
			3. あまりない	14.7	19.9	10.5	15.2	14.3
			4. ぜんぜんない	4.8	7.0	3.0	4.7	4.9
		勉強しなさい と言われること	1. よくある	26.3	28.4	24.6	27.9	24.7
			2. ときどきある	26.8	30.4	23.9	28.1	25.6
			3. あまりない	27.7	24.8	30.0	26.8	28.5
			4. ぜんぜんない	19.2	16.4	21.5	17.2	21.2
		親が自分のこと について 興味を 持つこと	1. よくある	5.5	3.8	6.9	5.6	5.4
			2. ときどきある	16.2	11.5	20.0	16.3	16.0
			3. あまりない	47.6	50.2	45.5	46.5	48.8
			4. ぜんぜんない	30.7	34.5	27.6	31.7	29.8
		病気などの 心配が 家族から 心で かかると 感じる	1. よくある	50.3	42.1	57.0	49.1	51.4
			2. ときどきある	35.9	41.7	31.2	37.6	34.3
			3. あまりない	10.5	12.7	8.8	10.0	11.1
			4. ぜんぜんない	3.2	3.5	3.0	3.3	3.2
		親から「男らしく」 とか「女らしく」 と言われること	1. よくある	10.4	3.8	15.9	10.3	10.6
			2. ときどきある	14.4	8.3	19.4	15.5	13.3
			3. あまりない	27.0	26.7	27.2	26.3	27.6
			4. ぜんぜんない	48.2	61.2	37.6	47.9	48.5
親から服装や ヘアスタイルを 注意される	1. よくある	9.9	7.6	11.8	10.9	8.8		
	2. ときどきある	21.5	17.0	25.2	23.9	19.1		
	3. あまりない	27.2	26.7	27.6	26.0	28.4		
	4. ぜんぜんない	41.4	48.7	35.5	39.2	43.6		
親からお金の使 い方やおこづかい について注意 される	1. よくある	13.1	12.5	13.6	13.6	12.5		
	2. ときどきある	25.9	28.6	23.7	27.3	24.4		
	3. あまりない	29.1	27.5	30.4	28.5	29.8		
	4. ぜんぜんない	32.0	31.5	32.3	30.6	33.3		
親が自分の友だち や生活に 干渉する	1. よくある	13.2	13.4	13.1	14.6	11.8		
	2. ときどきある	23.8	24.7	23.1	25.4	22.1		
	3. あまりない	32.5	32.2	32.7	31.3	33.7		
	4. ぜんぜんない	30.5	29.7	31.1	28.7	32.3		
親の自分への期待 が大きい精神的に 負担を感じる	1. よくある	9.3	9.3	9.3	9.4	9.2		
	2. ときどきある	18.8	17.3	20.1	19.9	17.7		
	3. あまりない	32.9	36.4	30.1	32.9	32.9		
	4. ぜんぜんない	39.0	37.1	40.5	37.8	40.1		

資料2 学年・性別集計表

質問項目			全 体	性 別		学 年 別		
				男 子	女 子	1 年	2 年	
13	家族との関係	家族の会話が少なく、人間関係がすまず	1. よくある	3.7	3.9	3.6	3.7	3.8
			2. ときどきある	9.9	10.1	9.7	9.8	10.0
			3. あまりない	34.3	37.9	31.4	35.4	33.1
			4. ぜんぜんない	52.1	48.1	55.3	51.0	53.2
		家の手伝いをすること	1. よくある	18.5	13.9	22.2	18.6	18.4
			2. ときどきある	40.7	37.5	43.3	39.8	41.6
			3. あまりない	29.2	34.0	25.4	28.8	29.7
			4. ぜんぜんない	11.6	14.5	9.1	12.8	10.3
		早く家を出て暮らしたい	1. よくある	37.7	39.9	35.9	39.3	36.0
			2. ときどきある	37.1	36.7	37.5	37.7	36.5
			3. あまりない	18.5	19.2	17.9	17.2	19.8
			4. ぜんぜんない	6.7	4.2	8.8	5.8	7.6
14	進路のことで感じる	将来、何をしたいのか	1. よくある	44.1	43.2	44.9	44.7	43.6
			2. ときどきある	31.7	30.6	32.6	30.8	32.6
			3. あまりない	14.1	14.3	14.0	14.4	13.8
			4. ぜんぜんない	10.1	12.0	8.5	10.2	10.0
		進路のこと、親と意見	1. よくある	11.6	11.0	12.2	11.2	12.1
			2. ときどきある	22.1	19.7	24.1	21.0	23.2
			3. あまりない	37.6	38.1	37.2	38.9	36.4
			4. ぜんぜんない	28.6	31.2	26.5	28.9	28.3
		大学受験がうまくいか心配	1. よくある	43.6	40.7	45.9	39.7	47.4
			2. ときどきある	22.6	23.4	21.8	25.6	19.5
			3. あまりない	10.5	11.7	9.6	13.1	7.9
			4. ぜんぜんない	23.4	24.2	22.7	21.6	25.2
		将来の就職がうまくいか心配	1. よくある	51.9	48.2	54.8	48.3	55.5
			2. ときどきある	30.1	28.9	31.2	30.2	30.1
			3. あまりない	11.9	14.7	9.6	15.0	8.7
			4. ぜんぜんない	6.1	8.2	4.4	6.6	5.6
		将来、経済的に豊かになりたい	1. よくある	53.2	56.5	50.5	52.6	53.8
			2. ときどきある	32.7	29.1	35.6	33.2	32.1
			3. あまりない	11.4	11.0	11.7	11.4	11.4
			4. ぜんぜんない	2.7	3.4	2.2	2.8	2.7
		日本が持たない希望	1. よくある	21.2	22.8	20.0	20.7	21.8
			2. ときどきある	33.7	31.2	35.7	34.5	32.9
			3. あまりない	34.8	33.4	35.9	34.1	35.5
			4. ぜんぜんない	10.3	12.6	8.4	10.7	9.8
自分の将来に希望	1. よくある	18.7	19.5	18.0	18.4	19.0		
	2. ときどきある	35.1	33.6	36.3	35.1	35.1		
	3. あまりない	32.9	31.3	34.3	32.8	33.1		
	4. ぜんぜんない	13.3	15.6	11.4	13.8	12.8		
15	気になること	定期試験の結果模	1. とても気になる	36.4	34.6	37.8	36.4	36.4
			2. わりと気になる	43.9	44.2	43.6	42.5	45.3
			3. あまり気にならない	15.6	14.5	16.5	17.6	13.6
			4. ぜんぜん気にならない	4.2	6.7	2.1	3.6	4.8
		友だちから信頼されているか	1. とても気になる	34.2	30.2	37.5	36.4	32.1
			2. わりと気になる	41.8	40.1	43.2	40.4	43.3
			3. あまり気にならない	19.5	23.6	16.2	19.3	19.7
			4. ぜんぜん気にならない	4.5	6.1	3.1	3.9	5.0
		友だちが自分の悪口を言っていないか	1. とても気になる	31.7	28.9	34.0	33.5	29.9
			2. わりと気になる	37.1	36.8	37.4	36.6	37.6
			3. あまり気にならない	24.0	26.0	22.4	24.0	24.1
			4. ぜんぜん気にならない	7.1	8.3	6.2	5.9	8.4

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	2年		
15	気にならぬところ	が彼氏(彼女)できない(彼女)	1. とても気になる	16.6	22.5	11.7	18.9	14.3
			2. わりと気になる	24.5	24.7	24.3	23.7	25.2
			3. あまり気にならない	34.2	30.0	37.6	34.6	33.7
			4. ぜんぜん気にならない	24.8	22.9	26.4	22.8	26.8
		異性の興味・関心の体への	1. とても気になる	18.4	31.2	8.0	19.7	17.1
			2. わりと気になる	28.4	38.0	20.5	27.4	29.3
			3. あまり気にならない	38.9	24.4	50.6	37.5	40.3
			4. ぜんぜん気にならない	14.3	6.4	20.9	15.4	13.3
		自分の口鼻や体のおい	1. とても気になる	14.6	15.0	14.3	14.0	15.3
			2. わりと気になる	40.9	38.1	43.1	41.0	40.7
			3. あまり気にならない	34.5	35.5	33.7	35.2	33.8
			4. ぜんぜん気にならない	10.0	11.4	8.9	9.8	10.2
	自分のスタイル	1. とても気になる	34.5	25.7	41.6	35.0	33.9	
		2. わりと気になる	44.9	41.7	47.5	45.7	44.1	
		3. あまり気にならない	16.7	24.7	10.2	15.8	17.6	
		4. ぜんぜん気にならない	4.0	7.8	0.8	3.5	4.4	
	出かけるとき髪型や服装	1. とても気になる	37.9	27.9	46.1	38.6	37.2	
		2. わりと気になる	45.8	46.5	45.3	47.3	44.2	
		3. あまり気にならない	13.2	19.6	8.1	11.2	15.3	
		4. ぜんぜん気にならない	3.1	6.1	0.6	2.8	3.3	
	アダルトビデオやポルノ雑誌	1. とても気になる	11.9	23.4	2.4	11.5	12.2	
		2. わりと気になる	21.2	35.4	9.6	21.7	20.8	
		3. あまり気にならない	38.0	32.4	42.6	37.5	38.5	
		4. ぜんぜん気にならない	28.9	8.8	45.4	29.4	28.5	
16	不安や悩みの相談相手	友だちとのトラブル	1. 友だち	75.9	70.4	80.5	75.1	76.7
			2. 親	4.1	2.0	5.9	4.9	3.3
			3. 親以外の家族や親戚の人	1.8	0.6	2.8	2.1	1.6
			4. 先生	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
			5. 先輩	0.5	0.7	0.4	0.8	0.3
			6. 相談機関	0.2	0.4	0.0	0.2	0.1
			7. その他	1.6	1.3	1.8	1.3	1.9
			8. 誰にも相談しない	15.6	24.4	8.5	15.4	15.8
	友だちからいじめられたとき	1. 友だち	51.3	48.6	53.5	51.0	51.7	
		2. 親	12.0	5.8	17.1	14.4	9.6	
		3. 親以外の家族や親戚の人	2.0	0.7	3.1	2.0	2.1	
		4. 先生	1.7	2.9	0.7	1.1	2.3	
		5. 先輩	1.2	1.7	0.8	1.0	1.4	
		6. 相談機関	0.3	0.6	0.1	0.2	0.4	
		7. その他	4.5	5.3	3.9	4.3	4.8	
		8. 誰にも相談しない	26.8	34.3	20.8	26.0	27.7	
	異性の友だちができない	1. 友だち	59.2	58.7	59.5	58.7	59.6	
		2. 親	0.8	0.7	0.9	1.2	0.4	
		3. 親以外の家族や親戚の人	0.7	0.4	0.9	1.0	0.3	
		4. 先生	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	
		5. 先輩	1.0	1.6	0.5	0.7	1.3	
		6. 相談機関	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	
		7. その他	2.6	2.3	2.8	2.8	2.3	
		8. 誰にも相談しない	35.7	36.0	35.4	35.5	35.8	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全 体	性 別		学 年 別		
			男 子	女 子	1 年	2 年	
不安 や 悩 み の 相 談 手	異性の体への興味・関心	1. 友だち	61.2	67.4	56.2	60.2	62.3
		2. 親	0.8	0.5	1.0	1.0	0.6
		3. 親以外の家族や親戚の人	0.6	0.4	0.8	0.9	0.3
		4. 先生	0.1	0.2	0.0	0.1	0.1
		5. 先輩	1.0	1.3	0.7	0.8	1.2
		6. 相談機関	0.1	0.2	0.0	0.2	0.0
		7. その他	3.0	1.7	4.1	3.1	3.0
		8. 誰にも相談しない	33.1	28.2	37.2	33.8	32.5
	自分の口臭や体にお	1. 友だち	23.2	28.7	18.7	22.3	24.1
		2. 親	21.0	10.1	29.9	21.8	20.2
		3. 親以外の家族や親戚の人	4.6	1.7	6.9	4.2	5.0
		4. 先生	0.3	0.4	0.2	0.3	0.2
		5. 先輩	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2
		6. 相談機関	0.4	0.2	0.5	0.5	0.2
		7. その他	2.6	3.2	2.2	2.5	2.8
		8. 誰にも相談しない	47.7	55.5	41.4	48.2	47.2
	自分の容姿やスタイル	1. 友だち	51.3	45.3	56.3	50.7	52.0
		2. 親	11.7	4.8	17.4	12.4	11.0
		3. 親以外の家族や親戚の人	5.0	2.9	6.7	5.7	4.3
		4. 先生	0.2	0.2	0.1	0.3	0.0
		5. 先輩	0.4	0.6	0.2	0.4	0.3
		6. 相談機関	0.1	0.2	0.0	0.2	0.0
		7. その他	2.3	2.4	2.1	1.7	2.8
		8. 誰にも相談しない	29.0	43.5	17.3	28.5	29.6
自分の髪型や服装が似	1. 友だち	56.6	52.1	60.3	57.3	55.9	
	2. 親	9.2	4.3	13.3	9.3	9.2	
	3. 親以外の家族や親戚の人	7.5	4.2	10.3	7.2	7.9	
	4. 先生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	5. 先輩	0.5	0.7	0.3	0.7	0.3	
	6. 相談機関	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	
	7. その他	2.6	2.9	2.3	2.4	2.8	
	8. 誰にも相談しない	23.4	35.7	13.5	23.0	23.9	
成績が落ちた	1. 友だち	37.5	36.9	38.0	40.7	34.0	
	2. 親	22.2	15.3	27.8	23.8	20.4	
	3. 親以外の家族や親戚の人	3.4	2.7	4.0	3.0	3.7	
	4. 先生	5.3	6.0	4.8	3.2	7.5	
	5. 先輩	1.1	1.2	1.0	1.0	1.2	
	6. 相談機関	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	7. その他	2.2	2.6	1.9	2.4	2.0	
	8. 誰にも相談しない	28.2	35.2	22.5	25.6	30.8	
将来何をしたらいい	1. 友だち	34.9	31.3	37.9	33.1	36.7	
	2. 親	31.6	25.8	36.4	33.8	29.4	
	3. 親以外の家族や親戚の人	3.6	2.8	4.3	3.8	3.4	
	4. 先生	4.3	4.8	3.9	2.3	6.3	
	5. 先輩	1.6	2.2	1.1	1.4	1.8	
	6. 相談機関	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	
	7. その他	2.6	3.3	2.0	2.2	3.0	
	8. 誰にも相談しない	21.2	29.6	14.3	23.1	19.2	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	2年		
16	不安や悩みの相談相手	親の希望と異なる進路選 択を考えると	1. 友だち	34.1	23.1	43.1	34.3	33.9
			2. 親	18.7	20.3	17.5	18.8	18.6
			3. 親以外の家族や親戚の人	5.6	3.8	7.0	5.8	5.4
			4. 先生	9.6	9.8	9.3	8.2	10.9
			5. 先輩	1.1	1.2	0.9	0.8	1.3
			6. 相談機関	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1
			7. その他	4.0	4.2	3.8	3.5	4.5
			8. 誰にも相談しない	26.8	37.5	18.1	28.4	25.2
	めりやりのものが欲しい打ち込	1. 友だち	50.4	48.8	51.8	51.0	49.9	
		2. 親	8.7	6.6	10.3	9.5	7.8	
		3. 親以外の家族や親戚の人	2.1	1.3	2.8	2.5	1.8	
		4. 先生	0.8	1.3	0.4	0.7	1.0	
		5. 先輩	1.8	1.6	2.0	1.6	2.0	
		6. 相談機関	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	
		7. その他	4.2	3.4	4.8	3.6	4.8	
		8. 誰にも相談しない	31.8	36.6	27.8	30.9	32.7	
	生きる目的が見つからない	1. 友だち	37.7	33.7	40.9	36.9	38.4	
		2. 親	15.2	12.0	17.7	15.7	14.7	
		3. 親以外の家族や親戚の人	2.0	0.9	3.0	2.2	1.9	
		4. 先生	1.1	1.3	0.9	0.7	1.6	
		5. 先輩	1.3	1.3	1.2	1.0	1.6	
		6. 相談機関	0.3	0.6	0.1	0.5	0.1	
		7. その他	3.9	4.4	3.5	3.4	4.4	
		8. 誰にも相談しない	38.5	45.6	32.7	39.6	37.3	
17	気持ちはなるか(3つ回答) どのような場所にいるときに 安らいだ	1. 教室	10.6	8.7	12.1	10.4	10.7	
		2. 保健室	3.5	2.8	4.0	3.9	3.0	
		3. 図書室	6.3	5.3	7.2	6.9	5.8	
		4. 部室	8.4	9.6	7.4	8.3	8.4	
		5. 校庭や体育館	2.4	3.8	1.3	1.9	3.0	
		6. 自分の家	60.4	55.4	64.5	60.7	60.1	
		7. 自分の部屋	75.3	75.7	75.0	75.1	75.4	
		8. 家族がみんな集まる部屋	25.9	17.8	32.5	25.4	26.5	
		9. 友だちの部屋	19.3	20.4	18.5	20.2	18.5	
		10. 塾や予備校	0.9	1.6	0.4	1.1	0.8	
		11. コンビニ	5.1	7.2	3.3	4.7	5.4	
		12. カラオケやゲームセンター	6.7	8.6	5.2	6.4	7.1	
		13. 路上や人ごみの中	2.3	2.0	2.5	2.4	2.1	
		14. 自然(海、山、川など)	46.4	49.9	43.5	44.5	48.3	
		15. その他	14.5	16.1	13.2	15.8	13.2	
18	心に残ったもの	ジャンル	1. 本や雑誌	17.1	13.3	20.1	16.3	17.8
			2. マンガ	10.0	12.5	8.1	11.2	8.8
			3. テレビ	10.4	8.5	11.9	9.2	11.5
			4. 映画	19.7	19.8	19.6	16.1	23.3
			5. 音楽	17.4	17.7	17.1	18.1	16.7
			6. その他	3.8	4.1	3.6	4.2	3.5
	(複数回答)か	7. 特に心に残ったものはない	21.6	24.1	19.7	24.9	18.4	
		1. 自分のやりたいこと(理想)がわかった	14.2	15.0	13.5	16.8	11.7	
		2. 自分のことがよくわかった	5.9	6.2	5.8	6.5	5.4	
		3. もっとがんばろうという元気がでた	40.0	36.5	42.7	38.9	41.0	
		4. 気分転換になった・おもしろかった	50.5	52.1	49.1	51.1	49.9	
		5. 今まで知らなかったこと(知識)を知った	29.1	30.0	28.4	29.3	29.0	
6. その他	12.6	13.0	12.3	13.9	11.3			

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全 体	性 別		学 年 別		
			男 子	女 子	1 年	2 年	
19	部活動を しているか	1. 運動部に入って熱心に活動している	30.0	41.0	21.0	30.6	29.4
		2. 運動部に入っているがあまり熱心に活動していない	21.0	22.8	19.5	23.0	18.9
		3. 文化部に入って熱心に活動している	10.7	5.5	15.0	10.6	10.8
		4. 文化部に入っているがあまり熱心に活動していない	17.3	7.9	25.1	19.2	15.5
		5. 以前入っていたが、今は入っていない	15.1	16.3	14.1	11.3	18.9
		6. 入ったことがない	4.8	5.6	4.1	4.2	5.3
		7. その他	1.1	1.0	1.3	1.1	1.2
20	アルバイト	1. している	10.6	10.3	10.9	8.3	13.0
		2. 以前にしたことがあるが、今はしていない	24.3	23.1	25.3	20.8	27.9
		3. したことがない	65.1	66.6	63.8	70.9	59.1
21	クラスでの 成績	1. 上	9.0	8.8	9.1	10.1	7.9
		2. 中の上	22.1	16.5	26.8	21.4	22.8
		3. 中	27.4	24.7	29.7	27.2	27.7
		4. 中の下	23.3	26.6	20.6	23.7	22.8
		5. 下	18.2	23.4	13.9	17.5	18.8
22	卒業後の 進路希望	1. 就職	13.3	16.2	11.0	11.5	15.1
		2. 家業・家の手伝い	0.1	0.3	0.0	0.0	0.2
		3. 専修・専門学校	17.4	12.5	21.4	17.9	16.9
		4. 短期大学	4.7	0.8	7.9	4.2	5.2
		5. ふつうの私立4年制大学	11.8	11.1	12.3	9.4	14.2
		6. 難しい私立4年制大学	3.3	4.5	2.3	3.1	3.5
		7. 国公立4年制大学	35.3	41.9	30.0	37.7	32.9
		8. その他	2.9	4.0	2.0	2.7	3.0
		9. まだ決めていない	11.2	8.8	13.2	13.4	9.0
23	母親の 仕事	1. 常勤（フルタイム）の仕事	33.2	35.4	31.3	33.3	33.0
		2. パートタイムの仕事	26.0	23.9	27.7	25.7	26.2
		3. 自営業（家業手伝いも含む）	13.1	13.0	13.1	11.0	15.2
		4. 家での仕事	7.3	7.7	7.0	7.9	6.7
		5. 専業主婦	17.2	16.5	17.7	17.8	16.5
		6. その他	3.3	3.6	3.1	4.3	2.3
24	きょう だい数	1. 1人（きょうだいはいない）	4.8	5.7	4.0	4.3	5.2
		2. 2人	45.0	43.9	45.9	45.1	44.9
		3. 3人	41.2	42.2	40.4	40.7	41.7
		4. 4人	7.0	6.4	7.5	8.2	5.8
		5. 5人以上	2.0	1.8	2.2	1.6	2.4